

令和 6 年 度

社会福祉法人東京かたばみ会
事 業 報 告

社会福祉法人東京かたばみ会

目 次

I	法人本部	1
第1	経営理念及び経営方針	1
第2	総 括	2
第3	法人が実施する事業	3
第4	重点事項への取組	6
第5	監事監査の状況	8
第6	実績報告	8
II	調布八雲苑	14
第1	総 括	14
第2	経営実績	15
第3	課別事業報告	16
1	管理課	16
2	福祉課	21
3	高齢者在宅サービスセンター	25
III	神代の杜	31
第1	総 括	31
第2	経営実績	32
第3	事業報告	32
IV	調布市ちょうふの里	40
第1	総 括	40
第2	経営実績	40
第3	課別事業報告	41
1	管理課	41
2	福祉課	48
3	高齢者在宅サービスセンター（通所部門）	53
4	高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）	56
5	地域支援課	58
V	上布田保育園	63
第1	総 括	63
第2	経営実績	64
第3	事業報告	64
VI	調布なないろ保育園	78
第1	総 括	78
第2	経営実績	79
第3	事業報告	79
VII	放課後児童部門	90
第1	総 括	90
第2	経営実績	91
第3	事業所別事業報告	93

I 法人本部

第1 経営理念及び経営方針

本法人の経営理念及び経営方針は、次のとおりである。令和6年度についても、前年度に引き続き経営理念及び経営方針に基づき事業を展開した。

社会福祉法人東京かたばみ会経営理念

私たち社会福祉法人東京かたばみ会は、介護・支援・保育・育成を必要とする地域住民に対して、一人ひとりが安心でき、価値あるものと受けとめられるサービスを提供することにより、法人の各施設が「選ばれる施設」になることを目指します。

そのために、人間愛をベースとし、職員の専門的知識・技術の更なる向上を図り、質の高いサービスを提供します。

また、老人福祉施設と児童福祉施設という世代間交流のできる環境を活用します。

更に、これまでの地域の信頼と共感を大切にします。

社会福祉法人東京かたばみ会経営方針

1 地域への貢献

地域社会の一員としての自覚を持ち、保健・医療など関連機関との連携を強化し、地域福祉の貢献に努める。

2 自立支援・健全育成

利用者一人ひとりのニーズと意志を尊重し、自立の支援と生活の質の向上に努める。また、乳幼児及び児童が心身ともに健やかに育成されるよう努める。

3 人材育成・専門性の向上

新たな視点で「観て、考えて、行動」する幅広い視野を持った自立的な職員の育成を図るため、専門性の向上に努める。

4 経営の透明化

情報公開を積極的に行い、法人に対する信頼と理解を得られるよう努める。

5 経営の安定

質の高い総合的なサービスを継続して提供していくために、経営の安定化を図る。

第2 総 括

令和6年度は、中期経営計画4年目として、各施策を着実に推進するとともに、新たな事業展開にも取り組んだ。児童福祉分野では、児童館の運営を開始し地域福祉の充実を図るとともに、保育所、学童クラブ及び放課後子供教室事業の拡大に対応するため、関連施設を統括する新部門を設置。更に、令和8年度に開設予定の公私連携型保育所の準備体制を整え、組織と人員体制を強化した。

また、高齢者福祉部門においては、一部施設で経営状況の悪化が見られたが、法人本部において状況を的確に把握し、必要な支援策を講じることにより、運営の安定化と課題の是正に努めた。

以上のとおり、令和6年度は、中期経営計画に基づく計画的な取り組みの推進に加え、事業基盤の強化と組織運営の安定化を図るための施策を幅広く展開した一年であったと総括する。

なお、現在の法人の事業規模は下表のとおりである。

事業所名		事業種別	事業開始 年月日	定 員 (人)	職員数 (人)
高 齢 者 部 門	調布八雲苑	特別養護老人ホーム	S62. 9. 1	64	81
		通所介護	S62.10. 1	37	
		居宅介護支援（公益事業）	H12. 4. 1	—	
	調布市ちょうふの里	特別養護老人ホーム	H 8. 6. 1	100	198
		短期入所生活介護	H 8. 6. 1	20	
		通所介護	H 8. 6. 1	52	
		調布市一般施策等（入浴・配食）	H 8. 6. 1	—	
		居宅介護支援（公益事業）	H12. 4. 1	—	
		地域包括支援センター（公益事業）	H18. 4. 1	—	
		訪問介護（老人居宅介護等事業）	H12. 4. 1	—	
		訪問介護（障害福祉サービス事業）	H18.10. 1	—	
	神代の杜	特別養護老人ホーム（地域密着型）	H24. 9. 1	29	33
		短期入所生活介護	H24.10. 1	3	
児 童 部 門	上布田保育園	保育所	H 7. 4. 1	90	46
	調布なないろ保育園	保育所	H20.10. 1	100	41
		一時預かり事業	H20.10. 1	5	
	調布市立なないろ第1学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H20.10. 1	50	13
	調布市立なないろ第2学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H27. 4. 1	40	
	調布市立わかば学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H21.10. 1	70	12
	調布市立多摩川小学校学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H27. 4. 1	60	11

調布市立かみいしわら第1学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H31. 1. 15	50	17
調布市立かみいしわら第2学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H31. 1. 15	50	
調布市立あおば学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H31. 4. 1	55	8
調布市立多摩川児童館学童クラブ	放課後児童健全育成事業	R 5. 4. 1	60	11
調布市立第三小学校学童クラブ	放課後児童健全育成事業	R 5. 4. 1	50	11
調布市立東部児童館学童クラブ	放課後児童健全育成事業	R 7. 4. 1	50	5
調布市立多摩川児童館	児童厚生施設・地域子育て支援拠点事業	R 6. 4. 1	—	6
調布市立若葉小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業（公益事業）	H27. 4. 1	—	54
調布市立富士見台小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業（公益事業）	H27. 4. 1	—	
調布市立多摩川小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業（公益事業）	H27. 4. 1	—	
調布市立第三小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業（公益事業）	H27. 4. 1	—	
調布市立飛田給小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業（公益事業）	H27. 4. 1	—	
調布市立石原小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業（公益事業）	H27. 4. 1	—	
合 計			—	547
事業内容及び職員数は、令和7年4月1日現在。職員数には有期契約職員、派遣職員等を含む。法人本部、新園開設準備室の職員数は、調布八雲苑に含めている。 なお、職員数の内訳は、正規職員239人、非正規職員308人となっている。				

第3 法人が実施する事業

本法人は、令和7年3月31日現在、次に記載する社会福祉事業及び公益事業を行っている。

1 調布八雲苑

(1) 特別養護老人ホーム調布八雲苑

社会福祉法（昭和26年法律第45号、以下「社会福祉法」という。）第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

(2) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の4第1項第1号ロに規定す

る介護予防事業（第1号通所事業）

(3) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

(4) 調布八雲苑指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

2 神代の杜

(1) 特別養護老人ホーム神代の杜

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

(2) 老人短期入所事業神代の杜

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

3 調布市ちょうふの里

(1) 特別養護老人ホームちょうふの里

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

(2) 老人短期入所事業ちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

(3) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号ロに規定する介護予防事業（第1号通所事業）

(4) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事

業) 及びこれと一体的に行われている介護保険法第 8 条の 2 第 1 3 項に規定する介護予防サービス

(5) ちょうふの里指定訪問介護事業所

社会福祉法第 2 条第 3 項第 4 号 (第 2 種社会福祉事業) に規定する老人居宅介護等事業 (介護保険法第 8 条第 2 項に規定する訪問介護事業) 及びこれと一体的に行われている介護保険法第 1 1 5 条の 4 5 第 1 項第 1 号イに規定する介護予防事業 (第 1 号訪問事業)

(6) ちょうふの里指定訪問介護事業所 (障害福祉サービス事業)

社会福祉法第 2 条第 3 項第 4 号の 2 (第 2 種社会福祉事業) に規定する障害福祉サービス事業 (障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (平成 1 7 年法律第 1 2 3 号、以下「障害総合支援法」という。) 第 5 条第 2 項に規定する居宅介護)

(7) ちょうふの里指定居宅介護支援事業所

介護保険法第 8 条第 2 4 項に規定する指定居宅介護支援事業 (公益事業)

(8) 調布市地域包括支援センターちょうふの里

介護保険法第 1 1 5 条の 4 6 に規定する地域包括支援センター (公益事業)

(9) 調布市地域包括支援センターちょうふの里 (指定介護予防支援事業所)

介護保険法第 1 1 5 条の 4 5 第 1 項第 1 号ニに規定する介護予防支援事業 (第 1 号介護予防支援事業) (公益事業)

4 上布田保育園

社会福祉法第 2 条第 3 項第 2 号 (第 2 種社会福祉事業) に規定する保育所 (子ども・子育て支援法 (平成 2 4 年法律第 6 5 号) 第 7 条第 4 項に規定する教育・保育施設)

5 調布なないろ保育園

社会福祉法第 2 条第 3 項第 2 号 (第 2 種社会福祉事業) に規定する保育所 (子ども・子育て支援法第 7 条第 4 項に規定する教育・保育施設) 及びこれと一体的に行われている子ども・子育て支援法第 5 9 条第 1 項に規定する地域子ども・子育て支援事業である一時預かり事業 (第 2 種社会福祉事業)

6 調布市立学童クラブ (調布市立なないろ第 1・第 2 学童クラブ、調布市立わかば学童クラブ、調布市立多摩川小学校学童クラブ、調布市立かみいしわら第 1・第 2 学童クラブ、調布市立あおば学童クラブ、調布市立多摩川児童館学童クラブ及び調布市立第三小学校学童クラブ)

社会福祉法第 2 条第 3 項第 2 号 (第 2 種社会福祉事業) に規定する放課後児童

健全育成事業（子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業）

7 調布市放課後子供教室事業（調布市立若葉小学校放課後子供教室事業、調布市立富士見台小学校放課後子供教室事業、調布市立多摩川小学校放課後子供教室事業、調布市立第三小学校放課後子供教室事業、調布市立飛田給小学校放課後子供教室事業及び調布市立石原小学校放課後子供教室事業）

「調布市放課後子供教室事業実施要綱（平成27年4月1日要綱第77号）」に基づく調布市放課後子供教室事業（公益事業）

8 調布市立児童館（調布市立多摩川児童館）

社会福祉法第2条第3項第39号に規定する児童厚生施設（子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業）

9 調布市地域子育て支援拠点事業（調布市立多摩川児童館）

社会福祉法第2条第3項第4号に規定する地域子育て支援事業（子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業）

※ 上記の「第3 法人が実施する事業」は、従来は、決算報告書の「計算書類に対する注記（法人全体用）」に、法人が実施する社会福祉事業区分における拠点区分及びサービス区分の内容として、事業の根拠となる法律の条項や委託事業の条例等を記載していたが、「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運営上の取扱いについて（平成28年3月31日 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長連名通知）」に基づき、当該注記への記載方法については、拠点区分及びサービス区分のみを列挙する方法へ変更したことから、決算報告書の「計算書類に対する注記」への記載に替えて、本事業報告書に記載するようにしたのである。

第4 重点事項への取組

1 中期経営計画の着実な推進

令和3年度から令和7年度までを計画期間とする中期経営計画の4年目にあたる令和6年度においては、各拠点が計画に掲げる経営戦略の実現に向けた取り組みを継続し、進行状況については、毎月の経営会議での共有に加え、計画策定時から継続して支援を受けているコンサルタントからの助言も得ながら、PDCAサイクルに基づく進行管理を行った。

また、年度を通じて各施設の進捗状況の年次評価を実施し、理事会及び定時評議員会に報告を行ったほか、業績や課題の状況に応じて、法人本部が必要な支援や調整を行うなど、計画達成に向けた取り組みを着実に進めた。

2 法人内業務の統一化・効率化

法人本部が中期経営計画に掲げるテーマの一つである「本部機能の明確化」の取り組みとして、法人内業務の統一化・効率化に向けたシステム導入検討プロジェクトチームを立ち上げ検討を行い、令和6年11月に全施設共通の出退勤システムにリニューアルした。今後は、休暇や残業の電子申請を標準化し、紙ベース申請からの完全移行を目指すとともに、出退勤システムと連動する給与システムについて、令和7年度中の導入を目途に、引き続きプロジェクトチームでの検討を進めていくこととしている。

3 児童館の円滑な運営

調布市では、児童館の民間活力の活用方針に基づき、令和2年度から令和8年度までの7年間で、市内11か所の児童館のうち7か所を、公設民営による「地域型児童館」として民間事業者に委託することとしている。

この方針に沿って、児童館の民間委託が順次進められている中、調布市立多摩川児童館については、当該地域の学童クラブ等を本法人が受託運営している経緯から、令和5年度には多摩川児童館学童クラブの運営を先行して受託し、令和6年度からは本法人として初めて児童館運営を開始した。

このため、児童館の設置主体である調布市と密接に連携・協力しながら、地域とのつながりや良好な関係を築き、円滑な運営に努めるとともに、これまで本法人が培ってきた児童対応のノウハウや行事・イベントの企画力、更には本法人の特色を生かし、幅広い世代が交流できる場の提供に努め、児童館の魅力を積極的に発信した。

4 児童部門の事業拡大に向けた取組

本法人が、経営理念及び経営方針に基づく事業運営を継続し、社会福祉法人としての役割を果たしていくためには、内部努力を重ねるとともに、調布市における高齢者福祉施策や子ども・子育て支援施策の動向を注視し、法人としての積極的に意見を述べつつ、市との協力体制の維持・強化に努めることが重要である。

とりわけ、保育園や児童館については、調布市から民間活力の活用方針が示されており、公私連携型保育所への移行や児童館（併設学童クラブを含む）の民間委託が順次進められている。

本法人においても、調布市からの依頼を受け、令和6年4月から調布市立多摩川児童館、令和7年4月からは調布市立東部児童館学童クラブの受託運営をそれぞれ開始するとともに、令和8年度からは、2箇所目の児童館となる調布市立東部児童館を受託経営するほか、調布市立宮の下保育園を公私連携型保育所へ移行し、本法人が新たな保育園を設置、運営することが決まっている。

本法人では、児童部門（保育園、学童クラブ・児童館・放課後子供教室事業）の事業拡大に対応するため、これらを統括する「こども統括室」を令和6年4月に新設し室内に新園の開設準備担当を配置するなど、組織及び人員体制を強化した。

第5 定款第18条及び第32条に基づく令和6年度に対する監事監査の状況

令和7年5月13日、吉田監事及び大槻監事により、理事の業務の執行状況並びに事業報告及び決算報告について実施された。監事監査報告書は、令和6年度決算報告書の1ページのとおりである。

第6 実績報告

1 理事会の開催状況

理事会については、本法人定款細則第15条の規定に基づき年7回開催した。理事会の開催状況、決議及び承認事項は、次のとおりである。

第1回理事会	1 開催日 令和6年5月27日 理事及び監事の全員から、書面により同意を得て、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第94条に基づき、理事会招集手続きの省略の手続により開催 2 出席者 (1) 理事（総数5人（1人欠員）） 出席 5人 (2) 監事（総数2人） 出席 2人 3 議事 決議及び承認事項（数字は議案番号） 2件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ① 欠員に伴う社会福祉法人東京かたばみ会理事候補者の選任について ② 令和6年度社会福祉法人東京かたばみ会臨時評議員会の招集について
第2回理事会	1 開催日 令和6年5月27日 理事及び監事の全員から、書面により同意を得て、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第94条に基づき、理事会招集手続きの省略の手続により開催 2 出席者 (1) 理事（総数6人） 出席 6人 (2) 監事（総数2人（1人欠員）） 出席 1人 3 議事 決議及び承認事項（数字は議案番号） 1件の議案を審議し、荻原久男理事が理事長に選定された。 ③ 欠員に伴う社会福祉法人東京かたばみ会理事長の選定について

第 3 回 理 事 会	1 開催日 令和6年6月6日 2 出席者 (1) 理事（総数6人） 出席 4人 (2) 監事（総数2人（1人欠員）） 出席 1人 3 議事 (1) 報告事項 ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について イ 新園の開設準備進捗状況について (2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 1 2件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ④ 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告の承認について ⑤ 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について ⑥ 令和6年度夏期賞与の総原資の決定について ⑦ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員等処遇改善加算手当支給規程の一部改正について ⑧ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員等特定処遇改善加算手当支給規程の一部改正について ⑨ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員等処遇改善新加算手当支給規程の制定について ⑩ 社会福祉法人東京かたばみ会給与規程の一部改正について ⑪ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について ⑫ 役員等賠償責任保険契約の締結について ⑬ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会役員候補者の選任について ⑭ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員候補者の選任について ⑮ 令和6年度社会福祉法人東京かたばみ会定時評議員会の招集について
第 4 回 理 事 会	1 開催日 令和6年6月27日 2 出席者 (1) 理事（総数6人） 出席 4人 (2) 監事（総数2人） 出席 2人 3 議事 決議及び承認事項（数字は議案番号） 1 件の議案を審議し、丸田繁樹理事が常務理事に選定された。 ⑩ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会常務理事の選定について
第 5 回 理 事 会	1 開催日 令和6年9月26日 2 出席者 (1) 理事（総数6人） 出席 6人 (2) 監事（総数2人）

	出席 2人 3 議 事 決議及び承認事項（数字は議案番号） 3件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ⑰ 調布八雲苑食事調理業務委託契約の締結について ⑱ 調布八雲苑エレベーター改修工事請負契約の締結について ⑲ 令和6年度社会福祉法人東京かたばみ会収支補正予算（第1次）について
第6回理事会	1 開催日 令和6年11月21日 2 出席者 (1) 理 事（総数6人） 出席 5人 (2) 監 事（総数2人） 出席 2人 3 議 事 (1) 報告事項 ア 理事長及び常務理事の業務執行状況について イ 中期経営計画の取組状況（令和6年度上半期）について ウ 新園の開設準備進捗状況について (2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 10件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ⑳ 調布八雲苑指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について ㉑ 社会福祉法人東京かたばみ会保育士等処遇改善等加算手当支給規程の一部改正について ㉒ 社会福祉法人東京かたばみ会技能・経験に応じた保育士等処遇改善加算手当支給規程の一部改正について ㉓ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員・介護支援専門員居住支援特別手当支給規程の制定について ㉔ 社会福祉法人東京かたばみ会保育従事職員宿舍借り上げ制度規程の制定について ㉕ 社会福祉法人東京かたばみ会給与規程の一部改正について ㉖ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について ㉗ 令和6年度冬期賞与の総原資の決定について ㉘ 調布市立東部児童館の運営業務受託について ㉙ 調布なないろ保育園施設長の選任及び解任について
第7回理事会	1 開催日 令和7年3月27日 2 出席者 (1) 理 事（総数6人） 出席 5人 (2) 監 事（総数2人） 出席 2人 3 議 事 (1) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 21件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ㉚ 専決処分の承認について

	③① 令和 6 年度社会福祉法人東京かたばみ会収支補正予算（第 2 次）について ③② 調布市立学童クラブ運営規程の一部改正について ③③ 放課後児童部門組織規程の一部改正について ③④ 社会福祉法人東京かたばみ会経理規程の一部改正について ③⑤ 社会福祉法人東京かたばみ会就業規則の一部改正について ③⑥ 社会福祉法人東京かたばみ会育児休業等に関する規程の一部改正について ③⑦ 社会福祉法人東京かたばみ会介護休業、介護のための時間外労働及び深夜業の制限並びに介護短時間勤務に関する規程の一部改正について ③⑧ 社会福祉法人東京かたばみ会給与規程の一部改正について ③⑨ 社会福祉法人東京かたばみ会通勤手当に関する規程の制定について ④① 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について ④② 調布八雲苑運営規程の一部改正について ④③ 調布八雲苑食事調理業務委託契約の締結について ④④ 調布市ちょうふの里自動車運送業務委託業者との業務委託契約の締結について ④⑤ 調布市ちょうふの里電動リモートコントロールベッドのリース契約の締結について ④⑥ 新園の建設について ④⑦ 新園の建設資金調達計画について ④⑧ 上布田保育園拠点区分積立金の取り崩しについて ④⑨ 調布なないろ保育園拠点区分積立金の取り崩しについて ④⑩ 令和 7 年度社会福祉法人東京かたばみ会事業計画について ④⑪ 令和 7 年度社会福祉法人東京かたばみ会収支予算について (2) 諸報告 各事業所事業実施状況について
--	---

2 評議員会の開催状況

令和 6 年度は、定時評議員会のほか臨時評議員会を 1 回開催した。

開催状況は、次のとおりである。

臨時評議員会	1 開催日 令和 6 年 5 月 2 7 日 評議員の全員から、書面により同意を得て、社会福祉法第 4 5 条の 9 第 1 0 項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 1 8 3 条に基づき、召集の手続きを経ることなく開催 2 出席者 (1) 評議員（定数 7 人） 出席 4 人 (2) 監 事（定数 2 人） 出席 2 人 (3) 常務理事 3 議 事 決議及び承認事項（数字は議案番号） 1 件の議案を審議し、原案のとおり議決した。 ① 欠員に伴う社会福祉法人東京かたばみ会理事の選任について
--------	---

定 時 評 議 員 会	1 開催日 令和6年6月27日 2 出席者 (1) 評議員（定数7人） 出席 6人 (2) 監 事（定数2人） 出席 2人 (3) 理事長、常務理事、他理事1人 3 議 事 (1) 報告事項 ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について イ 新園の開設準備進捗状況について ウ 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告について (2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 2件の議案を審議し、原案のとおり議決した。 ② 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について ③ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会役員の選任について
----------------------------	---

3 評議員選任・解任委員会の開催状況

評議員の退任に伴い、次のとおり評議員選任・解任委員会を開催し、1件の議案を審議した。（委員会回数及び議案番号は、委員会発足時からの通算）

第 7 回 評 議 員 選 任 ・ 解 任 委 員 会	1 開催日 令和6年6月21日 2 出席者 委 員（定数3人、総数3人） 出席 3人 3 議 事 審議議案（数字は議案番号） 次の議案を審議し、原案のとおり議決した。 ⑦ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員の選任について
--	--

評議員選任・解任委員会委員名簿

（令和7年3月31日現在・敬称略）

選任区分	氏 名	備 考
外部委員	小笠原 寿弘	調布市社会福祉事業団事務局長・総合施設長
監 事	吉田 育子	法人監事
事務局員	岩下 純二	法人本部事務長

4 苦情等解決第三者委員の会議の開催状況

苦情等解決第三者委員（こまりごと・なんでも相談）の会議は2回開催された。会議の開催状況は次のとおりである。

なお、会議における個別の苦情内容や関係者の詳細、議論内容等については、個人情報保護の観点から割愛している。

第 1 回	1 開催日 令和6年7月3日 2 議 題 (1) 令和6年度苦情等解決責任者及び苦情受付担当者について (2) 各事業所の苦情等の内容について (3) 苦情等の解決内容、方法、改善策等について (4) 令和5年度事業報告について
第 2 回	1 開催日 令和7年2月5日 2 議 題 (1) 各事業所の苦情等の内容について (2) 苦情等の解決内容、方法、改善策等について (3) 各事業所事業実施状況について

苦情等解決第三者委員名簿

(令和7年3月31日現在・敬称略)

氏 名	備 考
有本 キヨ子	調布八雲苑デイサービスセンター家族会リーダー NPO法人朝日カウンセリング研究会所属
伊藤 麻子	元調布市立学童クラブ指導員
加来 弘子	元調布市ちょうふの里介護職員 ケアマネジャー
村山 洋子	いっしょうふれあいネットワーク（第一小学校区地区協議会）副会長 三多摩学童保育連絡協議会事務局次長 調布市立調布中学校学校関係者評価委員

5 職員研修の状況

(1) 職層別・勤続年数別研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員	新任研修	4月1日	法人本部	15人
		7月1日		3人
		8月1日		1人
		9月2日		4人
		10月1日		2人
		2月3日		1人
		3月3日		1人
	人事評価制度新規採用者研修	同上	法人本部	27人
	新任接遇フォローアップ研修	6月28日	㈱ウインズ	17人
新任副主任職	人事評価制度新任考課者研修	5月10日	法人本部	5人
主任職・副主任職	ティーチング研修	10月25日	㈱話し方教育センター	28人
管理職	管理職メンタルヘルス研修	1月24日 2月28日	㈱ウインズ	25人
一般職(勤続3～5年)	OJT研修	6月7日	㈱話し方教育センター	18人
参加延べ人数合計				147人

(2) 法人内研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	対象者数
事務員	法人事務研修	1月27日	法人本部	10人
参加延べ人数合計				10人

Ⅱ 調布八雲苑

第1 総括

1 財務状況の悪化と過去最大の赤字

調布八雲苑では、利用者が安全で快適な生活を送れるよう、サービスの質の向上に努めた。しかしながら、令和2年度から続いている赤字経営は、令和6年度において資金収支差額がマイナス3,200万円余りとなり、過去最大の赤字額となった。

主な要因として、令和6年9月から10月にかけて特別養護老人ホームにおいて新型コロナウイルスの集団感染が発生し、多くの利用者が入院した。その結果、退所者も増加し、施設の利用率が大きく低下した。更に、新型コロナウイルス以外の理由による入院も多く、入院延べ日数は令和5年度の1,712日から、令和6年度は2,042日となり330日増加した。退所者数も、令和5年度の17人に対し、令和6年度は31人となり、これも利用率低下の大きな要因となった。

高齢者在宅サービスセンターの通所介護については、目標以上の利用率を達成したが、認知症対応型通所介護においては、目標を5.5ポイント下回り、140万円余の赤字となった。

また、物価の高騰や業務委託費の増加も経営を圧迫する要因となった。

令和7年度に向けては、中期経営計画に基づいた行動計画進行管理シートを更新し、収益の確保と経費の削減に取り組み、財務の安定化を図っていく。

なお、財務状況の改善を図るため、令和7年2月から、調布市との連携を強化した。具体的には、毎月1回、市へ訪問し調布八雲苑の財務状況及び運営状況について報告を行い、併せて、東京かたばみ会が運営する高齢3施設の状況についても説明し、助言を受けることで経営改善に向けた取り組みの一環となっている。

2 新型コロナウイルス感染症の集団発生（クラスター）について

新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置づけられた以降も、調布八雲苑では引き続き、職員による施設内各所のアルコール消毒を日常的に実施してきた。この継続的な取り組みに対し、東京都多摩府中保健所の感染症担当者からは、「感染拡大防止に一定の効果が認められる」と評価された。

施設内では、職員から単発的に感染者が確認されることはあったが、大規模な感染拡大には至らず、日頃の感染予防策が一定の効果を上げていたと考えている。

こうした状況を踏まえ、令和6年6月より、特別養護老人ホームにおいて各フロアの生活区域内での面会を再開した。これにより、面会者からは「普段の生活の雰囲気や垣間見ることができ、安心感を得られた。」との好意的な意見も寄せられた。

しかしながら、令和6年9月から10月にかけて、施設内において新型コロナウイルス感染症の集団発生（クラスター）が確認され、利用者39人、職員8人が感染する事態となった。そのうち、利用者17人が入院を要するなど、深刻な影響が生じた。

この事態の収束後、感染拡大防止策の見直しを行い、東京都多摩府中保健所との連携のもと、感染管理体制の更なる強化に取り組んだ。特に、当該クラスターの要因として接触感染が大きく影響したとの指摘を受け、感染予防の理解を深めることを目的に、外部講師を招いた研修会を実施した。この研修を通じて、職員一人ひとりが最新の感染対策を学び、正しい知識と行動の実践に努めている。今後も、不適切な行動を未然に防ぐとともに、衛生管理の徹底により、再発防止と安全な施設運営に注力していく。

3 事故報告

令和6年度に施設内で発生した市報告事故の件数は次のとおりである。

○ 課別・所属場所別報告事故件数

所属場所	事故報告書件数
福祉課（3階）	7
福祉課（2階）	5
高齢者在宅サービスセンター（デイ）	1
高齢者在宅サービスセンター（ショート）	—
配食サービス	—
管理課	0
地域支援課	—
合計	13

○ 事故内容別発生件数

事故の分類	発生件数
転倒	3
転落	3
尻もち	0
表皮剥離	2
誤薬	2
異食	0
その他	3
合計	13

第2 経営実績

目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

事業名	目標値	令和6年度 実績	令和5年度 実績
介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） 利用率	95	81.9	88.7

通所介護事業	通常規模型通所介護利用率	85	85.8	86.5
	認知症対応型通所介護利用率	82	76.5	79.9
居宅介護支援事業 ケアプラン作成		130件（月）	115.8（件）	96.3（件）

※ 居宅介護支援事業については、当初4人の介護支援専門員で目標値を設定したが、令和6年10月まで3人であったことで、実績が目標を下回った。

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 中期経営計画に基づく経営改善の取組

令和6年度は、中期経営計画の4年目として令和5年度に引き続き経営改善に取り組んだ。調布八雲苑における経営改善の目標である行動計画の7つを四半期ごとに進行管理を行い業務を進めた。

7つの行動計画のうち施設の計画的改修については、令和7年度実施予定のエレベーター更新工事のため、事前調査・協議及び契約等を実施した。また、施設全体が老朽化していくなか、利用者に対してより快適な環境での生活を提供することができるよう、施設の新たな修繕計画策定のため老朽度調査を実施した。

特養利用率の向上という行動計画は、令和6年9月下旬から10月中旬まで新型コロナウイルス感染症による集団感染をきっかけに入院者、退所者が続出したことにより、目標利用率を達成することができず、令和6年度においても成果を挙げることはできなかった。しかし、令和6年度から施設長、福祉課長、生活相談員で構成する特養入退所協議を毎週開催し、議事録を管理課と共有して入退所を早急かつスムーズにする体制を構築した。

また、施設長、各課長、管理課で各課の利用率向上及び収支改善のため、令和7年2月から令和8年3月までに取り組むアクションプランを作成し、短期・中期・長期で施設目標を決め、毎月進行管理しながら、アクションプランを確実に進めていく体制を構築した。

デイサービスの収支の維持という行動目標は、通所介護は目標数値を達成することができたが、認知症対応型通所介護は年間11人終結（施設入所10人内6人調布八雲苑特養入所）したことにより、目標を達成することができなかった。

居宅介護支援事業所の拡大という行動計画については、令和6年11月から介護支援専門員を1人増員し、担当エリアを広げるなどケアプラン作成件数を増やし、順調に推移することができた。

その他のプランについても、特養入退所協議、職員会議や各委員会の中での情報共有、検討会議などを経て、施設全体での利用率向上及びコスト管理の動機付けとなっている。

イ 人材の確保と育成

適性な職員の配置を維持すべく、従来の採用方法に加え、新たな採用手法を利用して人材の確保に努めた。

令和6年度の正規職員の採用は4人（介護職員1人、看護職員1人、介護支援専門員1人、栄養士1人）、退職は3人（栄養士1人、調理員2人）であった。正規職員及び有期契約職員の人材確保が難しく、欠員分は派遣職員やスポットワークを利用することで、介護職員については年間を通じて安定的な職員体制を整えることができたが、栄養士及び調理員の安定的な職員体制を整えることが大変難しい一年であった。引き続き、適正な人員体制を精査及び確立し、職員の働きやすい職場環境作りに努めるとともに、職員体制の確保に一層の努力を図っていく。

また、令和5年度に引き続き、職員が心身ともに安心して仕事に取り組める環境づくりの一環として、全職員を対象にストレスチェックを実施した。

人材育成については、施設内での事故防止、感染症発生防止の観点から、各種対策委員会と施設内研修を行っている。安全衛生委員会（12回）、感染症等対策委員会（4回）や事故防止対策委員会（4回）、身体拘束適正化委員会（4回）、高齢者虐待防止法推進委員会（4回）等を実施するとともに、年間の施設内研修計画を立て各委員会主催の研修会を10回実施することができた。

ウ 給食内容の充実

検食日誌の内容や給食委員会で出された意見を踏まえ、改善に努めた。

また、人員不足のなか、利用者に安全で美味しい食事の提供に力を入れ、令和6年11月から食事調理業務を直営方式から委託方式へ変更した。

特養の利用者においては毎月のカンファレンス等を含め、一人ひとりにきめ細かな食事提供の対応に努めた。給食の主な状況は次のとおりである。

- (ア) 食種の割合は、主食ではご飯13.4%、柔らかご飯30.1%、お粥39.0%、ミキサー粥17.5%、副食では、常食15.0%、粗刻み10.0%、刻み17.5%、極刻46.0%、ミキサー11.5%（ソフト含む）となり、重度化に伴い食事形態は常食が減ってきている。
- (イ) 行事食10回・ホーム喫茶2回を実施し、食事を楽しんでもらうようにした。
- (ウ) デイサービスの利用者には、年間の行事予定に沿って職員と相談しながら、行事に合った食事やおやつを提供した。

- (エ) 利用者の声や検食時の意見、感想、味のチェックなど、その日の献立に対する意見等を委託会社と協議、調整した。
- (オ) 栄養ケアマネジメントは、毎月の体重測定結果と摂食状況等を看護職員、介護支援専門員、介護職員及び栄養士がカンファレンスを行い、利用者の日々の変化に対応しながら進めた。
- (カ) 衛生管理マニュアルに基づき、衛生管理及び食中毒予防の徹底を図った。

エ 神代の杜との連携

開設して12年が経過した神代の杜は、調布八雲苑のサテライト型の施設であることから、様々な分野で連携・協力して業務を行うとともに、栄養士の兼務により円滑な事業の実施と経営の安定化に向け、本体施設としての役割を果たした。

また、様々な問題の発生に対しては、施設全体で相互に応援体制が取れるよう、相互協力体制の強化を更に進めていきたい。

(2) 実績報告

ア 特養（介護老人福祉施設。以下同じ。）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	1,664	1,686	1,689	10	1,355	1,380	1,378
5	1,733	1,736	1,734	11	1,319	1,328	1,323
6	1,682	1,681	1,680	12	1,438	1,445	1,440
7	1,782	1,791	1,790	1	1,449	1,454	1,450
8	1,780	1,788	1,786	2	1,395	1,401	1,402
9	1,722	1,731	1,730	3	1,551	1,560	1,564
				計	18,870	18,981	18,966

イ 行事食献立一覧（特＝特養、デ＝デイサービス）

月日	行事名	課名	献立内容
4月18日 24日	ホーム喫茶 春の味覚メニュー	特 特	ビスタチオとラズベリーのケーキ、カシスとチョコのムース、チーズケーキ、農耕チョコケーキ グリーンピースご飯、鰯の西京漬け焼き、若竹煮他
5月5日	こどもの日	特・デ	ちらし寿司、魚河岸揚げの京風煮、黒花豆甘煮他
7月11日 31日	ホーム喫茶 土用丑の日	特 特・デ	マンゴーとココナッツのケーキ・チョコレートケーキ・パニラとイチゴのケーキ うな井、大根ときゅうりの昆布茶和え、黄桃缶、すまし汁
9月15日	敬老祝い	特	赤飯、天ぷら、里芋饅頭、法蓮草のお浸し他
12月25日 31日	クリスマスメニュー 年越し	特・デ 特	バターライス、ポタージュスープ、ミートローフ、ほうれん草ソテー、クリスマスケーキ 年越しそば、根菜炒り煮、みかん
1月1日 7日	元旦 七草粥	特 特	赤飯、おせち料理、雑煮、5点盛り 七草粥、チンゲン菜とひき肉のソテー、白菜のおかか和え、味噌汁
2月3日	節分	特・デ	五目釜飯、つみれ汁、赤魚の大場味噌焼き、五目煮、抹茶パバロア
3月3日	ひな祭り	特・デ	ちらし寿司、すまし汁、筍の煮物、フルーツヨーグルト

ウ 研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設管理者	メンタルヘルスケアのためのカスタマーハラスメント対策	9月9日	調布市内特別養護老人ホーム	2人
	人材育成研修会	10月7日	調布市内特別養護老人ホーム	2人
	高齢者福祉施設の感染症対応力の向上に向けた地域づくり	11月22日	多摩府中保健所	1人
	外国人職員活用の制度説明会	1月20日	調布市福祉健康部	1人
介護職員	介護保険制度の理念と介護福祉職が行うサービス提供に必要なこと	10月11日	調布市福祉健康部	1人
	ソーシャルワーク研修会	12月12日	東社協	1人
	次世代介護機器オンライン展示会	1月16日	東京都福祉保健財団	1人
介護支援専門員	集団スーパービジョン研修	6月14日	調布市福祉健康部	1人
	高齢者虐待の防止について	11月18日	調布市地域包括支援センターはなみずき	1人
	医療ケアを伴う在宅での療養生活について	11月29日	多摩府中保健所	1人
看護職員	特養における看護職員の役割	1月8日	東社協	1人
	施設内リーダー職員研修	1月17日	東京都福祉保健財団	1人
	アレルギー疾患研修	2月3日	東京都福祉保健財団	1人
事務員	処遇改善加算セミナー	8月30日	(公財)介護労働安定センター	1人
	生産性向上の取り組みを広げるためのスタートライン	12月17日	全老施協	1人
調理師・栄養士	口腔、栄養、リハビリテーションの取組	12月4日	多摩府中保健所	1人
参加延べ人数合計				18人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
全職員	「迷わない・疲れないシンブルな感染症対策」	6月21日	感染症対策委員会	22人
全職員	「高齢者施設における基本的な感染症対策」及びBCP研修	11月20日	感染症対策委員会	20人
全職員	「介護技術研修」	2月13日	事故防止対策委員会	22人
全職員	「身体拘束・虐待のチェックリスト」	2月19日	高齢者虐待防止法推進委員会・身体拘束適正化委員会	18人
全職員	「メンタルヘルスについ	2月25日	安全衛生委員会	6人

	て」			
全職員	「家庭教育講座」	3月17日	子育てと仕事の両立委員会（法人主任等調整連絡会議）	38人
全職員	「身体拘束・虐待防止研修」	3月17日	高齢者虐待防止法推進委員会・身体拘束適正化委員会	20人
全職員	「介護のリスクマネジメント・事故防止について」	3月17日	事故防止対策委員会	18人
全職種	BCP研修（自然災害編）	3月21日	非常時対策委員会	21人
参加延べ人数合計				185人

エ ボランティア等の状況

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症等の施設内での感染状況を鑑みながら、ボランティア活動が可能な活動については、感染予防対策をしながら実施した。また、ボランティアを増やす活動として、調布市社会福祉協議会の広報紙へのボランティア募集の掲載やボランティアコーナーからの紹介により、応募のあった市民の方に対し、施設見学やボランティア体験を行い、ボランティアの新規登録者を増やすことができた一年であった。年間の活動延べ人数は1,317人で、令和5年度の736人に比べ、581人増加した。

（単位：人）

活動団体・内容等		活 動 先			延べ人数
		特養	デイ	施設全体	
クラブ・技術指導等	手 芸	0	0	0	0
	書 道	0	60	0	60
	編み物	0	75	0	75
	簾細工	0	24	0	24
	革細工	0	61	0	61
	陶 芸	0	144	0	144
	織 物	0	47	0	47
全般・諸活動	リネン類整理	682	0	0	682
	傾聴	0	0	0	0
	歌・朗読・紙芝居	0	24	0	24
	鍼灸・マッサージ	0	0	0	0
	ダンス・リズム体操	0	0	0	0
	諸活動補助等	0	73	0	73
	音楽・演奏	0	0	0	0
	調布市立柏野小学校	0	0	0	0
中庭美化	中庭草取り	0	0	127	127
行事等	夏まつり	0	0	0	0
	ホーム喫茶	0	0	0	0
	その他行事	0	0	0	0
合 計		682	508	127	1,317

オ 実習生の受入状況

令和6年度の年間受け入れ延べ人数は188人となり、令和5年度の210人から22人減少した。例年と比較し、介護専門学校からの受入実習生数は減少傾向にある。

(単位：人)

学 校 人 等	目 的	実 習 先		延 べ 実習者数
		特養	デイ	
多摩職業能力開発センター府中校	実務者研修資格取得	4	4	8
東京都社会福祉協議会	介護等体験	55	70	125
日本福祉教育専門学校	介護実習	15	0	15
二葉栄養専門学校	栄養士実習	40	0	40
実習生合計				188

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア ケアの質の維持と多職種連携の推進

令和6年度においても、利用者一人ひとりに寄り添った適切なケアを提供するため、多職種による協働を基本とし、定期的なアセスメントやカンファレンスを実施することで、職員全体で一貫性のあるケアに取り組むことができた。

また、新たな介護機器の導入やケア用品の見直しを行い、業務の効率化を図った結果、職員の身体的・精神的負担を軽減するとともに、間接業務の省力化により直接ケアにかかる時間の拡充へとつなげることができた。

イ 安心な暮らしと緊急時体制の強化

利用者の選定にあたっては、介護の必要度が高い方を優先的に受け入れる一方、利用者の高齢化が進んでいる現状を踏まえ、調布八雲苑が生活の場として「安心な暮らし」を継続できるよう配慮した。

また、入院が必要な状態となった際には、協力医療機関である多摩川病院と空床情報を共有し連携を図ることで、円滑な入院対応を実現した。

なお、当施設では「看取りケア」を実施していないことから、入所前に本人及び代理人に対して、当施設が生活支援を目的とした施設である旨を十分に説明し、「本人の意思の尊重」を基本とした緊急時の対応体制を整備した。

更に、救命等における事前承諾書を活用することで、利用者の意思決定を支援する取り組みを行った。

ウ 家族との信頼関係の強化と連携

令和6年度においても、感染対策を徹底しながら、フロアでの面会を実施する体制を整え、毎月第2土曜日・日曜日を「面会開放日」と定めることで、家族との面会機会を増やすことができた。

面会を通じては、家族との意見交換やケアプランに関する意向確認、利用者の状況報告などを適宜行うことができ、信頼関係の構築につながった。

また、近年では代理人（家族等）の遠距離化や高齢化、単身化といった家族構成の変化も見られる中、契約手続きなどの場を活用し、代理人等との連携を図りながら、丁寧かつ十分な説明による同意（インフォームド・コンセント）の徹底に努めた。

エ 新規利用者の迅速な導入と空床利用の削減

令和５年度までは、日常生活継続支援加算を算定するために、要介護４、５の方を優先的に受け入れていた。

しかし、特養申込者数は年々減少傾向にあるため、要介護３の方の受け入れも積極的に行うことで新規入所の獲得に努めた。

また、空床期間の短縮のため、入院者等の状況把握を行うとともに、入所候補者の選定を定期的に行った。

更に、空床情報を市内外の関連機関へ広く提供し、従来型特養の利点をアピールしつつ、ニーズに合致した申込者の確保に努めた。

オ 介護保険制度の改正に伴う協力体制の再構築

令和６年度の介護報酬改定により、事業継続計画（ＢＣＰ）の策定が義務化されたことを受け、これまでに策定していた事業継続計画の実践的な取り組みを更に強化し、適切な事業継続体制の整備に努めた。その結果、感染症発生時や事故防止に関する代理人等からの理解と協力を得ることができ、より信頼性の高いサービス提供体制の構築につながった。

(2) 実績報告（特養・定員６４人）

ア 年齢状況

令和６年度３月末の利用者の平均年齢は８６．６歳で前年度と比較し、１．１歳低下した。ただし、８０歳から９５歳の方が、全体の約４分の３を占めている。

令和７年３月３１日現在（単位：人）

	年齢別	男	女	計	構成比（％）
1	65歳未満	0	1	1	1.6
2	65～70歳未満	0	2	2	3.1
3	70～75歳未満	0	2	2	3.1
4	75～80歳未満	1	2	3	4.7
5	80～85歳未満	3	10	13	20.3
6	85～90歳未満	2	16	18	28.1
7	90～95歳未満	3	16	19	29.7
8	95～100歳未満	1	4	5	7.8

9	100歳以上	0	1	1	1.6
合 計		10	54	64	100
最高年齢 (歳)		98	103	—	—
最低年齢 (歳)		76	57	—	—
平均年齢 (歳)		87.0	86.6	—	—

イ 在籍期間

令和6年度の新規利用者は35人で、令和5年度より19人増加した。

また、利用者の在籍期間については、平均25.8か月で約2年となっている。

なお、男性利用者の平均在籍期間が27.3か月で前年度と比較し長期的になっているが、利用者全体の在籍期間は、前年度と比較し約1年短くなった。

令和7年3月31日現在 (単位：人)

	期 間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	2	29	31	48.4
2	1～3年未満	5	12	17	26.6
3	3～5年未満	3	6	9	14.1
4	5～10年未満	0	5	5	7.8
5	10年以上	0	2	2	3.1
合 計		10	54	64	100

ウ 退所状況

退所者は、年間31人で令和5年度と比較し12人増加した。内訳は、下表のとおりである。

	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	女	83	4月	調布市	入院中に死亡	1年2か月	4
2	男	85	5月	調布市	入所中に死亡	1年2か月	4
3	女	104	6月	調布市	入院中に死亡	6年4か月	5
4	女	96	6月	調布市	長期入院加療	4年3か月	5
5	女	96	6月	調布市	長期入院加療	5年	5
6	女	96	6月	調布市	長期入院加療	9か月	4
7	女	99	7月	調布市	長期入院加療	5か月	4
8	女	91	8月	調布市	長期入院加療	3か月半	5
9	女	96	8月	調布市	長期入院加療	5年5か月	5
10	女	91	9月	調布市	長期入院加療	2年7か月	5
11	女	93	9月	調布市	長期入院加療	4年2か月	4
12	女	92	9月	調布市	長期入院加療	4年5か月	4
13	女	90	9月	調布市	長期入院加療	1年7か月	3
14	女	100	10月	調布市	入院中に死亡	9年9か月	4
15	女	95	10月	調布市	入所中に死亡	10年9か月	5
16	女	88	10月	調布市	長期入院加療	1年1か月	5
17	女	109	10月	調布市	長期入院加療	7年1か月	4
18	女	87	10月	調布市	長期入院加療	2年7か月	5

1 9	女	99	10 月	調布市	長期入院加療	1 年	5
2 0	女	84	10 月	調布市	長期入院加療	6 年 5 か月	5
2 1	女	77	11 月	調布市	長期入院加療	4 年 3 か月	5
2 2	女	94	11 月	調布市	長期入院加療	4 年 5 か月	4
2 3	女	89	11 月	調布市	入院中に死亡	3 年 9 か月	5
2 4	女	95	11 月	調布市	入院中に死亡	3 年 3 か月	5
2 5	女	86	11 月	調布市	長期入院加療	3 年 3 か月	5
2 6	女	93	11 月	調布市	長期入院加療	5 か月	3
2 7	女	92	1 月	調布市	入院中に死亡	2 年 9 か月	5
2 8	女	90	1 月	調布市	長期入院加療	2 年	4
2 9	女	98	2 月	調布市	長期入院加療	1 年 8 か月	4
3 0	女	89	2 月	調布市	居宅	7 か月半	5
3 1	女	94	2 月	調布市	長期入院加療	7 か月	3
平均		9 2 . 6	—	—		3 年 3 か月	4 . 5

エ 月別要介護度分布表

令和 6 年度においては、新規入所者確保のために要介護 3 の方の受け入れも積極的に行ったことで、令和 5 年度より要介護 4 以上の利用者の構成比率は、7. 7 ポイント減少し、要介護 3 の利用者の構成比率は 1 1. 5 ポイント増加した。

(単位: 人)

月	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均介護度
4	0	0	4	37	18	4. 3
5	0	0	4	38	19	4. 2
6	0	0	9	35	21	4. 1
7	0	0	11	38	18	4. 1
8	0	0	11	30	23	4. 2
9	0	0	11	30	21	4. 2
10	0	0	11	39	19	4. 2
11	0	0	13	28	15	4. 0
12	0	0	14	27	12	3. 9
1	0	0	16	29	12	3. 9
2	0	0	17	31	13	3. 9
3	0	0	17	33	14	3. 9
構成比 (%)	0. 0%	0. 0%	18. 0%	51. 4%	26. 7%	-
平均	0	0	11. 5	32. 9	17. 1	4. 0

オ 月別利用実績

令和 6 年度の年間利用率は 8 1. 9 % となり、令和 5 年度比 6. 8 ポイント減となった。

在籍状況が示すとおり、在籍期間の短期化とともに入院に伴う長期療養で定着性が低下している。

また、令和 5 年度と同様に、令和 6 年度も新規申し込み者の待機施設や医療機関における新型コロナウイルス感染症の対応による制限的な対応が、迅

速な入所に繋がらなかったことを鑑み、在宅で生活する高齢者を優先的に抽出したが、新規利用者の入所手続きが遅れたことも、利用率の低下につながった。

月	延べ利用日数（日）	延べ利用可能日数（日）	利用率（％）
4	1,709	1,920	89.0%
5	1,737	1,984	87.6%
6	1,683	1,920	87.7%
7	1,813	1,834	91.4%
8	1,829	1,984	92.2%
9	1,636	1,920	85.2%
10	1,243	1,984	62.7%
11	1,327	1,920	69.1%
12	1,445	1,984	72.8%
1	1,456	1,984	73.4%
2	1,403	1,627	78.3%
3	1,859	1,984	93.7%
合計	19,140	23,360	—
平均	1,595	1,946	81.9%

3 高齢者在宅サービスセンター

(1) 重点事項への取組

ア デイサービス

(ア) サービスの質の確保と介護保険制度の改定への取組

調布八雲苑デイサービスでは、特別養護老人ホーム併設型サービスの特性を活かし、施設全体での一体的な運営の重要性を認識しながら、特養への積極的な利用者紹介をしつつ、利用率の向上を図った。これにより、特養の利用者増加に寄与し、施設全体のサービス提供体制の強化を推進した。

また、地域との連携を一層深めることで、利用者及びその家族に対し、調布八雲苑のサービスの魅力や利便性を広く発信し、地域に根差した施設運営に努めた。

今後は、職員配置体制の更なる強化を図るとともに、研修やスキルアップの機会を充実させ、利用者が安心してサービスを受けられるよう信頼性の高い運営体制の確立に努めていく。

(イ) デイサービスの相互支援効果を活かしたプログラムの推進

イベントや趣味活動は利用者の満足度に大きく寄与する重要な要素であり、利用者の生活の質の向上に直結することから、継続的なサービス提供に努めた。特に、他部署や関係機関との連携による相互支援体制を活かし、限られた資源の中でも多様なプログラムを維持し、季節行事や創作活動、趣味を通じた交流の場を充実させた。

今後も、利用者一人ひとりのニーズに応じた柔軟な対応を図りながら、生活の楽しみや社会的つながりを感じられるプログラムの提供を継続し、心身の活性化と満足度の向上に取り組んでいく。

(ウ) 利用率及び収支の安定化の維持

利用率の向上に向けては、新規利用希望者の迅速な受け入れを図るため、送迎調整を適宜行い、申し込みから利用開始までのプロセスを最短で進めるよう努めた。

また、定期的にイベントや行事を実施することで利用を促進し、結果として利用率の向上につなげることができた。

更に、各居宅介護支援事業所の新任介護支援専門員を対象に、積極的に施設見学の機会を設けることで、調布八雲苑のサービス内容や取り組みへの理解を深めてもらった。これにより、介護支援専門員からの紹介件数が増加し、新たな利用者の獲得に繋がった。

(エ) 認知症高齢者ケアの実践と家族支援

認知症高齢者のケアにおいて、特に日中に家族が就労している場合や、利用者が独居である場合に、定期的な情報提供と継続的なサポートが重要であることを認識して、サービスを提供した。

また、利用者に心身の変化が見られた際には、その状況を速やかに家族へ報告し、丁寧な情報提供を心がけることで、信頼関係の構築に努めた。

こうした報告を重ねることで、家族との関係性がより強固なものとなり、ケアに対する協力体制が整えられた。その結果、家族の心理的・物理的負担の軽減につながり、利用者により適切な支援を提供することができた。

イ 居宅介護支援事業

(ア) 令和6年度においては、介護支援専門員の増員を行い、それに伴い、ケアマネジメントの質の向上に努めた。

また、従来から継続して実施しているケアマネ会議では、困難ケースへの対応について積極的に協議を行い、支援方法の見直しや改善に取り組むことができた。

これらの取り組みを通じて、利用者一人ひとりに応じた適切なケアプランの作成が可能となり、サービスの質の向上と公正かつ中立的なケアマネジメントの継続につながった。

(イ) 健全な経営と地域高齢者への支援

ケアプランの作成件数は100件に達し、着実に事業の活動範囲を拡大することができた。

これにより、地域への貢献度を高めるとともに、令和7年度に向けた体制作りや準備を進める土台を築くことができた。

(2) 実績報告

ア 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別利用実績

令和6年度の年間利用率は、85.9%で令和5年度比0.6ポイント減となったが、経営目標値に対しては、0.9ポイント上回った。

新規の問い合わせ件数は一定数あったものの、対応しきれない場面が生じ、今年度は導入が遅れることが多かった。

（単位：人）

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（%）
4	568	1110	25	90.9
5	617	1187	27	91.4
6	533	1032	25	85.3
7	564	1103	26	86.8
8	531	1044	26	81.7
9	486	951	23	84.5
10	558	1097	26	85.8
11	513	1011	24	85.5
12	511	1000	24	85.2
1	471	920	23	81.9
2	466	915	22	84.7
3	538	1068	25	86.1
合 計	6,356	12,438	296	85.9
1日平均	21.47	42.02		

イ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別利用実績

令和6年度の年間利用率については、76.5%となり、令和5年度に比べて3.4ポイント低下した。

新規利用者は15人で、終結者は11人であった。新規利用者が増加した分、終結者も同様に多く、そのため利用率の向上には繋がらなかった。11人の終結者の内10人が施設入所で調布八雲苑には6名入所した。

（単位：人）

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（%）
4	228	455	26	73.1
5	234	468	27	72.2
6	237	472	25	79.0
7	243	485	26	77.9
8	248	495	26	79.5
9	246	489	25	82.0
10	266	529	27	82.1
11	229	454	26	73.4
12	211	420	26	67.6

1	226	451	24	78.5
2	227	452	24	78.8
3	234	465	26	75.0
合 計	2,829	5,635	308	76.5
1 日平均	9.19	18.30		

ウ 認知症対応型通所介護事業運営推進会議の開催

認知症対応型通所介護は、地域密着型サービスのため、厚生労働省令で平成29年度から運営推進会議の設置が義務付けられた。

これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するために設置するものである。

概ね6か月に1回の開催が求められ、令和6年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
令和6年度第1回	令和6年4月24日	・令和5年度の事業運営について ・利用傾向及び利用者状況について ・活動報告について ・利用者、家族からの意見について
令和6年度第2回	令和6年10月22日	・令和6年度上半期の事業運営について ・利用傾向及び利用者状況について ・活動報告について ・利用者、家族からの意見について

なお、運営推進会議の構成員3人については、下表のとおりである。

(敬称略)

氏 名	選任区分	任 期
添田 淳子	民生・児童委員	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日
松本 由満	調布市地域包括支援センター ゆうあい職員	
有本 キヨ子	地域有識者	

エ 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別要介護度分布表

令和6年度の平均要介護度は1.4となり、令和5年度に比べて0.27ポイント軽度化した。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
4	21	78	300	50	75	44	0	568
5	17	85	337	49	91	38	0	617
6	13	76	306	49	67	22	0	533
7	13	83	324	52	73	19	0	564
8	13	69	324	43	73	9	0	531
9	9	69	301	52	35	20	0	486
10	10	81	345	53	41	28	0	558
11	9	67	301	66	54	16	0	513

12	10	41	261	113	65	21	0	511
1	12	45	255	99	55	5	0	471
2	8	40	236	122	60	0	0	466
3	8	50	274	134	72	0	0	538
合計	143	784	3564	882	761	222	0	6356
比率	2.2%	12.3%	56.1%	13.9%	12.0%	3.5%	0.0%	
1日	0.5	2.6	12.0	3.0	2.6	0.8	0.0	21.5

オ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別要介護度分布表
令和6年度の平均要介護度は2.7となり、令和5年度比で0.2ポイントの軽度化となった。認知症対応型通所介護においては、要介護3以上の方の施設入所が増えている傾向は変わらず、終結者も増加し、入れ替わりが多い。

（単位：人）

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	52	9	71	72	24	228
5	0	0	57	14	74	71	18	234
6	0	0	74	9	72	63	19	237
7	0	0	62	36	52	81	12	243
8	0	0	73	40	40	85	10	248
9	0	0	84	38	46	70	8	246
10	0	0	92	31	46	87	10	266
11	0	0	75	33	41	62	18	229
12	0	0	61	47	29	58	16	211
1	0	0	65	37	35	73	16	226
2	0	0	67	38	35	71	16	227
3	0	0	75	44	39	63	13	234
合計	0	0	837	376	580	856	180	2829
比率	0.0%	0.0%	29.6%	13.3%	20.5%	30.3%	6.4%	
1日平均	0.0	0.0	2.7	1.2	1.9	2.8	0.6	9.2

カ 居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数（介護予防サービス計画含む。）
令和6年度のケアプラン作成件数は、1,156件と令和5年度と比較し208件増となった。

また、介護支援専門員1人を採用し、段階的に事業目標の105件に向けて、ケアプラン作成件数の確保に取り組んできたことが、作成数の向上につながっている。

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	100	105	107	103	109	105	110	120	124	129	132	140	1,384	115.3
請求外相談	0	0	0	0	1	0	1	1	1	3	1	2	10	0.83
合計	100	105	107	103	110	105	111	121	125	132	133	142	1,394	116.1

※ 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

キ 居宅介護支援事業所の要介護認定及び要支援認定調査件数

令和6年8月～10月までに3件の要介護認定及び要支援認定調査を実施した。

Ⅲ 神代の杜

第1 総括

1 地域密着型特養の施設運営

神代の杜は、調布市内で唯一の地域密着型特養として独自の取り組みを行うとともに、本体施設である調布八雲苑のサテライト施設として毎月の請求業務をはじめ、緊急時の調理業務、介護業務、送迎業務など、多岐にわたる相互連携体制を構築してきた。

また、地域密着型施設は、調布市から事業者としての指定を受けていることから、事業計画書、事業報告書及び運営推進会議議事録に基づき、適時、施設運営について報告を行い、指導・助言を受けている。特に令和6年度は、調布市福祉健康部による施設見学や高齢者支援室担当者による施設内点検・指導、更には緊急ケース受入時の入室対応など、これまでコロナ禍により制限されていた施設内での関係機関との連携や係わりが再開されたことは、大きな前進であったと捉えている。

入居者ケアについては、各ユニットリーダーを中心に毎月のユニット会議を通じて入居者の状態を的確に把握し、医療と介護の連携により、安心かつ安全なサービスの提供を継続した。一方で、前年度から共有してきた各ユニットの悩みや問題点の改善に向け、小規模事業所であるが故に弊害となっている業務体制の課題を抽出し、様々な検討を行い、次年度以降に繋げる取り組みを行った。

2 利用率と財政状況

経営面においては、令和6年度の特養の利用率が年間で93.4%となり、目標に1.6ポイント届かなかった。また、厨房機器の入れ替えや老朽化による施設修繕費が嵩んだが、施設全体の収支差額率は0.53%となり、資金収支差額は448万円余で4年連続黒字となった。黒字の主な要因は、介護報酬の増加による収入の上昇である。

他方、課題であった人件費の抑制については、派遣職員に依存しない人員体制の構築を図るため、リファラル採用による直接雇用職員の確保に取り組んだが、最低賃金の上昇等により予算を上回る結果となった。

3 短期入所生活介護事業の取組

ショートステイの利用率は、目標値を10ポイント下回ったものの、中期経営計画策定前の5か年平均と比較すると約13.5ポイント上回っており、当該計画の経営戦略の実践が、令和4年度以降ショートステイ事業の利用率向上に着実に結びついていると評価できる。

4 事故報告（内容別発生件数）

東京都及び調布市に報告した事故件数は次のとおりである。

事故の分類	発生件数	事故の分類	発生件数
転倒	17	誤薬	2
転落	4	異食	2
尻もち	0	感染症	1
表皮剥離	0	死亡	1
		合 計	27

第2 経営実績

1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

（単位：％）

事業名	目標値	令和6年度 実 績	令和5年度 実 績
介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） 利用率	95.0	93.4	92.7
短期入所生活介護 （ショートステイ） 利用率	80.0	70.0	74.0

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 施設の特性を活かしたサービスの提供

令和6年度は、正規職員1人、非正規職員1人を確保し、ユニットケア体制を充実させた。これによりユニットリーダーを中心として新人職員の育成を行い、神代の杜におけるOJTや業務体制の課題を抽出し、令和7年度に繋げることができた。

また、神代の杜のユニット体制に伴う業務の属人化を緩和するため、ユニット担当を原則とした配置に加え、他ユニットでの定期的な勤務を行うことで、各ユニット業務の理解の共有化に繋げた。これにより入居者サービスにおいてもケアの共有化が図れ、入居者との顔の見える関係性が深まり、サービスの質の向上に繋がった。

(2) 安定した経営のための取組

特別養護老人ホームにおける令和6年度の新規入居者は9人で、年度を通じ、6月期以外の在籍率は100％であった。一方、空床が697床発生し、その内、入院による空床が延べ449床、月平均では37.4床であったが、入院の長期化による退去者は3人と減少し、早期発見、早期対応が図れたこ

とによる退去者の減少に繋がった。

また、ショートステイについては、令和6年度も中期経営計画に掲げる経営戦略の実践を柱に、調布市及び三鷹市の居宅介護支援事業者へ毎月1件ずつの営業活動を定着させ、その結果、令和6年度は、新規利用者12人の紹介と1年以上利用のなかった再開利用者3人の計15人の利用を繋げることができた。

支出面については、開設から12か年が経過し、業務に支障をきたす設備の交換や修繕を早急に行いつつ、経年劣化が予測される設備などの洗い出しを行い、次年度以降の修繕計画の作成に着手した。

(3) 地域密着型施設としての地域貢献について

令和6年度は、毎週敷地内清掃を行っていただいている地元老人会の会議や地域包括支援センターはなみずきが主催する十筋体操の活動、北ノ台まちづくりネットワーク「(以下「地区協議会」という。)」の親睦会など、地域で活動される方々に地域交流スペースの開放を行った。

また、令和6年度も地区協議会の役員及び運営委員として、地区協議会創設10周年の企画や地域の行事等に参画し、地域と顔が見える関係性づくりにも取り組んだ。

他方では、神代の杜は、一般の避難所等での生活が困難な高齢者や障害者などの要配慮者のための福祉避難場所として指定されており、調布市の福祉関連事業者においても地域BCPの研修機会を通じ、重要性の認識が高まっている。

令和6年度も地域の防災訓練や防災教育の日を通じ、神代の杜が要配慮者避難施設として指定されていることを近隣自治会や地区協議会と共有することで、災害時の相互協力体制が作れるよう周知・啓発を継続していく。

2 実績報告

(1) 給食の状況

令和6年度は、本体施設である調布八雲苑の栄養士の異動により、行事食計画等の新たな取り組みには至らなかったものの、調理師、介護職員及び看護師が入居者の状態に合わせ、四季を感じる食事やおやつを提供を行った。

また、BCP対策として非常食の入れ替えを適切に行った。

特養（介護老人福祉施設。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	791	792	793	10	826	825	825
5	821	820	820	11	788	788	789
6	811	808	808	12	856	859	859
7	810	812	812	1	861	861	861
8	817	818	817	2	798	798	798
9	793	795	795	3	897	897	898
				計	9,869	9,873	9,875

ショートステイ（短期入所生活介護。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	28	37	29	10	64	75	62
5	33	39	32	11	71	84	72
6	34	42	34	12	55	72	56
7	47	59	49	1	61	73	61
8	61	73	61	2	46	54	46
9	77	87	77	3	52	64	51
				計	629	759	630

行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショート）

月日	行事名	課名	献立内容
4月8日	花まつり	特・シ	桜ちらし寿司、赤魚のおろしポン酢、菜の花の胡麻和え
24日	もりカフェ	特	果実たつぷりショートケーキ他、飲み物3種
5月5日	こどもの日	特・シ	ちらし寿司、魚河岸揚げの京風煮、黒花豆の甘煮、澄まし汁
22日	もりカフェ	特	手作りゼリー苺ショート他、飲み物3種
6月12日	入梅・生姜の日	特・シ	蒸し鶏の味噌あんかけ、金平ごぼう、インゲン生姜和え
26日	もりカフェ	特	パリパリチョコショート他、飲み物3種
7月7日	七夕	特・シ	ちらし寿司、里芋まんじゅう、黒花豆の甘煮、澄まし汁
24日	もりカフェ	特	七夕ケーキ叶え星他、飲み物3種
	土用丑の日	特・シ	うな井、里芋まんじゅう、たたきオクラ、澄まし汁
8月26日	納涼屋台めし	特・シ	ソース焼きそば、大根胡瓜の昆布和え、杏仁豆腐
28日	もりカフェ	特	レアチーズショートケーキ他、飲み物3種
9月16日	敬老の日	特・シ	握り寿司、澄まし汁
25日	もりカフェ	特	月見プリン他、飲み物3種
10月14日	スポーツの日	特・シ	メンチカツ、白滝のたらこ和え、キャベツとカニの酢の物
23日	もりカフェ	特	ガトーショコラ他、飲み物3種
11月15日	七五三	特・シ	三色丼、魚河岸揚げの京風煮、黒豆の甘煮
27日	もりカフェ	特	クレープ、オ・フリュイ他、飲み物3種
12月25日	クリスマスメニュー	特・シ	ミックスフライ、アスパラとカリフラワーサラダ、ミネストローネ、バニラババロア
31日	年越しそば	特	年越しそば、大根と人参のうすくず煮、えのきときゅうりの酢の物
1月1日	元旦	特・シ	赤飯、おせち料理、五点盛り、お雑煮
7日	七草がゆ	特・シ	七草がゆ、生揚げと野菜の煮物、金時豆、梅干し、味噌汁
22日	もりカフェ	特	プリンアラモード他、飲み物3種
2月3日	節分	特・シ	いわしつみれと大豆のトマト煮、冬瓜のエビあんかけ、いんげんとしめじのクルミ和え
26日	もりカフェ	特	ダブルチーズケーキ他、飲み物3種
3月3日	ひな祭り	特・シ	ちらし寿司、がんもとぜんまいの煮物、黒花豆煮、澄まし汁、三色花ゼリー
26日	もりカフェ	特	寒天ミルクプリン苺ショート他、飲み物3種

(2) 研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

ア 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設長	ハラスメント対策研修	9月9日	特養施設長会	1人
	個人情報保護研修	10月7日	調布介護保険サービス事業者連絡協議会	1人
	外国人介護人材確保研修	1月20日	特養施設長会	1人
	お看取り勉強会	12月9日	特養施設長会	1人
	介護機器展示会	2月9日	CareTEX	1人
	リスクマネジメント研修	2月10日	特養施設長会	1人
	令和6年度集団指導	2月13日	東京都福祉保健財団	1人
	地域BCP研修	2月26日	調布介護保険サービス事業者連絡協議会	1人
	認知症ケア研修	3月10日	特養施設長会	1人
事務員	お看取り勉強会	12月9日	特養施設長会	1人
看護師	緊急時対応研修	11月11日	特養施設長会	1人
	特養看護職員研修	1月8日	東京都福祉協議会	1人
ユニットリーダー	認知症介護指導者研修	6月3日～8月2日	認知症介護研究・研修センター	1人
	ユニットリーダー研修	8月20～8月25日	日本ユニットケア推進センター	1人
	ハラスメント研修	9月9日	特養施設長会	1人
	コミュニケーション研修	10月7日	特養施設長会	1人
	緊急時対応研修	11月11日	特養施設長会	1人
	感染症研修	11月22日	東京都多摩府中保健所	1人
	介護機器展示会	2月9日	CareTEX	1人
	ケアマネ実務研修	12月20日～3月18日	東京都福祉保健財団	1人
				20人

イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護職員・看護職員	事故防止研修	① 6月1日 ② 1月25日	施設内部	28人
	褥瘡予防研修	① 11月25日	施設内部	7人
	身体拘束廃止研修	① 3月1日 ② 3月1日～3月16日	施設内部	29人
	感染症対策研修	③ 10月9日 ④ 2月1日	施設内部	51人
	虐待防止研修	⑤ 3月1日 ⑥ 3月1日～3月16日	施設内部	40人
	口腔研修	① 3月6日 ② 3月20日	施設内部	11人
参加延べ人数合計				166人

(3) ボランティア等の状況

令和6年度は、活動ボランティアの受入を積極的に行ったことにより、前年度よりも延べ34人増加した。特にコロナ禍においても継続的に活動していただいていた地元老人会の方々の貢献活動が定着している。

(単位：人)

活動団体・内容等		人数	延べ
全般・諸活動	ピアノ・フルート演奏	2	14
	ピアノ	7	60
	ピアノ・紙芝居	1	8
	個別リハビリ、集団体操	1	15
美化	草取り、樹木剪定、菜園	15	201
	シーツ交換	1	39
合 計		27	337

(4) 年齢状況（特別養護老人ホーム・定員29人）

入居者の平均年齢は、86.5歳となり、令和5年度比0.5歳若年化した。

令和7年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	1	0	1	1.0%
2	65～70歳未満	0	2	2	2.0%
3	70～75歳未満	0	0	0	0.0%
4	75～80歳未満	0	0	0	0.0%
5	80～85歳未満	2	1	3	3.0%
6	85～90歳未満	1	11	12	12.0%
7	90～95歳未満	3	5	8	8.0%
8	95～100歳未満	0	3	3	3.0%
9	100歳以上	0	0	0	0.0%
合 計		7	22	29	100
最高年齢（歳）		95	99	—	—
最低年齢（歳）		61	67	—	—
平均年齢（歳）		84.7	87	86.5	—

(5) 在籍期間（特別養護老人ホーム）

平均在籍期間が3年1か月となり、令和5年度と比較すると在籍期間が約4か月延びた。

令和7年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	2	5	7	24.1
2	1年以上～2年未満	1	5	6	20.7
3	2年～3年未満	2	3	5	17.2

4	3年～4年未満	1	2	3	10.3
5	4年～5年未満	1	2	3	10.3
6	5年～6年未満	0	0	0	0.0
7	6年～7年未満	0	2	2	6.9
8	7年以上	0	3	3	10.3
合 計		7	22	29	100

(6) 退去状況内訳（特別養護老人ホーム）

令和6年度の退去者数は5人であった。令和5年度退去者数の12人より7人減少した。

令和6年4月1日～令和7年3月31日

No.	性別	年齢	退去月	退所理由	在籍期間	要介護度
1	女性	95	5月	長期入院加療	976日	4
2	女性	89	8月	長期入院加療	70日	4
3	女性	93	10月	長期入院加療	143日	3
4	女性	93	11月	長期入院加療	1646日	4
5	女性	97	1月	入所中に死亡	572日	3
平均		93.4	—	—	1年10か月	3.6

(7) 特別養護老人ホーム 月別要介護度分布表

令和6年度の平均要介護度は、3.5となった。令和5年度と比較して0.1軽度となった。要介護認定の特例措置期間が終了し、順次認定調査を行っているところではあるが、要介護5が微増し、両極化傾向にある。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	16	10	1	3.4
5	0	0	17	11	1	3.4
6	0	0	17	11	1	3.4
7	0	0	17	9	2	3.4
8	0	0	17	9	2	3.4
9	0	0	17	9	3	3.5
10	0	0	19	7	3	3.4
11	1	0	18	9	2	3.4
12	0	0	19	8	2	3.4
1	0	0	20	7	3	3.4
2	0	0	17	8	4	3.6
3	0	0	16	9	4	3.6
構成比 (%)	0	0	61.1	30.8	8.1	3.5

(8) 特別養護老人ホーム 月別利用実績

令和6年度は、令和5年度と比較して0.7ポイント上回った。退去から入居までの空床日数は減少したものの入院による空床が多かった。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	793	870	91.1
5	821	899	91.3
6	811	870	93.2
7	812	899	90.3
8	818	899	91.0
9	796	870	91.5
10	829	899	92.2
11	789	870	90.7
12	859	899	95.6
1	863	899	96.0
2	799	812	98.4
3	898	899	99.9
合計	9,888	10,585	93.4

(9) 短期入所生活介護（ショートステイ・定員3人） 月別利用実績

令和6年度の利用率は、令和5年度比で4ポイント低下したが、利用人数では、令和5年度よりも2人増加した。

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼動日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	9	10	37	90	41.1
5	8	8	40	93	43.0
6	8	8	42	90	46.7
7	9	11	59	93	63.4
8	11	14	73	93	78.5
9	15	19	92	90	102.2
10	10	15	77	93	82.8
11	12	16	87	90	96.7
12	11	18	72	93	77.4
1	13	16	74	93	79.6
2	10	11	55	84	65.5
3	11	12	58	93	62.4
合計	127	158	766	1,095	
平均	10.6	13.2	63.8	91.3	70.0

(10) 短期入所生活介護（ショートステイ） 月別要介護度分布表

令和6年度は要介護3の方の利用が令和5年度の約1.85倍の60.2%を占めた。また、要介護3以上の方の利用比率は68.9%となり、令和5年度とほぼ横ばいの状況で重度化傾向にある。

(単位：人) 空床ショート含む

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	15	0	15	7	0	37
5	0	0	15	3	22	0	0	40
6	0	0	8	10	20	4	0	42

7	0	0	11	6	38	4	0	59
8	0	0	6	5	62	0	0	73
9	0	9	20	10	50	0	3	92
10	0	0	9	3	56	4	5	77
11	0	0	14	10	59	4	0	87
12	0	0	8	17	47	0	0	72
1	0	0	8	13	41	12	0	74
2	0	0	12	7	24	7	5	55
3	0	0	8	11	27	12	0	58
合計	0	9	134	95	461	54	13	766
比率 (%)	0.0	1.2	17.5	12.4	60.2	7.0	1.7	100

(11) 運営推進会議の開催

神代の杜は地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が義務付けられている。これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するため設置しているものである。概ね2か月に1回の開催が求められている。

令和6年度は、以下のとおり6回開催した。

	開催日	議題・報告事項
第1回	4月25日	・ 令和6年度神代の杜事業計画について ・ 3月～4月の運営状況について
第2回	7月4日	・ 5月～6月の運営状況について
第3回	8月22日	・ 7月～8月の運営状況について
第4回	10月24日	・ 9月～10月の運営状況について
第5回	12月26日	・ 11月～12月の運営状況について
第6回	2月27日	・ 1月～2月の運営状況について

運営推進会議委員（敬称略）

氏名	選任区分	任期
矢田部 弘行	地域住民代表	令和6年9月1日～ 令和7年8月31日
田中 大樹	地域包括支援センター職員	
内藤 敬子	地域有識者	

※ この他に入居者及び入居者家族各1人が委員として加わっている。

IV 調布市ちょうふの里

第1 総括

1 全体の施設運営

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症が流行してから5年、社会全体が新型コロナウイルスへの意識が和らぐ中、「ちょうふの里」では、職員の手洗いやうがい、勤務中のマスク着用など、基本的な感染症対策を継続した。また、インフルエンザ及び新型コロナウイルスのワクチン接種を希望する特別養護老人ホームの利用者にも実施した。

このように、引き続き感染予防を行ってきたが、特別養護老人ホームでは年末から翌年1月に掛けてはインフルエンザウイルスによるクラスター、2月には新型コロナウイルスによるクラスターが発生した。本年度は、一年を通し角化型疥癬の対応も続いたことから、感染症対策に迫られる1年となった。

今後の対応に活かすため、保健所や医療機関と連携を図りながら対応し、発生状況の検証を行い、感染症対策についての振り返りも行った。

年度当初から介護職員の欠員が多く、求人・採用活動に重点を置いた。具体的には、ハローワークの求人情報や有料の求人サイトを活用するとともに、調布市社会福祉協議会主催の「福祉のしごと相談会」や養成校主催の就職説明会に参加し、求人募集を行った。また、施設の見学を希望する方については、優先的に対応した。

2 事故等発生件数（課別・所属別事故報告件数）

（単位：件）

事故発生場所	件数
特養2階	79
特養3階	96
高齢者在宅サービスセンター（ショートステイ）	35
高齢者在宅サービスセンター（デイサービス）	25
配食サービス	2
管理課	0
地域支援課	2
合計	239

第2 経営実績

1 目標値に対する実績

特別養護老人ホームの年間利用率は、89.5%にとどまり、目標値である96%には達しなかった。その主な要因として、インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症のクラスターが年間を通じて発生したことが挙げられる。こ

れにより、入所時期の調整が難しくなったことやインフルエンザ感染で多くの入院者が発生したことが影響となった。

ショートステイについては、新規利用者数は増えているものの、定期的に利用される方々が施設へ入所されるケースが多く見られ、その結果、目標利用率を大きく左右する状況となった。

通所介護事業及び認知症対応型通所介護事業においても、新規利用者の獲得に努めたが、新規利用者数は増加したものの、施設への入所などが多くなり、利用率の目標値を達成することが出来なかった。

訪問介護については、新規利用者の積極的な獲得により、年度の前半は好調であったが、10月以降はサービス提供責任者が1人体制となり、利用者の獲得ができず、目標値に達しなかった。

(単位：％)

事業名		目標値	令和6年度 実績	令和5年度 実績
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）利用率		96.0	89.5	91.4
短期入所生活介護（ショートステイ）利用率		92.0	80.0	81.0
通所介護 事業	通所介護 利用率	80.0	70.2	70.7
	認知症対応型通所介護 利用率	75.0	64.3	63.4
居宅介護 支援事業	ケアプラン作成数（月間）	170件	155.3件	157.9件
	予防プラン作成数（月間）	20件	20.8件	19.3件
訪問介護 事業	サービス提供数（時間／月）	550時間	477時間	546時間
	障がいサービス提供数（時間／月）	20時間	11時間	16時間

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 中期経営計画に基づく取組の推進

令和6年度においても、公施設としての役割を認識しつつ、各事業所間で連携、協力を図り、情報の共有をしながら、経営戦略の実現に向けて取り組んだ。また、これまでの活動を振り返り、令和7年度の目標について、検討を重ね刷新を行った。

イ 経費の削減

米や野菜などの物価高騰の影響が深刻化する状況を鑑み、食材の使用に関して、日々の在庫状況及び賞味期限の確認を徹底し、発注の適正化を図ることで経費の節減に努めた。また、「裏紙を使用する。」「使用していない箇所の照明を適宜消灯する。」など、各セクションにおいて節約を目的とした

取り組みを実施した。

ウ 安定した食事の提供と環境づくり

現場で働く職員が日々感じる細かな「ヒヤリ・ハット」を収集し、作業導線の改善、熱中症の対応としての送風機器の購入や冷房機器の清掃を実施するなど職場環境の改善に努めた。

非常勤・パートタイマー職員の高齢化など、多くの課題を抱える状況ではあるが、安全で安心な食事提供に尽力した。

(2) 実績報告

ア 研修の状況

体 系		内 容	回 数
職場研修	施設内研修	① 「新入職員研修」(講師 各管理職) 4月3日 参加者5人 ② 事故防止対策研修 ○「認知症高齢者の事故防止と尊厳保持」(施設全体) 3月17日 参加者 44人 ○「危機管理能力トレーニング」(福祉課) 3月12日 参加者8人 3月24日 参加者9人 ○「事故報告書の記入方法について」 (ダイサービス) 1月17日 参加者20人 ○「緊急時の対応について」(ショートステイ) 6月 参加者11人 ③ 虐待防止研修 ○「ゴーイングゼロ」(施設全体) 7月31日 参加者33人 ○「認知症高齢者の事故防止と尊厳保持」「虐待自己 チェックリスト」(福祉課) 3月12日 参加者8人 3月24日 参加者9人 ○「高齢者虐待防止研修」(ダイサービス) 12月20日 参加者20人 ○「高齢者虐待防止について」(ショートステイ) 1月 参加者11人 ○「虐待防止について」(地域支援課) 1月23日 参加者28人 ④ 感染症対策研修 ○「感染症対策について」(施設全体) 1月下旬 資料配布全職員 ○「手指消毒のタイミングについて」(福祉課) 1月10日 参加者10人 ※その後悉皆にて全介護職員等参加 26人 ○「手指消毒・洗浄について」(ダイサービス) 11月16日 参 加者 16人 ○「感染症対策について」(ショートステイ) 10月 参加者12人 11月 参加者 9人 ○「感染症の基本について」(地域支援課) 10月23日 参加者28人 ⑤ 身体拘束廃止研修 ○「身体拘束防止研修について」(施設全体) 11月下旬 資料配布全職員	28

	○「身体拘束とは」(福祉課) 12月11日 参加者 8人 12月23日 参加者 12人 ○「身体拘束について」(ショートステイ) 10月 参加者 11人 ○「介護職員が使ってはいけない不適切な言葉」 (デイサービス) 9月20日 参加者 17人 ○「身体拘束について」(地域支援課) 1月23日 参加者 28人 ⑥ 褥瘡予防研修「床ずれ対策について」 12月20日 参加者 9人 その他職員に資料配布 ⑦ 労働安全研修「睡眠について」 9月中旬 資料配布全職員 ⑧ 「個人情報取扱に関する研修」(施設全体) 2月19日 参加者 35人	
福祉課内研修、勉強会	① 「高齢者の服薬について」 8月 26日 参加者 12人 ② 「スライディングボードについて」 2月 5日 資料配布全職員 ③ 口腔ケア研修 ○「お口の中はどうなっているの？」 4月19日 参加者 13名 ○「歯科衛生士による講習会」 11月27日 参加者 11名	2
ショート研修、勉強会 (ショートステイ担当内研修)	① 「オムツの使い方について」 6月28日 参加者 11人	1
デイサービス研修、勉強会 (デイサービス担当内研修)	① 入浴研修「入浴方法や移乗方法(スライディングボードの使用方法)について」 12月20日 参加者 20人 ② BPSD ケアプログラム 4月 参加者 11人 5月 参加者 10人 6月 参加者 10人 7月 参加者 11人 8月 参加者 9人 10月 参加者 11人 11月 参加者 10人 12月 参加者 12人 1月 参加者 11人 2月 参加者 9人 3月 参加者 9人 *BPSD ケアプログラムとは、認知症の行動・心理症状をそれぞれ数値化し、分析、評価しながら個別のケア方針や内容を立てていくプログラム。	12
地域支援課：訪問介護 事業所研修、勉強会	① 「自立生活支援の見守りの援助について」 6月19日 参加者 9人 ② 「ケアマネジャーが期待するヘルパーの観察力について」 11月20日 参加者 10人 ③ 「情報共有と観察の本質について」 12月16日 参加者 14人 ④ 「冬の脱水対策」 1月20日 参加者 14人	4
職場研修参加者合計466人		合計47回

	内 容	主 催	人数	延べ
外部研修	高齢者のスキンケアと褥瘡ケア（介護施設・療養の場で） （オンライン研修）	東京看護協会	1	1
	社会福祉士実習指導者講習会	東京都社会福祉士会	1	1
	カスタマーハラスメント講習会	ソエルクラブ	4	4
	介護福祉士実習指導者講習会	東京都介護福祉士会	2	8
	「いつも計測しているバイタルサイン理由がわかると利用者の異変にすぐ気が付けるようになる」	東京都社会福祉協議会	1	1
	施設における感染管理	東京看護協会	1	1
	介護職員スキルアップ研修「医療的知識編」	東京都社会福祉協議会	1	1
	看護管理の基本「主任・副主任以上向け研修」	東京看護協会	1	1
	安全運転管理者講習会	警視庁	1	1
	令和6年度介護人材定着研修	全国老人福祉施設協議会	1	1
	普通救命講習会	調布消防署	2	2
	令和6年度東京都地域包括支援センター職員研修 「管理監督者向け研修」	東京都	1	1
	高齢者虐待防止研修（入所介護サービス管理者向け）	東京都福祉保健財団	1	1
	介護現場における利用者や家族等からのハラスメント対策	調布市	3	3
	令和6年度自立支援総合研修「認知症・BPSDについて」	全国老人福祉施設協議会	1	1
	高齢者虐待防止研修（在宅介護サービス管理者向け）	東京都福祉保健財団	5	5
	労働災害再発防止講習会	三鷹労働基準監督署	1	1
	高齢者虐待防止について	調布市地域包括支援センター	1	1
	高齢者施設における結核対策	東京都	1	1
	令和6年度介護人材確保総合セミナー	全国老人福祉施設協議会	1	1
	地域連携で支える高齢者の感染対策	府中保健所	2	2
	東京都認定調査員現任研修（オンライン研修）	調布市	16	16
	居宅介護支援事業所管理者向け研修	東京都	1	1
	発達障害児・者の理解と支援「発達障害・防災・地域」	Bor・n	1	1
	困難事例への対応	調布市	1	1
	留学生介護人材育成連携セミナー	東京 YMCA 医療福祉専門学校	2	2
外部研修参加者			延べ60人	

イ 実習生等の受入状況

実習生等の受け入れについては、延べ158人となり、令和5年度の延べ

233人と比較すると大幅に減少した。専門校の閉鎖や学生の減少が大きく影響したことが原因となっている。一方で中学生の職場体験や京王バスの介護職体験も再開し、徐々にコロナ禍前に戻りつつある。

(単位：人)

学 校 名 等	実 習 目 的	実 習 先			合 計
		特養	デイ・シ	包・訪・居	
都 立 野 津 田 高 等 学 校	介護福祉士	40			40
公益財団法人東京YMCA医療福祉専門学校	介護福祉士	31	21		52
都立多摩職業能力開発センター府中校	介護職員新任者研修	6	6		12
調布市福祉人材育成センター	介護職員新任者研修		2		2
杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生			4	4
東京慈恵会医科大学医学部看護学科	地域連携			12	12
学校法人慈恵大学慈恵第三看護専門学校	在宅看護			2	2
東京都福祉保健財団	介護支援専門員			2	2
京 王 バ ス	介護体験		15		15
中 学 校 職 場 体 験	職場体験		6		6
かいごチャレンジインターンシップ	介護職体験	1	10		11
合 計		78	60	20	158

※デイ・シ＝デイサービス及びショートステイ 包＝地域包括支援センター

訪＝訪問介護事業所 居＝居宅介護支援事業所

ウ ボランティア等の状況

令和6年度におけるボランティアの受け入れ総数は、延べ967人となり、昨年度より増加している。徐々に回復している状況である。

令和5年度に開始した*「らんまんガーデニング倶楽部」は順調に活動を続けている。施設前の花壇がきれいに整備され、面会に訪れる家族から好評を得ている。

*「らんまんガーデニング倶楽部」とは、園芸ボランティアの活動を通じて、健康増進を図る介護予防事業の一つ。活動場所はちょうふの里

(単位：人)

活 動 団 体 ・ 内 容 等		活 動 先		合 計
		特 養	デイ・ショート・包括	
技 術 指 導 ・ ク ラ ブ	書 道	17	121	138
	詩 吟	15		15
	編 み 物		80	80
	音 楽 リ ハ ビ リ	20	88	108
	ク ラ フ ト バ ン ド		39	39

	絵 手 紙		2 3	2 3
	美 術 ク ラ ブ		3 1	3 1
	陶 芸		1 2 2	1 2 2
	は り 絵		4 7	4 7
	小 計	5 2	5 5 1	6 0 3
生活全般	リ ネ ン 類 整 理	2 3 8		2 3 8
諸活動	傾 聴		2 3	2 3
	朗 読	5		5
	マ ッ サ ー ジ			
	ド ッ グ セ ラ ピ ー			
	紙 芝 居			
	活動支援（活動の準備等）		2 5	2 5
	新 年 会			
	敬 老 会			
	バ ス ハ イ ク			
	音 楽 会			
	サ マ ー ボ ラ ン テ ィ ア			
	ふ う り ん 祭 り			
	施 設 周 り 清 掃			
	ホ ー ム 喫 茶			
	らんまんガーデニング倶楽部		7 3	7 3
	小 計	2 4 3	1 2 1	3 6 4
合 計		2 9 5	6 7 2	9 6 7

エ 特別養護老人ホーム 利用食数

(単位：食)

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	2,878	2,879	2,878	10	2,797	2,796	2,796
5	2,979	2,975	2,976	11	2,626	2,625	2,625
6	2,915	2,917	2,916	12	2,705	2,706	2,707
7	2,978	2,980	2,977	1	2,676	2,681	2,678
8	2,980	2,980	2,974	2	2,454	2,456	2,460
9	2,669	2,676	2,674	3	2,807	2,805	2,806
				合計	33,464	33,476	33,467
				1日平均	91.7	91.7	91.7

オ 単独型短期入所生活介護 利用食数

(単位：食)

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	450	374	454	10	506	414	505
5	494	417	488	11	510	428	512
6	445	365	443	12	525	428	526

7	524	429	527	1	494	405	486
8	516	427	517	2	458	378	460
9	499	411	500	3	395	395	486
				合計	5,816	4,871	5,904
				1日平均	15.9	13.3	16.2

カ 行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショートステイ、デ＝デイサービス）

月 日	行 事 名	課 名	献 立 内 容
4月8日	花祭り献立	特・シ・デ	桜寿司、天ぷら、菜の花のお浸し、うどんと人参の炒め、果物、おやつ（まんじゅう）
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
22日	選択メニュー	特・シ	牛丼又は味噌ラーメンから利用者が選択
29日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
5月5日	端午の節句膳	特・シ・デ	ちらし寿司、天ぷら、若竹煮、おすまし、果物、（おやつ：上生菓子(こいのぼり)
10日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、りんごジュース、コココーラ
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
27日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
6月11日	選択メニュー	特・シ	うな丼又はジャージャー麺から利用者が選択
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
28日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
7月7日	七夕献立	特・シ・デ	七夕そうめん、天ぷら、冬瓜のかにあん、果物、（おやつ：やわらか和菓子）
8日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、ぶどうジュース、カルピスソーダ
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
23日	土用の丑	特・シ・デ	うな丼、おすまし、果物
29日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
8月5日	選択メニュー	特・シ	かきあげ丼又はかきあげそばから利用者が選択
15日	終戦記念日	特・シ・デ	すいとん
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
27日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
9月10日	十五夜献立	特・シ・デ	昼 月見うどん 間 月見まんじゅう
12日～18日	敬老祝い膳	デ	赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし（松花堂弁当）（間食） 祝まんじゅう
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
18日	敬老祝い膳	特・シ	赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし（松花堂弁当）（間食） 祝まんじゅう
21日	お彼岸	特・シ・デ	おはぎ ^{ハナツグ} （やわらかおはぎ・あん・ごま・きなこ）
23日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
10月17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
21日	秋の味覚献立	特・シ	松茸ごはん、土瓶蒸し風、さつま汁、柿
28日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
11月15日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種、上生菓子、お好み焼き、カルピスソーダ、ぶどうジュース
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
25日	お寿司	特・シ	にぎり寿司バイキング
25日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
17日	クリスマス会	デ	間食 チョコレートムース
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
18日	クリスマス会	シ	
19日	クリスマス会	デ	間食 チョコレートムース
20日	クリスマス会	デ	間食 チョコレートムース
21日	冬至	特	間食 ゆずまんじゅう
22日	冬至	特・シ・デ	間食 ゆずまんじゅう 夕食 南瓜のいとし煮

22 日 25 日	クリスマス会 クリスマスメニュー	特・ 特・シ・デ	間食 クリスマスケーキとシャンメリー (昼食) 鶏肉の香草焼き、(夕食) ミートローフ (間食) クリスマスケーキとシャンメリー
31 日	お誕生日ケーキの日 年越し	特・シ	バイキング形式(ケーキ 2 種) 年越しそば(海老天そば)
1 月 1 日 4 日～6 日 7 日 11 日 15 日 17 日 18 日	元旦 新年会 七草粥 鏡開き 小豆粥 いなり寿司の日 ホーム喫茶	特・シ デ 特・シ 特・シ・デ 特・シ 特・シ 特・シ・デ	おせち料理、雑煮、(おやつ:ねりきり・甘酒) おやつ 干支饅頭 七草粥 おしるこ 小豆粥 夕食 いなり寿司 ケーキ 2 種類、上生菓子、サンドイッチ、サイダー、 リンゴジュース
28 日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ 2 種)
2 月 3 日	節分献立	特・シ・デ	(昼食) 大豆の煮物、つみれ汁 (間食) 練りきり「鬼」、夕食 恵方巻き
17 日 24 日	いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ 特	夕食 いなり寿司 バイキング形式(ケーキ 2 種)
3 月 3 日	ひな祭り献立	特・シ・デ	ちらし寿司、刺身、高野豆腐の煮物、菜の花浸し、果物
9 日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ 2 種類、上生菓子、お好み焼き、オレンジジュース、甘酒
17 日 22 日	いなり寿司の日 お彼岸	特・シ 特・シ・デ	夕食 いなり寿司 ぼたもちバイキング(やわらかぼたもち・あん・ごま・きなこ)
25 日 25 日	にぎり寿司 お誕生日ケーキの日	特・シ 特	夕食 にぎり寿司 バイキング形式(ケーキ 2 種)

※ 朝食は、「ごはん食」か「パン食」の選択メニューを毎日行っている。

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア 利用者の尊厳の尊重

利用者の「今できること」、「個々の思い」に即したケアプラン作成を心掛け、多職種間で連携して利用者個々に応じたケアの実践に努めた。

ちょうふの里の「コンプライアンスマニュアル」にある期待する職員像を目指し、利用者の尊厳を尊重して日常の業務を適正に遂行するよう心がけた。

イ 利用者支援の充実

利用者の心身の状況や生活課題の情報を各職員が共有できる記録ツールを作成及び活用し、適切な介護・看護・相談支援を職種間で連携して提供することができた。

インフルエンザや新型コロナウイルス等、様々な感染症対応に迫られる中季節行事やレクリエーションを規模や頻度の見直しを行いながら、職員が工夫を凝らして実施した。毎年恒例の保育園交流は、感染症流行の合間を縫って実施することができ、明るく元気に成長した子どもたちの姿に、多くの利用者が感動し、素敵なお顔を笑顔や活気を受け取る貴重な機会となった。

季節性インフルエンザや新型コロナウイルス感染症のクラスターがそれぞれ発生したことを受け、保健所や医療機関と連携を図りながら、感染症対

策を継続的に行った。また、7月には角化型疥癬の罹患者が確認され、それ以降、通常疥癬の罹患者も複数発生したことから、長期間にわたり感染拡大防止策やスキンケアの取り組みを継続し、終息することができた。

何れの感染症についても、収束後には検証を行い、環境因子や職員のエラー因子について振り返りを実施し、今後の感染症拡大防止策に活かしていくこととした。

ウ 職員・人材育成の充実

法人本部階層別研修や外部研修にも積極的に参加を心掛け、職員個々の研鑽を図った。各種委員会が主体となる施設内研修では「高齢者虐待防止」「身体拘束廃止」等、高齢者の権利擁護に着目し日々のケアの再点検の機会とした。

更に、課内研修も複数回実施し、緊急時の対応や吐しゃ物の処理、移動移乗の介助など一部は書面開催となったものの、演習形式も交え実践することができた。

昨年度から引き続き、教育機関等の協力を得ながら社会福祉士や介護福祉士などの実習生を受け入れ、学ぶ場の提供を積極的に行った。

介護を学ぶ機関や学生も年々減少し、未来の介護人材に大きな不安を感じながらではあるが、福祉を志す人材を大切に育成にする体制づくりを進めた。

エ 利用者家族との連携

度重なる様々なクラスターの発生により、利用者家族の面会を長期間制限することとなったが、家族への丁寧な説明や個々の利用者の情報提供に努め、家族への理解を得ることができた。

感染症の収束後は家族と直接顔を合わせる機会を大切にし、ケアプラン説明やカンファレンスを積極的に行い、利用者の日々の生活状況や心身の変化について共有を図ることができた。

(2) 実績報告（特別養護老人ホーム：利用定員100人）

ア 年齢別利用者状況

平均年齢は88.4歳と令和5年度と同数であったが、100歳以上の利用者が3人増加し4人となった。

令和7年3月31日現在（単位：人）

No.	年 齢 別	男	女	合計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0.0
2	65歳以上 70歳未満	0	0	0	0.0
3	70歳以上 75歳未満	1	0	1	1.1
4	75歳以上 80歳未満	0	7	7	7.4
5	80歳以上 85歳未満	2	17	19	20.2

6	85歳以上 90歳未満	5	20	25	26.6
7	90歳以上 95歳未満	5	23	28	29.8
8	95歳以上100歳未満	1	9	10	10.6
9	100歳以上	0	4	4	4.3
合計		14	80	94	100.0
最 高 年 齢 (歳)		98	101	—	—
最 低 年 齢 (歳)		73	77	—	—
平 均 年 齢 (歳)		87.8	88.5	88.4	—

イ 在籍期間

平均在籍期間は3年7か月と若干長期化した。5年以上が計6.1ポイント上昇したが、それ以上に2年未満が8.8ポイント上昇した。

令和7年3月31日現在（単位：人）

No.	期 間	男	女	合計	構成比(%)
1	1 年 未 満	7	18	25	26.6
2	1 ～ 2 年 未 満	3	13	16	17.0
3	2 ～ 5 年 未 満	2	16	18	19.2
4	5 ～ 10 年 未 満	1	29	30	31.9
5	10 年 以 上	1	4	5	5.3
合計		14	80	94	100.0
平均在籍期間		—	—	3年7か月	—

ウ 退所状況

前年度同様退所者数は29人で、退所者の平均年齢は0.7ポイント上昇、平均介護度は0.2ポイント下降した。在籍期間平均が2年1か月大きく短縮し、短期間での退所者が非常に多かった。

No.	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	男	94	4月	三鷹市	長期入院加療	1年 1か月	4
2	男	84	5月	府中市	入院先で死亡	4か月	3
3	女	97	5月	調布市	在宅復帰	1年 4か月	5
4	女	88	5月	府中市	入院先で死亡	3年 2か月	4
5	男	86	5月	調布市	入院先で死亡	2年10か月	4
6	女	89	5月	府中市	長期入院加療	10年 5か月	5
7	女	93	6月	調布市	長期入院加療	4か月	4
8	女	88	6月	調布市	長期入院加療	1年 3か月	5

9	女	83	8月	府中市	長期入院加療	1年10か月	5
10	男	81	8月	調布市	長期入院加療	9か月	4
11	女	93	8月	調布市	入院先で死亡	2か月	4
12	男	83	9月	三鷹市	長期入院加療	4年6か月	5
13	女	88	9月	調布市	長期入院加療	4年4か月	5
14	男	91	9月	調布市	長期入院加療	3年8か月	5
15	女	89	10月	調布市	長期入院加療	3年4か月	5
16	男	87	11月	調布市	長期入院加療	2か月	5
17	女	94	11月	府中市	長期入院加療	1年8か月	5
18	男	97	11月	三鷹市	入院先で死亡	9か月	4
19	男	90	12月	調布市	長期入院加療	2年8か月	5
20	女	87	12月	調布市	長期入院加療	3か月	5
21	女	85	12月	調布市	入院先で死亡	8か月	4
22	女	99	2月	府中市	長期入院加療	1年9か月	3
23	女	96	2月	調布市	入院先で死亡	8年0か月	5
24	男	89	2月	府中市	入院先で死亡	6か月	4
25	男	90	2月	府中市	長期入院加療	2年1か月	4
26	女	82	2月	調布市	長期入院加療	1年1か月	5
27	男	89	3月	調布市	長期入院加療	3か月	5
28	女	89	3月	府中市	長期入院加療	1年4か月	4
29	女	94	3月	調布市	入院先で死亡	1か月	4
平均		89.5	—	—	—	2年1か月	4.4

エ 月別要介護度分布表

要介護5の利用者は11.3ポイント下降したが、要介護4は5.8ポイント上昇し、引き続き要介護4以上の利用者が多くなっている。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
4	0	2	10	39	40	4.3
5	0	2	9	37	42	4.3
6	0	2	9	39	44	4.3
7	0	2	10	38	43	4.4
8	0	2	10	39	43	4.3
9	0	2	11	40	41	4.3
10	0	2	11	40	43	4.3

1 1	0	2	1 1	4 1	4 2	4. 3
1 2	0	2	1 0	4 2	3 9	4. 3
1	0	2	1 0	4 5	3 7	4. 2
2	0	2	1 1	4 3	3 3	4. 2
3	0	2	1 2	4 5	3 5	4. 2
構成比 (%)	0. 0	2. 2	1 1. 1	4 3. 6	4 3. 1	4. 3

オ 月別利用実績

年間利用率は6. 5ポイント目標値に至らず達成できなかった。原因としては疥癬、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの流行により、新規入所者の入所時期をコントロールできなかったことや、インフルエンザでは多数の入院者を出したことなどから利用率が低迷した。また、昨年より死亡退所者数は3人減少したものの突然の死亡の方が多く、新規導入までに時間を要したことにも起因している。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利 用 率 (%)
4	2, 6 7 0	3, 0 0 0	8 9. 0
5	2, 6 8 7	3, 1 0 0	8 6. 7
6	2, 6 3 4	3, 0 0 0	8 7. 8
7	2, 7 2 3	3, 1 0 0	8 7. 8
8	2, 8 1 4	3, 1 0 0	9 0. 8
9	2, 7 6 1	3, 0 0 0	9 2. 0
1 0	2, 8 4 7	3, 1 0 0	9 1. 8
1 1	2, 7 6 4	3, 0 0 0	9 2. 1
1 2	2, 8 1 8	3, 1 0 0	9 0. 9
1	2, 6 7 3	3, 1 0 0	8 6. 2
2	2, 4 7 7	2, 8 0 0	8 8. 5
3	2, 8 1 0	3, 1 0 0	9 0. 6
合計	3 2, 6 7 8	3 6, 5 0 0	8 9. 5

3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）

(1) 重点事項への取組

ア 円滑な在宅生活を継続するための支援

在宅での介護の疑問や悩みなどを話し合う家族会「絆の会」を実施し、日頃の悩みを打ち明けられる場を提供した。職員が家族に向け、気持ちの持ち方や介助方法等のアドバイスをを行い、問題解決に努めた。

行事については、感染症の影響もなく、予定していた夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会、新年会、表彰式を外来ボランティアの協力のもと全て実施することができた。

イ 職員育成の強化

介護技術の標準化を進めるために、研修（スライディングシートの活用）を行い介助に活用でき、利用者や職員の負担軽減ができた。その他の研修や日々のミーティング等を活用しながら基本的な対応を周知した。利用者情報を細かく申し送ることで職員全員が統一した安全な対応ができるように努めた。

ウ 感染対策への対応

様々な感染症や感染予防策を注視しながら、安全、安心な対策を職員で話し合い対応してきたことで、クラスターなどの発生例はなかった。

エ 家族支援の拡充

絆の会やサービス担当者会議に出席し、家族の抱える悩みや自宅での様子を聞き助言などを行った。また、送迎時など家族とのコミュニケーションを積極的に取り問題解決に努めた。

オ 安心・安全の配食と安否確認の実施

配食サービスでは、アレルギーや感染症に十分に注意し、利用者の体調不良による急な職種変更等にも迅速に対応した。また、安否確認が難しい利用者への臨機応変な対応ができた。

(2) 実績報告

ア 通所介護利用実績（一日の利用定員40人）

年間利用率は、昨年度の70.7%から70.2%と0.5ポイント低下した。新規利用者は増加したが、同時にちょうふの里のショートステイを利用される方が増えたため利用率は伸びなかった。下期から各事業所に空き状況と体験利用のお知らせをしたところ問い合わせが多くあったが、迅速な利用には、結びつかなかった。

（単位：人）

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数（日）	利用率(%)
4	715	1,428	221	26	68.8
5	745	1,486	223	27	69.0
6	733	1,464	231	25	73.2
7	773	1,545	232	27	71.6

8	719	1,433	223	27	66.6
9	707	1,409	219	25	70.7
10	769	1,531	234	27	71.2
11	749	1,495	226	26	72.0
12	698	1,382	217	24	72.7
1	642	1,275	197	24	67.0
2	657	1,309	209	24	69.3
3	719	1,425	219	26	69.9
合計	8,621	17,182	2,608	308	70.2
1日平均	28.0	55.8	8.5	—	—

イ 認知症対応型通所介護利用実績（一日の利用定員12人）

令和6年度は、施設入所や在宅生活が難しくなる利用者が終結になるケースも増えた。新規利用者の受け入れを進めてきたが、下期は入院となる利用者が増加したことや年間を通してちょうふの里のショートステイを定期的に利用する利用者が増加したことから、昨年度63.4%であった利用率は今年度64.3%と0.9ポイント微増に留まった。

（単位：人）

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数（日）	利用率（%）
4	225	448	126	26	72.1
5	243	485	135	27	75.0
6	218	434	119	25	72.7
7	212	421	113	27	65.4
8	185	368	98	27	57.1
9	197	392	98	25	65.7
10	202	403	100	27	62.3
11	193	383	98	26	61.9
12	176	351	86	24	61.1
1	160	318	86	24	55.6
2	164	326	82	24	56.9
3	202	403	106	26	64.7
合計	2,377	4,732	1,247	308	64.3
1日平均	7.7	15.4	4.0	—	—

ウ 介護保険外（調布市受託）事業利用実績

（ア）通所入浴サービス

延べ利用者数は、令和5年度の79人に対し、令和6年度は139人と増加した。定期利用の方が入院することなく、コンスタントに利用されている。新規利用の方が4人となったが、3人の方が逝去された。

(イ) 配食サービス

昨年度の１５，９９９食に対し、今年度は１６，４５１食となり、４５２食と微増した。

(単位：人)

月	通所入浴サービス (１日の定員８人)	配食サービス (１日の食数、昼夕合計 200 食)
４	７	１，３７０
５	９	１，３９６
６	９	１，３４２
７	１２	１，４１６
８	１０	１，３８２
９	１０	１，３５２
１０	１３	１，３７１
１１	１４	１，３３０
１２	１７	１，４２５
１	１６	１，４１２
２	１１	１，２７７
３	１１	１，３７８
合計	１３９	１６，４５１
１日平均	０．５	５３．４

エ 通所介護要介護分布表

年間利用者数では、要介護３の方が令和５年度８５５人に対し令和６年度は１，４２１人と増加した。要介護４の方は令和５年度５６０人に対し、令和６年度は２９４人、要介護５の方は令和５年度２６６人に対し、令和６年度は７４人と減少した。要介護３が大幅に増加したことから自力で動ける方が多くなり、事故のリスクや見守りの強化が求められた。要介護４と５が減少したことから重度化は落ち着いている。

(単位：人)

月	事業対象者	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
４	０	３２	１０９	２２８	２２８	８６	１９	１３	７１５
５	０	２８	１１３	２３８	２５１	８７	１９	９	７４５
６	０	２８	９４	２１５	２３７	１１５	２４	２０	７３３
７	０	３１	１０３	２４８	２６２	９７	２５	７	７７３
８	０	２４	９５	２４４	２２８	１０４	１６	８	７１９
９	０	２６	７３	２２６	２３３	１２９	１２	８	７０７
１０	０	２７	７７	２５４	２６７	１２０	１５	９	７６９
１１	０	３０	７０	２３３	２３２	１５９	２５	０	７４９
１２	０	２９	６０	２３０	２２１	１３２	２６	０	６９８
１	０	２９	５３	２１８	１８４	１２９	３０	０	６４２
２	０	２８	６６	２０２	１９６	１２７	３８	０	６５７
３	０	３６	７３	２２１	２０３	１３６	４５	０	７１４

合計	0	348	985	2,757	2,742	1,421	294	74	8,621
比率(%)	0	4.0	11.4	32.0	31.8	16.5	3.4	0.9	—
1日平均	0	1.1	3.2	9.0	8.9	4.6	1.0	0.2	28.0

オ 認知症対応型通所介護要介護分布表

令和5年度は要介護4、5の比率合計が36.4%であったが、令和6年度は33.6%と2.8ポイント減少した。介護度は軽いが認知症に伴う周辺症状(BPSD)のある方が増えた。

(単位:人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	18	62	64	52	29	225
5	0	0	24	71	64	53	31	243
6	0	0	19	63	62	43	31	218
7	0	0	18	69	49	37	39	212
8	0	0	18	41	57	37	32	185
9	0	0	25	33	71	28	40	197
10	0	0	28	23	97	26	28	202
11	0	0	27	18	99	21	28	193
12	0	0	15	20	85	18	38	176
1	0	0	15	17	83	16	29	160
2	0	0	13	16	78	13	44	164
3	0	0	18	28	69	20	67	202
合計	0	0	238	461	878	364	436	2,377
比率(%)	0	0	10.0	19.4	37.0	15.3	18.3	—
1日平均	0	0	0.8	1.5	2.9	1.2	1.4	7.8

4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）

(1) 重点事項への取組

ア 利用者援助の充実

新規面接や前日の家族連絡の際、利用者や家族の意向を可能な範囲で尊重し、利用者にとって必要な援助を介護計画書に反映した。

また、利用中も利用者にとって利用しやすい満足していただけるサービスの提供に努めた。

イ 人材育成に伴う研修

ショートステイ内での課題を抽出し、6月に「緊急時の対応について」、8月に「オムツのあて方について」、10月に「身体拘束について」、10月と11月は、「感染症対策について」、最後の1月は「高齢者虐待防止について」の勉強会を行った。

ウ 感染対策

職員や利用者に新型コロナウイルスやインフルエンザに罹患した方はいた

が、安心、安全に利用できる環境整備や感染予防策の強化に努め、ショートステイ内での感染拡大を防ぐことができた。

エ 安定した事業運営

利用率向上に向け居宅介護支援事業所へ営業活動に行くとともに、毎月空き情報を提供することで、新規利用や追加利用へ繋げた。

(2) 実績報告（ショートステイ：利用定員20人）

ア 利用実績

新規利用者は令和5年度の59人に対し、令和6年度は62人の契約締結であった。また、廃止利用者は令和5年度の107人に対し、64人であった。令和5年度の登録廃止利用者数が多いのは、長期間利用がない利用者をケアマネジャーに照会するなど登録名簿の整理を行ったため、例年よりかなり多くなっている。令和6年度は、例年どおりである。

定期的に利用されていた方が施設へ入所されるケースが多く、新規利用者は増えているが、年間目標を大きく下回る結果となった。

(単位：人)

区 分	新規利用者	廃止利用者	利用実人数	利用延べ人数	稼働日数(日)	月毎の利用率(%)
4月	5	5	53	473	30	78.8
5月	4	4	56	523	31	84.4
6月	10	6	58	479	30	79.8
7月	3	1	57	497	31	80.2
8月	7	2	65	586	31	94.5
9月	5	7	61	535	30	89.2
10月	4	7	59	480	31	84.5
11月	6	1	59	524	31	84.5
12月	6	6	60	514	31	82.9
1月	3	13	54	457	31	73.7
2月	3	1	49	371	28	66.3
3月	6	11	53	399	31	64.4
合 計	62	64	684	5,838	365	80.0

イ 要介護分布表

令和5年度の要支援1及び2の利用者が2.2%に対して、令和6年度は1.9%と0.3ポイントの減少、要介護1から3は令和5年度59.2%に対して令和6年度は54.0%と5.2ポイント減少となった。なお、要介護4及び5は、令和5年度36.5%に対して令和6年度は44.1%と7.6ポイント増加となり、ショートステイで施設入所に慣れその後に施設入所される方が多かった。また、医療的ケアが必要な方も多く、退所後入院されそのまま終結となるケースもあった。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	生活支援等	合 計
4	0	9	54	49	126	144	91	0	473
5	0	8	57	40	173	195	50	0	523
6	3	8	56	39	163	172	38	0	479
7	1	11	46	56	149	182	52	0	497
8	0	15	45	71	175	224	56	0	586
9	0	8	44	72	163	203	45	0	535
10	0	4	66	80	146	173	55	0	524
11	0	12	35	76	146	137	74	0	480
12	0	8	27	82	184	141	72	0	514
1	0	8	19	73	199	131	27	0	457
2	0	8	12	56	147	131	17	0	371
3	0	8	25	54	147	143	22	0	399
合計	4	107	486	748	1,918	1,976	599	0	5,838
比率	0.1	1.8	8.3	12.8	32.9	33.8	10.3	0	100%

5 地域支援課

(1) 重点事項への取組

ア 地域包括支援センター

(ア) メイン・サブセンターの運営

地域包括支援センター職員が、メイン・サブセンターにローテーションで勤務をすることで、地域包括支援センターの全職員が担当圏域をより広く把握できるようになった。担当圏域内はもちろん、市内外の医療福祉機関に訪問、会議への声掛け等を全職員で行った。ICTを活用して会議に参加しやすい環境作りや、支援困難なケースについても関係者で連携がしやすい環境を作り、連携の強化を図った。

(イ) 総合相談支援業務の充実

高齢者やその家族の総合相談窓口として、「包括的・継続的ケアマネジメント」、「虐待防止・権利擁護」、「介護予防支援」などの地域包括支援センターの基本的な機能に加え、「認知症支援・医療福祉連携」について、全スタッフが協同し総合相談事業を行った。

イ 居宅介護支援事業所

(ア) 収支の安定と信頼されるマネジメントの実施

併設の包括と連携し、他の居宅事業所では受けにくい介護認定結果が出ていないケースや退院して在宅での看取りを希望する短期支援ケースを積極的に担当し、地域の利用者が切れ目なくサービス利用ができる環境を提供した。また、調布市以外の保険者からの認定調査依頼が増加し、近隣施設に入所している方の調査を積極的に受けた。

(イ) 介護支援専門員の質の向上

ヤングケアラーや障害、難病等に関する研修にも積極的に参加し、多様な支援が必要な利用者・家族のニーズに応えられるケアマネジメントの資質向上を図った。

調布市のケアプラン点検事業に2人の主任ケアマネジャーが参加協力し、利用者の自立支援につながるケアプラン、地域課題等の確認を行うとともに、事業所内でも情報共有をして、ケアマネジメントの質向上に努めた。

ウ 訪問介護事業所

(ア) 利用者の自立支援を意識したサービスの提供

利用者が自分のペースで快適な在宅生活を送れるように、「やりすぎない」「できることは一緒にやってもらう」をモットーに「自立支援」を意識したサービス提供を展開した。その結果、要介護から要支援に区分変更になった利用者は、手ごたえを感じることができた。

(イ) 経営の安定

「選ばれる事業所」として3年前から収益は増加を続けているが、8月から9月にヘルパーが次々と感染症等の体調不良で休みが続き、10月にはサービス提供責任者が2人体制から1人体制に減少したことで、利用者数の減少を余儀なくされた。

その結果、令和6年度の収益は、令和5年度比で、上半期については、105%の増収、下半期については、73%の減収であった。

(2) 実績報告

ア 地域包括支援センター 区分別相談件数

電話相談、訪問での相談が増加している。

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電 話	425	456	399	477	516	470	471	463	445	483	433	475	5,513	459.4
来 所	44	41	52	40	32	27	53	45	39	49	57	46	525	43.8
訪 問	175	141	141	138	122	113	149	173	159	148	122	123	1,704	142.0
その他	9	22	15	17	13	11	29	26	28	49	49	61	329	27.4
合計	635	660	607	672	683	621	702	707	671	729	661	705	8,071	672.6

イ 地域包括支援センター 相談内容別件数

「保健医療」の相談については、医療機関から入院時の相談、介護保険申請についての相談が多く、医師から直接、患者についての相談が入るケースも増えてきている。

虐待相談は、終結したケースがあり、昨年より減少している。だが、家庭不和や精神疾患・障害のある家族を抱えるケース等の「家族問題」は増えており、虐待に繋がらない途切れない支援をしていく必要がある。

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健医療	245	225	151	214	228	204	229	261	200	248	230	279	2,714	226.0
介護保険	203	229	163	166	184	201	251	234	209	204	185	234	2,463	205.3
予防給付	143	387	231	252	242	172	229	241	264	250	250	256	2,917	243.1
総合事業	231	142	134	157	158	110	132	168	138	192	175	150	1,887	157.6
ケアマネ支援	21	16	24	20	18	40	23	8	14	21	14	55	274	22.8
介護相談	19	17	7	7	9	14	12	8	16	12	16	22	159	13.3
認知症相談	28	25	19	29	47	44	20	29	21	19	30	28	339	28.3
経済・住宅問題	8	37	18	13	18	18	17	16	13	26	45	51	280	2.0
家族問題	30	43	34	43	46	30	33	33	53	28	32	50	455	37.9
権利擁護（成年後見）	2	8	7	8	2	6	10	3	5	4	3	9	67	5.6
権利擁護（地権・その他）	7	5	1	2	1	2	9	6	5	0	7	3	48	4.0
虐待相談	9	3	2	9	3	5	6	7	9	11	4	4	72	6.0
その他	63	59	67	86	81	83	74	63	59	70	78	60	843	70.3
合計	998	1,196	858	1,006	1,037	929	1,045	1,077	1,006	1,085	1,069	1,301	12,607	1,050.6

ウ 地域包括支援センター 調布市一般施策相談件数

「紙おむつの給付」についての相談は、利用要件が要介護3以上に変更になってから年々減少傾向にあったが、今年度は、医療からの退院相談や介護保険申請の相談が増えたことと比例して増加した。

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食サービス	8	11	14	9	8	11	7	9	1	11	3	9	101	8.4
日常生活用具	17	10	4	2	9	2	9	3	2	5	8	3	74	6.2
おむつの給付・助成	20	23	26	20	11	12	24	18	15	20	21	24	234	19.5
緊急通報システム	6	6	4	13	6	8	15	11	7	5	7	12	100	8.3
徘徊探知器	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	2	8	0.7
その他	5	7	1	3	3	10	13	7	2	2	0	3	56	4.7
合計	56	57	49	46	38	45	68	49	28	43	40	53	573	47.6

エ 地域包括支援センター 実態把握件数

月平均69.8件の実態把握を行った。新規相談に対しては迅速に訪問し、ニーズの確認やサービス調整等の実態把握を行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	99	60	99	67	65	51	89	82	72	66	39	69	838	69.8

オ 地域包括支援センター 見守りネットワーク 連絡件数

通報は、隣人・知人からが最も多く、次いで民生委員によるものが多かった。今年度は警察・消防からの通報も増えている。

広報紙を年3回発行し、市民・地域の関係機関に配布と説明により「みまもっと事業」のPRを行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通 報	9	7	4	7	3	7	2	4	6	6	10	10	75	6.3

カ 地域包括支援センター 予防プラン作成数

(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)

予防プラン作成は、センター業務の半分近いウエイトを占めている。

福祉用具貸与や訪問看護のサービス併用者は多く、「介護予防支援」のプランが総合事業単体の「介護予防マネジメント」を大きく上回っている。

(ア) 介護予防支援

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	131	132	143	133	128	129	122	120	130	128	130	135	1,561	130.1
委託作成	37	40	35	38	28	36	35	30	38	37	35	37	426	35.5
合計	168	172	178	171	156	165	157	150	168	165	165	172	1,987	165.6

(委託率 21.4%)

(イ) 介護予防マネジメント (総合事業対象者を含む)

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	71	75	75	76	75	74	72	73	72	75	75	76	889	74.1
委託作成	26	23	25	24	31	25	26	27	28	26	27	26	314	26.2
合計	93	98	100	100	106	99	98	100	100	101	102	102	1,203	100.3

(委託率 26.1%)

※ 「介護予防マネジメント」は、総合事業（通所介護、訪問介護）のみ利用するプラン

キ 居宅介護支援事業所の居宅サービス計画書作成件数

前年度の2,127件と比較すると、11件減少し、2,116件となった。減少の理由としては、長期支援をしていた利用者の逝去や看取り支援の増加により短期間で終了となったことが挙げられる。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	181	185	179	173	175	176	171	178	175	173	177	173	2116	176.3

ク 居宅介護支援事業所の要介護・要支援認定調査件数

令和6年度は、新型コロナウイルス感染予防のための臨時的な取り扱いが終了し、調布市からの調査委依頼は月平均6.4件だった。また、他自治体からの調査依頼が増え、三鷹市や小金井市など9自治体だった。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	8	10	10	9	10	8	9	2	10	12	11	4	103	8.6

※ 施設認定調査含む。

ケ 訪問介護事業所の訪問介護派遣状況

8月と9月に感染症によりヘルパーが交代で休んだことに加え、10月からサービス提供責任者が2人から1人に減ったことで、利用者数の減少を余儀なくされ、下半期は目標値に達することはできなかった。

(単位：時間)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
介護保険派遣時間	503	542	496	497	437	397	382	363
障害サービス派遣時間	12	11	12	11	11	13	11	9
介護保険外派遣時間	45	33	43	44	37	34	38	36
訪問介護派遣時間合計	560	586	551	552	485	444	431	408

(下段に続く)

区分	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護保険派遣時間	395	357	393	361	5,123	427
障害サービス派遣時間	12	12	9	11	134	11
介護保険外派遣時間	44	38	32	37	461	38
訪問介護派遣時間合計	451	407	434	409	5,718	477

※ 派遣時間については、分の単位30分以上を切り上げて1時間とし、30分未満は切り下げて計算している。

V 上布田保育園

第1 総括

少子化の進行に伴い、保育園における定員割れが顕在化してきた中、「選ばれる保育園」を目指し、中期経営計画に基づいた自園の強みを生かした取り組みを推進した。

本園では、令和3年度から、子どもたちにとって過ごしやすく、豊かな育ちに繋がる環境作りを目指し、園庭の改造計画の策定に着手してきた。令和6年度においては、職員会議において「自然がそばにあり触れ合える園庭」「やってみようが見つかる園庭」「遊びながら体作りができる園庭」の三つのテーマを掲げ、子どもが育つ園庭の在り方について協議を重ねた。

会議の過程では、職員が主体的に遊び環境に必要な要素等を学び、意見を出し合いながら議論を進め、それを具体的な園庭の改造計画に落とし込んでいく作業を行った。この取り組みを通じて、子どもたちの育つ環境が整えられると同時に、職員一人ひとりの思いが可視化され同僚性が育まれた結果、保育の質の向上にも繋がったと実感している。

築山の設置により、遊びの中で自然と体づくりが促進されただけでなく、遊びの拠点が築山を中心に分散されたことで、子ども同士の衝突や転倒が減少し、受診を要する怪我の発生件数も大きく減少した。今後も子どもの身体的発達や遊びの様子を丁寧に検証しながら、豊かな育ちに繋がる環境づくりを推進していく。

一方、重大事案として、6月に、1歳児クラスの散歩時に公園からの帰園時に園児1人を取り残すという事案が発生した。幸いにも他園の職員により速やかに保護され大事には至らなかったが、重大事案と捉え、法人本部とこども統括室の協力のもと再発防止検討会を立ち上げ、問題点の究明及び改善策の検討を行った。検討会には調布市保育アドバイザーの参画も得て、多角的な視点から検証を行った。その結果を踏まえ、「園外保育における安全マニュアル」の改訂を行い、危機管理体制の強化に努めた。改訂に当たっては、職員が実際の業務の中で直面するリスクを洗い出し、それに即した具体的かつ実践的な対応を盛り込んだ。改訂後は、全職員を対象とした読み合わせを実施し、内容の正確な理解と共通認識の徹底を図った他、ロールプレイ形式の研修を通じて、緊急時の対応力向上にも取り組んだ。

今後も、園外活動における安全管理を徹底するとともに、子どもの命と健やかな育ちを最優先に捉え、職員一人ひとりが安全への意識と責任感を高く持ち続けられるよう、定期的な見直しと研修の実施を継続していく。園外保育を単なる散歩や移動にとどめることなく、子どもたちにとって新たな発見や豊かな経験の場として機能させるべく、安全性との両立を図りながら、今後も計画的かつ誠実に取り組みを継続していく。

第2 経営実績

1 定員

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	10	12	18	22	22	90
実数	8	12	14	21(2)	21(1)	22(2)	98

※()内は、障がい児の受入れ数

2 利用率

(単位：%)

事業名	令和6年度 実績	令和5年度 実績
上布田保育園	108.9	108.9

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 中期経営計画への取組

中期経営計画に基づき、令和6年度に計画していた設備修繕として、屋外用放送設備、1階給湯器の交換、全室扇風機の交換、全室水栓金具の交換及び給食室グレーチング側溝蓋交換を行った。

また、今後の大型修繕として計画をしている施設内全室のLED化、調理室等の給湯器の交換については、調布市へ予算計上を要望し、市からは、令和8年度の予算計上を検討する旨の回答を得た。

子どもの環境整備として取り組んできた園庭の改造計画においては、園庭中央への築山の設置を始め、ブランコの撤去及び畑の設置、更に柑橘系の樹木の植樹を行った。

保護者支援の取り組みとしては、4年ぶりに全園児対象の家族遠足「ふれあい遠足」を実施し、保護者同士の交流の機会を作った。

(2) 豊かな育ちに繋げる保育

子どもたちの豊かな育ちを目標に、主体的な遊びを引き出す保育環境の整備に取り組んだ。築山の設置にあたっては、乳児用と幼児用の山を連結して配置することで、年齢が異なる子ども同士が互いに意識しながら自然と一緒に遊ぶようになり、心身双方において確かな成長の手応えを感じることができた。

また、毎日四肢をしっかりと動かしながら築山で遊ぶことで体が作られ、その結果、衝突や転倒の頻度が減少し、怪我の件数も減少するなど、安全面においても良好な成果が見られた。

柑橘系の樹木を園庭に植樹したことにより、アゲハ蝶の産卵や羽化などの自然の営みを間近で観察できる機会が生まれた。子どもたちは日々夢中になって観察を続け、自然への関心と探求心が一層深まった。

食育の取り組みにおいては、野菜の栽培や調理保育、毎日の「お味見当番」や「朝の散歩を楽しむ隊」を通じて保育と食育が一体となって生活に溶け込み、食べることに興味を持つこと、楽しむことを日々感じる事ができた。日々調理職員と盛んに交流することで、子どもたちの調理室への関心が高まったことをきっかけに、年長児を中心に「調理室体験ツアー」を実施した。

また、今年度初めての試みとして、用務員を中心に「ワークショップ」を週一回開催し、園庭で使用するテーブルやイスを子どもたちと共に製作した。素材の木にやすりを掛けるところから始まり、ペンキ塗り、組み立て、釘打ちに至るまでの工程を子どもたちが主体的に取り組んだ。自分たちが作った作品への愛着が芽生え、大事に扱い、片付けをするという習慣づけにも繋がった。年末には門松を作り、新年を迎える準備を子どもたちと一緒に行う事ができた。ワークショップの取り組みは、「やってみたい」気持ちから出来上がった達成感までを味わえ、豊かな経験に繋がっている。

(3) 子どもを真ん中に職員と保護者、保護者同士が語り合える関係作り

保護者が安心して子育てに向き合い、職員や子育て仲間と楽しく語り合える環境作りに注力した。「朝の散歩を楽しむ隊」や「ふれあい遠足」では、家族同士が会話を楽しみながら散歩やコーナー遊びに参加し、クラスを越えて子育て仲間の輪が広がる機会となった。

また、日々の保育においても保護者が来園する機会を多く設けた。保育士体験や保育参観、ターフ張り、もちつきの手伝い、パネルシアターやペープサートの演者、虫博士の講習など、多くの保護者が子ども達のために時間を作って園に足を運んでくれた。

このような取り組みを通じて、子どもを真ん中に、職員と保護者が連携しながら子どもの豊かな育ちに繋がる環境作りを共に進める事ができた。共に取り組み、保育を楽しみ、育ちを喜び合う時間を持つ事ができた。

(4) 職員がお互いを認め合い、高め合いながらいきいきと働く職場

職員同士が子どもたちの育ちや保育について語り合い、学び合いながら、いきいきと働けるように様々な園内研修に取り組んだ。園内における交換研修では、担任を一時的に交換することにより互いの保育を理解するだけでなく、園全体として目指す保育の方向性の擦り合わせにも繋がった。

また、調布なないろ保育園との交換研修では、互いのいいところを自園に取り入れようとする意識が高まり、保育の質向上への動機づけとなった。

更に、年に一度開催している食育研修では、栄養士が記録した園児の食事風景の動画や写真を用いて、子どもの咀嚼や嚥下の発達、身体発達と食具の使用との関係性、更には子どもの食事環境に関する理解を深めた。研修を通じて、食事と遊びは切り離せないものであり、子どもの発達段階に応じたアプローチ

の重要性を改めて認識する機会となった。

2 実績報告

(1) 園児の受入状況

月別の園児受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	4歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	1,176

(2) 地域の子育て支援

ア 保育園体験

地域の親子を対象に、0歳児、1歳児及び2歳児クラスに各3組ずつ受け入れ、月1回、在園児と共に活動に参加する「保育園体験」を行い、園児や担任との交流、地域の保護者同士の交流を行った。

参加状況については、0歳児クラスにおいては3組の登録があった。1歳児クラスは2組の登録に留まったが、一定の参加が見られた。2歳児クラスについては登録者がなく、近年、プレ幼稚園や保育園に入園する2歳児が増加している傾向が背景にあると考えられる。実際に保育園を体験した保護者からは、「地域の親子にとって非常に有意義な時間になった」という感想も聞かれるため、今後もこの取り組みを継続したいと考えている。

イ 給食体験

(ア) 離乳食体験

地域で子育てを行う保護者を対象に、離乳食を始める際のサポートを行った。栄養士や保育士による指導のもと、離乳食開始時期の目安や初期・中期食の進め方、調理方法などを学んでもらい、実際に離乳食を試食する機会を提供した。6組の応募があり、ゆったりした雰囲気の中で進めていくことができた。

離乳食体験の状況

(単位：組)

実施日	参加者
9月20日	6
11月15日	6
のべ参加者総計	12

(イ) 乳児食体験

地域の乳児とその保護者を対象に、給食を園児と同じ環境で一緒に食べる機会としていたが、食事や会食における感染症の感染リスクが高いことから、令和5年度に続き、令和6年度も実施を中止した。

通常であれば、乳児食の味つけや量を実際に体験してもらうとともに、食事の環境設定や食具の選定等についても情報提供を行い、家庭での食育支援の一環としていた。

(ウ) 保育講座

親子のふれ合いの時間を大切に、日々の子育てがより楽しくなることを目的として、親子で参加できる講座を中心に年6回開催した。親子で過ごす有意義な時間となり、保護者からは好評を得た。

保育講座の開催状況

(単位：人)

月 日	講 座 名	参加者
6月8日	ハーブのカラフルバスボン作り	20
9月14日	わらべうたであそぼう	22
11月30日	羊毛フェルトで作るツリーやクリスマス飾り	11
11月9日	折り紙リースづくり～秋～	10
12月14日	クリスマス音楽会	36
1月25日	家庭での絵本の選び方・楽しみ方	14
参加者総計		113

(3) 園児の健康報告

ア 感染症

令和6年7月に手足口病、令和7年1月にインフルエンザAの集団感染があり、多摩府中保健所と連携を取りながら感染拡大を防止するための対策を行った。その他大きな流行はなかったが、感染症が発生した際にはその都度子どもの体調観察に注意し保護者と連絡を取り合うよう努めた。

【感染発生状況】

(単位：人)

手足口病	32	溶連菌感染症	17
インフルエンザ A	17	突発性発疹	8
マイコプラズマ肺炎	7	伝染性紅斑	3
ヘルパンギーナ	3	ヒトメタニューモウイルス感染症	2
流行性角結膜炎	2	アデノウイルス感染症	2
インフルエンザ B	1		
感染者総計			94

イ 受診状況

令和6年度に受診した園児は4人であった。昨年に比べると大幅に受診件数は減っており、小さな怪我は見られたものの、大きな怪我が少ない一年であった。次年度においても、引き続き大きな怪我が発生しないよう安全な保育環境の維持に努めていく。

【受診ケース】

月 日	性別・年齢	項 目	受診先
11月7日	1歳・男	左手掌に5mmほどのトゲが刺さっており受診	皮膚科
1月9日	5歳・女	他児の蹴ったボールが至近距離で顔面に当たり左眼充血し受診	眼科
1月23日	4歳・女	転倒した際に前頭部を花壇にぶつけ内出血と腫れが見られ受診	脳神経外科
4月3日	5歳・男	滑り台の上で他児に押された際に遊具に顔面を打ち歯肉に内出血	歯科
受診件数総計			4件

ウ その他

園医による健康診断は、0歳児を対象に毎月実施し、1歳児から5歳児については年2回の受診機会を設定した。歯科健診は年2回実施し、併せて歯磨き指導も年2回実施した。4・5歳児クラスにおいては、染め出し指導を行った。その他は保健活動として尿検査、視力検査を実施し、園児の健康管理の充実に努めた。

【実施した保健活動】

検査名	時期	人数	結果
尿検査	6月	53人	陽性者1人
歯科健診	5月	91人	虫歯あり3人
歯磨き指導	6月	61人	染め出し22人(5歳児のみ)
歯科健診	10月	82人	虫歯あり3人
歯磨き指導	12月	55人	染め出し37人(4・5歳児)
視力検査	11月	18人	受診勧奨5人
総計			360人

また、職員研修として、手洗い研修、嘔吐処理研修、救急救命、エピペン研修及びアレルギー研修を実施し、職員の知識の定着を図り、子どもたちが保育園で安全に健やかに生活できるように努めた。

(4) 障がい児保育

令和6年度に受け入れた障がい児は、3歳児2人、4歳児1人、5歳児2人の計5人であった。子ども発達センターに通う子どものための交流保育は、昨年度同様、令和6年度も受け入れ可能ではあったが、近隣に該当する子どもがいなかったことから、実施には至らなかった。

ア 作業療法士との連携

生活や日々の活動の中で見られる子どもの様子や、今後の支援に向けて検討したいことなどを個人記録としてまとめ、作業療法士に目を通してもらった。月1回の来園時には、その記録を基に子どもの実際の様子を観察してもらい、その後のケース会議で、専門的な視点から子どもへの支援方法、指導の仕方等のアドバイスを受け、日々の保育に活かした。

イ 保護者対応

保護者からの要望や希望があった際は、職員を介して作業療法士への相談等を受け付け、子どもにとって最善の支援となるよう保護者と共に考えを深める体制を整えた。

ウ 関係機関との情報共有

必要に応じて、関係する療育機関と連絡を図り、双方の状況を把握する中で得られた情報を、日々の保育に活かせるよう努めた。

(5) 年間行事報告

1年間に実施した行事は、次のとおりである。

月日	項目	内容
4月1日	入園進級式 (新入園児の保護者参加)	園庭で実施し、一年の始まりを皆で喜び合った。新入園児の保護者を招き、新入園児一人ひとりを紹介した。進級児が歌やダンスを披露し、温かい雰囲気の中で実施することができた。
4月1～24日	クラス懇談会	保護者の参加も多く、1年間で大切にしていきたいことを伝えるとともに、自己紹介を交えたフリートークなどを和気あいあいと行い、職員と保護者同士の顔合わせとなるような懇談会となった。
5月18日	ふれあい遠足	4年ぶりに全園児と保護者参加で神代植物公園自由広場に開催した。ふれあい遊びやコーナー遊びを通して子どもたちを真ん中に保護者と職員、保護者同士がお互いを知り合い、心と心が触れ合えるような貴重な機会となった。
6月25日	プール開き	前日に5歳児クラスに布多天神へ安全祈願に行ってもらうことで、プール開きでお神酒をまくことの意味、理解へと繋ぐことができた。5歳児のみプールサイドに入り、どのようなことをすると危険かなど考え約束事を決めたり、玩具を洗ったりした。3,4歳児はプールの外側から応援していた。
7月10～13日	夏祭り 3 days + 夏祭り (土) (父母会共催)	父母会共催行事ということで、どのように保護者にも参画してもらい、皆が楽しみに当日を迎えられるか、父母会と話し合いをしながら準備を進めてきた。保育士体験の中で、夏祭り当日までの手作りおもちゃ作りや父母会のゲーム作りなどを保護者に協力してもらい、当日までの雰囲気を一緒に感じてもらうことができた。5歳児クラスはたくさんの出店を企画、準備して出店した。毎日「振り返りの会」を行うことで日々工夫を重ね、まわりの子どもたちが楽しめる店へと発展させていった。毎日の様子をドキュメンテーションで配信したり、手作り玩具作製の協力を募ったりと、保護者と共に取り組むことができた。 父母会からはダーツゲームコーナーの出店協力があり盛り上がっていた。保護者が参加できる最終日の土曜日は、日頃から子どもたちが取り組んできた姿をそのまま感じてもらうことができ、親子で楽しむ姿が見られた。準備を含め3daysでの子どもたちの育ちと、保護者と共に盛り上げていこうという目的は、十分に達成できた。
8月29日	プール仕舞い	5歳児が、ひと夏使った玩具を洗った後、最後のプール遊びを楽しんだ。
9月7日	さくら組の日	クラスの中でやり取りを重ねながらグループごとにチームを作り、一日をどの様に過ごすかについて子どもたちが主体となって計画を立てた。当日はチームごとに準備して進め、出来上がりを皆で見せ合って楽しんだ。カレー作りでは、野菜の皮むきやカットをして炒めるところまで行い楽しんでいた。
9月13日	おじいちゃん おばあちゃん	保育の中で祖父母や身の周りにお年寄りの方への関心を高め、感謝の気持ちを持ちながら、祖父母宛にはがきを書く機会を持つ

	の日	たり、来園していただき一緒に楽しく過ごすことで、世代間交流の場を持つことができた。
10月12日	かみふだあそぼうかい	「みんなで作る みんなが楽しい かみふだあそぼうかい」をテーマに、日常の中で友だちと作り上げた運動遊びを思い切り楽しみ、ひとまわり大きく成長した姿を保護者と分かち合える機会にしたいという思いで、子どもたちと内容を話し合いながら、準備を進めた。 子どもたちが考えたサーキットやゲーム遊びを自分たちで運営、進行し、その様子を「大きな保育参観」という形で保護者に見てもらった。また、会当日までの話し合いや準備の経過を、種目ごとのコーナーにてドキュメンテーションを作り掲示し、その過程の中で子どもたちの育ちをわかりやすく伝えた。当日は、主体的に動く子どもたちの姿に職員も保護者も感動した。
11月15日	バス遠足（幼児）秋のお散歩（乳児）	幼児クラスは一緒に生活している友だちと「遠足」という特別な一日を過ごすことで関係を深めるため、昨年同様バスを使い、「アクアパーク品川」まで出かけた。 乳児クラスは「秋のお散歩」として各クラスで公園などへ遊びに行き、たんぽぽ組はジュースとおやつを持って行き特別感も楽しめた。
10月28日	芋掘り	秋の旬な自然・食材に触れ、自分たちの力で収穫できた喜びを感じるため幼児クラスが縦割グループに分かれ、芋掘りを行った。
11月1日	いも煮会	「秋の味覚を皆で味わう会」として、2～5歳児は簡単な調理体験を通し、給食の芋の子汁づくりの手伝いを行った。給食は、青空の下、園庭で会食をした。調理から関わり、楽しい雰囲気の中での給食時間になり、秋の味覚を味わった。
12月6日	もちつき	新しい年を迎える前に餅をつくことの意味を伝えながら、餅つきを体験した。有志のお父さん1人に「モチレンジャー」として手伝いをして頂き、一緒に子どもたちを盛り上げてもらった。子どもたちは子ども用の杵を使い、自分たちでつく楽しさを味わった。餅の感触を楽しみながら、5歳児はのし餅作りの体験をした。
12月24日	クリスマス会	5歳児の子どもたちが当日に向け企画を考え準備したりしながら当日を迎えた。職員の出し物や子どもたちの作った劇やけん玉などの得意なことへの披露などを楽しんだ。サンタクロースも登場し、お礼に子どもたちから歌のプレゼントもした。
1月8日	新年会	昔から行われてきた伝承遊びやお節料理の意味など、新年についての日本の伝統を子どもたちに伝えた。 その後、園庭や室内でたこあげ、独楽回し、カルタ、福笑い、すごろくなど、正月ならではの遊びを皆で楽しんだ。
1月24日	人形劇（父母会共催）	毎年来園して下さる人形劇団により今年も開催できた。エブロンシアターやパネルシアター、手袋人形を子どもたちは瞳を輝かせながら楽しんでいた。
2月4～13日	クラス懇談会	一年での子どもたちの育ちと来年度に向けた話を織り交ぜ、一年間での子どもたちの成長を分かち合う懇談会となった。保護者の参加も多く、保護者同士の交流とともに情報交換や一年を振り返りながら子どもの育ちが実感できる良い機会となった。
3月7日	春のお弁当の日	幼児クラスはグループごとに行き先など話し合って計画を立て、一緒に生活している友だちとバスや電車など公共交通機関を使ってそれぞれ公園まで遠足に出かけた。 乳児クラスは3月後半に年長児との思い出を作り、クラスごとに5歳児と一緒に散歩に出かけた。
3月20日	就学を祝う会	22人の卒園児全員が揃い、門出の日を迎えた。令和6年度も卒園児、保護者、職員とでゆったりとした中での開催にするため、祭日に実施した。就学児、在園児（3・4歳児）、職員みんなで思いを込めて会場作りをし、上布田らしく手作り感があふれていた。 お別れ太鼓や野点（お茶）も楽しみ、子ども、保護者、職員が一体となって就学する喜びを分かち合うことができた。
3月25日	お別れ会	4歳児が企画・運営をし、「さくらさんとお別れする会」を実施した。5歳児は就学を祝う会で行った歌や言葉を在園児の前で披露し、

		3・4歳児からも歌と言葉を贈った。在園児からのプレゼント(チューリップの鉢植え)を渡し、温かみのあるとても良い会になった。
定例	誕生会	その月生まれの園児の誕生を皆で祝うことで、大きくなった喜びを共感しあった。誕生児の保護者が参観することが定着してきており、一緒に大切な一日を過ごすことができた。
定例	伝統行事	こどもの日、七夕、節分、ひな祭りなど季節の伝統行事において、それぞれの意味、内容について話を聞いたり、製作や歌を歌ったりして楽しんだ。

(6) 研修の状況

令和6年度は、外部研修の機会を増やし、職員のスキルアップを図ることを目標に計画を立てていたが、職員の休職や年度途中での体制変更が重なり、計画どおりの実施には至らなかった。キャリアアップ研修については、年度の後半に6人が受講することができた。

園内研修については、例年どおり年間を通して実施した。令和6年度は「ドキュメンテーションについて」をテーマに、ドキュメンテーションの考え方、見せ方、伝え方について再度勉強し直し、DVD教材を用いた勉強会や事例を出し合っの研修を通じて、保育に必要な重点事項についてグループワークで探求する勉強会を行った。この勉強会は、日頃の保育について職員間で語り合える良い機会にもなっており、現在進行中の園庭改修計画においても、改めて子どもたちにとって必要な保育環境を皆で考えていく良い機会となった。

このほか、虐待をテーマにした研修や栄養士による職員向けの離乳食講座、看護師によるエビペン・AED講習会、嘔吐処理研修なども実施した。

なお、外部研修への参加状況は次のとおりである。

ア 職種別専門研修

対象者		研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員		新人職員研修	4～6月	外部講師	5人
		接遇研修	9月	外部講師	
		2歳児の保育実践について学ぶ	6/20	東京都保育研究大会	
		小規模プール衛生講習会	5/29	東京都多摩府中保健所	
		エビペン投与シュミレーション研修	6/19	調布市子ども生活部	
保育士	勤続2～4年目	乳幼児期の子どもの育ちを考える～保育って楽しい！～	6/3～6/30	東京都社会福祉協議会	5人
		さくら・さくらんぼリズム遊び	5/9	調布市保育園協会	
		多様な子どもたちの発達A-1	6/13	調布市保育園協会	
		多様な子どもたちの発達A-2	7/11	調布市保育園協会	
	勤続6～10年目	保護者対応虐待について	9/6 10/18	調布市保育園協会 調布市保育園協会	6人

		多様な子どもたちの 発達B-1	11/7	調布市保育園協会	
		多様な子どもたちの 発達B-2	12/3	調布市保育園協会	
	勤続 1 1 年目 以上	どの子ども輝ける保育 を目指して	1/8	東京都社会福祉協議会	
分野別リーダー		保育士等キャリアア ップ研修（障がい児 保育）	12/18～2/19	一般社団法人保育栄養安 全衛生協会	4 人
		保育士等キャリアア ップ研修（食育・アレ ルギー）	12/18～2/18	（一社）家庭まち創り政 策ラボ	
		保育士等キャリアア ップ研修（乳児保育）	2/1～3/4	（一社）家庭まち創り政 策ラボ	
		保育士等キャリアア ップ研修 （障がい児保育）	12/22～2/21	（一社）家庭まち創り政 策ラボ	
C S V 1、C S V 2		保育士等キャリアア ップ研修（マネジメ ント）	3/10～3/26	一般社団法人繭の糸	1 人
副主任		保育士等キャリアア ップ研修（マネジメ ント）	11/20～11/27	東京都社会福祉協議会	1 人
看護師		絵本をもとに伝えて みよう～保育園の生 教育～	5/24	調布市保健研修会	3 人
		赤十字幼児安全法短 期講習	1/16	日本赤十字社	
		食物たんぱく誘発胃 腸症について	1/30	東京都福祉保健財団	
栄養士		保育園の給食従事者 ステップアップ学習 会（全4回）	5/25～7/27	子ども食事研究所	5 人
		子どもの食事と家庭 支援	10/3	東京都社会福祉協議会保 育部会	
調理員		食物アレルギー対応 と最新情報	7/11	東京都社会福祉協議会保 育部会	3 人
		子どもの食べる機能 の発達と障がい	1/30	東京都社会福祉協議会保 育部会	
		保育や食育に活かせ る食行動の心理学	12/4	東京都社会福祉協議会保 育部会	
参加延べ人数合計					3 4 人

イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
保育士 （正規職員のみ）	アレルギー研修	4/1	上布田保育園	18人
栄養士・調理員 （正規職員のみ）	給食室会議	6/18・10/22	上布田保育園	6人
全職員 （日中非常勤職員含む）	AED研修	9/11, 10/23, 11/13, 1/16, 2/19,	上布田保育園 （看護師）	32人

全職員 (正規職員のみ)	学びに向かう力 豊かな人間性を育む	1/25	上布田保育園	20人
全職員 (正規職員のみ)	食育研修(離乳食について)	9/14	上布田保育園 (栄養士)	22人
全職員 (正規職員のみ)	虐待についての研修	9/2	上布田保育園 (施設長)	22人
保育士・調理員	2施設合同勉強会	7/12, 7/24, 10/25, 11/18, 2/14	上布田保育園 調布なないろ保育園	10人
保育士・調理員、 (正規職員のみ)	園内交換研修	6/13, 7/2, 9/18, 10/22, 11/14, 12/4, 1/14	上布田保育園	14人
全職員 (非常勤含む)	保健研修	4/1, 6/5, 6/19, 10/16,	上布田保育園	50人
参加延べ人数合計				194人

(7) 食を大切にする保育の推進

令和6年度も、給食年間計画に基づき、旬の食材を使い、四季の移り替わりを感じられる手づくりの美味しい食事とおやつ作りに努めた。

昨年に引き続き「梅ジュースづくり」、食事前に少しだけ味見をしてグループの友達に味見の感想を伝える「おあじみ当番」、保護者と一緒に土曜日の朝に園周辺を散歩し、家庭から持ってきたおにぎりや園で作った豚汁を園庭で食す「朝のお散歩楽しみ隊」(希望者のみの参加)を実施した。「おあじみ当番」は、子どもたちの生活の中に定着し、生き生きと振り返りの時間に友達に感想を話す姿が微笑ましく、「食することは生きること」を体現しているようで頼もしく感じられた。梅ジュースづくりは異年齢グループで取り組み、完成したジュースを暑い夏に皆で味わうことができた。朝の散歩も参加を楽しみにしている保護者も多く、今後も継続していきたいと考えている。

新しい取り組みとしては、「三色栄養のペープサート」を保護者と職員が演者になって子どもたちに披露する機会を設けた。日常の食育活動を保護者と共に取り組む貴重な体験となった。また、年長児を対象とした「給食室ツアー」を実施し、身支度を整え、調理師から業務用の様々な機器についての説明を目を輝かせながら聞いていた。その様子は保護者からも好評であった。

園庭の花壇やプランターで季節の野菜を育てて収穫し、子どもたちが野菜を洗って土を落として給食室に届けたものを、その日の給食に調理して入れることも定着しつつある。2歳児と幼児グループでそれぞれ種類の違うきのこを栽培し、収穫を楽しみ、食事として味わう体験を重ねることができた。こうした豊かな食体験の様子は、毎月の給食だよりを通じて保護者に伝え、保護者と共に子どもたちの成長を喜び合うことを心がけた。

「食育アレルギー会議」は、令和6年度も継続して実施し、アレルギー児の情報共有のほか、「子どもの食事で大切にしたいこと」「発達を踏まえた具体的

な食事の助け方」について学び、職員間で共通認識を持つことを目標に取り組んだ。

また、秋に行った園内研修では「上布田保育園の食事大切にしたいこと」をテーマに、正しい理論と実践、乳児・幼児それぞれで使用している食器や食具一つひとつに意味があることを学ぶとともに、0歳児から5歳児までの食事の場面を動画に収め、年齢ごとの発達の特徴や成長の筋道を順序立てて追いながら、職員全体で大事にしていることを改めて共有する機会とした。

ア 行事食と季節の料理

	行事食	季節の料理
4月	たけのご飯（誕生会）・菜の花サラダ ハートと星のクッキー	たけのこサラダ・春野菜のスープ 鰯のねぎみそ焼き
5月	こいのぼりハンバーグ・兜パイ（子どもの日） ピースごはん・若竹汁・バナナケーキ（誕生会）	鮭のチーズ焼・アスパラベーコンソテー 新じゃがと鶏肉の煮もの・サラダずし
6月	鮭と青菜のごはん・鶏のみそ味唐揚げ・ パイナップルケーキ（誕生会）	新ごぼうのサラダ・たたき胡瓜のサラダ （歯と口の健康週間）鰯フライ かみなり汁・あじさいゼリー・茶つきり むしパン（新茶）
7月	七夕そうめん（七夕） 枝豆ご飯・鶏の南蛮漬（誕生会） 鰯のかば焼き丼（土用の丑の日）	夏野菜カレー・なすミートスパゲティ おくらのスープ・ラタトゥイユ かぼちゃサラダ・ゆでとうもろこし
8月	梅としらすと青菜のごはん・チキンカツ・ アイスクリーム（誕生会） けんちん汁・さばのみそ煮（非常食）	冷やしうどん・冷やし中華・鶏と冬瓜の スープ・棒棒鶏・なすのミートグラタン すいかのパンチ
9月	くりごはん・はんぺんチーズフライ・大 納言ケーキ（誕生会）	のっぺい汁・けんちん汁・さばの塩焼き まめなサラダ 二色おはぎ・スイートポテト 月見うさぎのホットケーキ・ぶどうゼリー・ きのこごはん
10月	しょうがご飯・さばのおろし和え・ラー パーツアイ・マロンケーキ（誕生会）	さつま芋ごはん・きのこのカレー 森のきのこスープ・さんまの塩焼・れん こんサラダ・スイートポテトサラダ ぶどうゼリー・ふかし芋
11月	菜飯・芋の子汁（芋煮会） 黒米ごはん・なめこ汁・アジフライ・りん ごケーキ（誕生会）	ツナときのこのスパゲティ・さつま芋カ レー・秋のシチュー・カリフラワースー プ・鯖のみそ煮・魚とほうれん草のグラ タン・蓮根ハンバーグ・大根とツナの中 華風サラダ・スイートポテト・
12月	鮭と青菜のご飯・チキン南蛮・バナナケ ーキ（誕生会） かぼちゃとさつま芋のサラダ（冬至） クリスマスピラフ・フライドチキン・フ ルーツサンド（クリスマス）	年越しうどん・塩バターラーメン・ぶり 大根・豚肉とごぼうの炒め煮・おろしハ ンバーグ・蓮根カレー炒め・ブロッコリ ーとささみみのサラダ・カリフラワーの カレーサラダ
1月	七草がゆ（七草） 鏡びらきのおしるこ（鏡びらき） タコライス・フルーツきんとん・キャロ ットケーキ（誕生会）	鶏の松風焼き・さばの煮つけ・ぶりの照 り焼き・豚肉と大根の炒め煮・カリフラ ワーの酢みそ和え・ブロッコリーのお浸 し・

2月	おにっごはん・つみれのみそ汁・きびだんご（節分） 黒米ごはん・ヤンニョムチキン・りんごケーキ（誕生会）	冬にゅうめん・みぞれ汁・カリフラワースープ・ぶり大根・マカロニグラタン 納豆和え・おからの炒り煮・野菜チップス
3月	鮭ずし・鯖の西京焼き・菜の花サラダ・ミルクもち（桜色）（ひなまつり） 生姜ごはん・蓮根ハンバーグ・ポパイケーキ（誕生会）	塩バターラーメン・タコライス・カレーうどん・チキンカレー・鶏の唐揚げ・はんぺんチーズフライ・人参しりしり・ココア揚げパン・フルーツサンド（年長児のリクエスト献立）豚肉とふきの煮もの たけのこサラダ・二色おはぎ

イ 食育

4月	たけのこ皮むき	10月	さんまの姿を見よう
5月	グリンピースむき	11月	芋煮会 野菜ちぎり、包丁きのこの栽培、収穫
6月	そら豆のさやむき 梅の収穫と梅ジュースづくり	12月	もちつき2～5歳 お箸のおはなしと練習
7月	枝豆とり とうもろこしの皮むき	1月	スイートポテトづくり 食事の姿勢、マナーのおはなし
8月	夏野菜の収穫	2月	野菜ちぎり（2歳）
9月	非常食を食べよう 「さくら組の日」カレーづくり	3月	

ウ 給食での給与栄養目標量

保育園での給与栄養目標量については、本年度も年間通しての設定とした。

	エネルギー	蛋白質	脂質
乳 児	503kcal	17.6 g	16.8 g
幼 児	566kcal	21.1 g	18.5 g

エ 食物アレルギー児の状況

令和6年度は、アレルギー児6人（卵のみ1人、ごま1人、くるみとピーナッツ2人、くるみとピスタチオ1人、ペカンナッツ1人）への対応を行った。卵アレルギー児については食材を除去したうえで代替食を提供した。ごま及びナッツ類（くるみ、ピーナッツ、ピスタチオ、ペカンナッツ）については、安全を最優先し給食での使用を控える対応とした。

(8) 防犯・防災対策

ア 避難訓練

訓練は4月から始め、月を増す毎に設定を細かくし、これまで以上に職員が緊張感を持って臨めるよう日程を定めず実施する月を設定するなど、様々な状況に対応できるようにした。

また、令和6年度も様々な時間に発生した災害想定での訓練も設定し、少ない職員数の中での訓練を実施した。

その他、防災計画及び自衛消防組織編成を見直し、地震・火災対策に応じた役割分担をより明確化するとともに、職員同士の伝達、協力体制を強化した。

(単位：人)

月 日	内 容	園 児	職 員
4 月 23 日	火災訓練、消火訓練	94	32
5 月 14 日	火災訓練、消火訓練	83	23
6 月 11 日	火災訓練、消火訓練	86	26
6 月 22 日	地震訓練、消火訓練	8	5
7 月 4 日	地震訓練、消火訓練	4	3
7 月 19 日	地震訓練、消火訓練	78	21
8 月 21 日	地震訓練、火災訓練、消火訓練	81	19
9 月 25 日	火災訓練、消火訓練	79	32
10 月 23 日	火災訓練、消火訓練	91	21
11 月 6 日	地震訓練、消火訓練	83	26
11 月 12 日	防犯訓練、通報訓練	90	29
12 月 9 日	火災訓練、消火訓練	82	22
12 月 21 日	地震訓練、消火訓練	6	5
1 月 24 日	地震訓練、引取訓練	76	22
2 月 6 日	地震訓練、消火訓練	11	6
2 月 26 日	火災訓練、地震訓練、消火訓練	89	29
3 月 11 日	地震訓練、火災訓練、消火訓練	87	30
参加者総計		1128	351

イ 救命訓練（AED・エピペン）

年間を通して8回、4人から5人程度のグループで救急救命訓練を行った。内容としては、心肺蘇生法訓練、人形を使った異物除去法訓練を実施した。

また、年度末にはアレルギー症状発生時の対応訓練を行い、アレルギーマニュアルに基づき具体的に行動出来るよう細かな対応手順について確認した。なお、アレルギー症状発生時対応訓練については、職員会議の時間内に実施した。

(単位：人)

月 日	参加職員数	月 日	参加職員数
5 月 2 9 日	4	7 月 1 7 日	4
9 月 1 1 日	4	1 0 月 2 3 日	4
1 1 月 1 3 日	4	1 2 月 1 8 日	4
1 月 1 6 日	4	2 月 1 9 日	5
参加者総数		3 3	

ウ 侵入者対策、防犯訓練

近年、子どもの施設を対象にした不審者による事件が報道されることが増えており、安全対策の重要性が一層高まっている。このような状況を踏まえ、より緊張感をもって訓練に臨めるよう、マニュアルをもとに職員間で内容を確認した上で、事前に具体的な訓練内容は職員には伝えず、実際に職員がどのように動くことができるのかを検証した。

当日は、保育士体験で来ていた保護者に協力を依頼し、保護者役として参加してもらうことで、普段と変わらない自然な状況を再現することができた。

子どもたちの避難誘導や不審者への対応など、この訓練によりマニュアルにある役割に沿った動きの難しさや課題点が明らかになり、防犯に対する職員の意識がより一層高まる結果となった。訓練後の振り返りを踏まえ、防犯マニュアルの見直し及び改訂を行った。

VI 調布なないろ保育園

第1 総括

コロナ禍を経て、これまで制限のあった生活から、かつての保育園での過ごし方に戻った現在、コロナ禍での苦難をこれからの強みに変えていけるよう、日々の保育園での暮らしを見直し、「安定した気持ちでいられる環境づくり」を職員全体で目指した。子ども達にとっての最善とは何か、より良い保育園での暮らしとはいかなるものかを問い続け、検討を重ねた一年だった。

令和6年度は、これまでの子どもの育ちを検証し、健康や安全の確保、発達の保障等の観点から、子ども自身が選んで一日の暮らし方を主体的に選択できるような保育を進めた。その結果、0歳児クラスから2歳児クラスの子ども達においても、クラスの枠を超えて遊びたい部屋で過ごしたり、食事や休む時間を自身のタイミングで行ったりする姿が見られるようになり、それぞれが満足のいく暮らしを送れるようになってきた。

子ども達が複数の部屋へ行き来するようになったことで、保育の見直しや情報共有の重要性がこれまで以上に高まり、職員間での連携の必要性が増している。子ども一人ひとりをより深く理解し、職員同士の思いや考えを丁寧にすり合わせながら、保育の質を高めていくことが今後も重要である。

3歳児クラスから5歳児クラスにおいては、3つのグループに分かれて行う異年齢活動を実施し、子ども達だけでなく、担当職員もそれぞれの特性を活かしてグループを形成し、好きな遊びを深めながら交流を進めた。年齢を超えて憧れの気持ちを抱いたり、互いに面倒をみたりする関係性が生まれており、共に遊ぶことの楽しさや、時には喧嘩を通じて、他者の気持ちを感じられることが、子ども達の人間形成にも大きく寄与している。このような日々の子ども達の姿や、個々の育ちを保護者と共有していくため、より効果的な保育記録の活用方法や、情報発信の在り方についても、今後更に検討を深めたい。

また、子ども達だけではなく、保護者や職員も含め、皆が幸せに暮らせる保育園とは何かを問い続け、共にこの保育園で暮らす仲間として、それぞれが活躍の場を見つけ、輝ける機会を持てることを目標としてきた。その一環として、保護者が保育園運営に参画できる機会を増やし、これまで行ってきた保護者参加型の活動に加え、令和6年度は新たに、保護者の有志に協力いただき「ワンコインカット」等の企画も実施した。今後も保育士を始めとする全ての職員と子ども達、保護者とが一体となった保育園運営を継続していく。

一方で、一時保育や地域交流事業を利用する家庭の中には、子育てに不安のあるケースも多く見られ、地域における保育園としての役割の重要性を改めて感じている。今後も、地域に支えられ、地域を支える保育園としての役割をしっかりと認識し、子育て支援に向けた取り組みを引き続き実施していく。

第2 経営実績

1 定員

(単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	14	20	20	20	20	100
実数	9	14	20(1)	21(1)	21(1)	21(1)	106

※ カッコ内は、障がい児の受入れ数

2 利用率

(単位:%)

事業名	令和6年度実績	令和5年度実績
調布なないろ保育園	106.0	106.0

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 中期経営計画の取組

中期経営計画に掲げた5つの経営課題に基づき、計画どおりの進行を図るべく取り組んだ。子どもの成長や地域、保護者との関わり等、取り組みによる成果が見られた一方で、職員採用に関わる求人方法や、求人媒体の選定、コスト管理等において課題も顕在化した。今後は、法人本部及びこども統括室との連携を一層強化しつつ、計画の見直しと実践に取り組んでいく。

(2) 遊びと暮らしを繋ぐ保育実践

保育園での一日の生活が、より子ども自身の選択によって行えるよう、10月に園全体で環境の改善を実施した。特に乳児クラスにおいては、クラスの枠を超えて遊びのコーナーを設定し、食事や午睡の空間を分けることにより、異年齢の関わりが増えた。これにより、子どもが好きな遊びに没頭でき、食事や午睡のタイミングを自ら選択しやすくなり、個々がより満足して生活できるようになった。

また、幼児クラスでは、3クラス体制と併せ、異年齢集団で形成する「なないろ探検隊」「なないろ工房」「劇団なないろ」の3グループを編成した。これは、子ども達の興味関心に基づいて編成されたものであり、異年齢活動の中で年上への憧れや年下への思いやりなど、互いに助け合う関係が多く育まれた。

乳児、幼児それぞれが共に遊び、生活を共にする中で、楽しさや心地よさを感じると同時に、喧嘩など多少のすれ違いを経験することで、子ども達の主体性や社会性を大きく育むことができた。今後は、乳児と幼児が自然に関わりあえる生活環境を整えながら、大人も対話し、共主体で営む保育を実践する。

(3) 保育園と保護者、地域との関わり

毎週金曜日には地域家庭を対象に、また、月に一度土曜日に、保育園に通う家庭を対象に縁庭※を開放した。更に、保護者が子どもを迎えに来た際に立ち

※ 令和5年度から園庭を「縁庭」と表記している。令和2年度の園庭改修を機に、園児や保護者、地域の方々が集い交流を深める場として、「ご縁が繋がりますように」との願いを込めたもので、今では保護者や地域にも広く浸透している。

寄ることができる「おつかフェ」や、保育園内で夕飯を提供する「七色亭おつかカレー定食」、加えて「お父さん・お母さん集まれ」といった企画が定着し、これらの場を通じて出会った保護者同士が、日常の育児の中で助け合える関係性を築く姿が見られるようになった。

また、本年度は、保護者会において出された意見を基に、夏まつりの会の準備やワンコインカット、キャンドルナイトなどの企画に保護者が参加できる機会を設けたことで、園と保護者との繋がりが一層深まった。

地域との関わりにおいては、凸凹山の森での遊びや、絵本の読み聞かせサークル「カラコエの花かご」との継続的な交流を通じて、子ども達が地域の方と触れあう機会や、地域の方が保育園の様子を知る機会を創出することができた。令和7年度においても、子ども達の経験に「嬉しい縁」を大切に育てていく。

(4) 職員の資質向上

令和5年度に引き続き、上布田保育園との交流実習を実施した。保育方法や環境設定で得た学びを自園に置き換えて考察し、日々の保育の中で実際に活かしてきた。

また、理想に近い保育を行っている他園を見学した経験を踏まえ、職員間で保育の方向性について共通の目的意識を持つことができ、保育環境等の見直しを図りながら、目指す保育に近づくことができた。

更に、月に一度実施しているテーマ別の園内研修においては、職員同士が活発に意見を交換し合う場となっており、成果や課題を振り返る中で、学びと対話が深まる良い機会となっている。

2 実績報告

(1) 園児の受け入れ状況

月別の園児受け入れ状況は、次のとおりである。

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	20	239
	1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
計		106	106	106	106	105	106	106	106	106	106	106	106	1,271

(2) 地域の子育て支援

ア 一時保育事業

平日の一時保育利用率は、80%を超え、一時保育事業のニーズが年々高

まっている。令和6年度は昨年度に比べ、利用人数が394人増加した。近年、私立幼稚園の受け入れ年齢が下がってきているため、一時保育利用児の年齢も乳児クラスが中心となっている。子育てに悩みの多い年齢でもあり、継続して一時保育を利用していくことで、保護者との信頼関係を築くことができる。その中で、子育ての具体的な手立てや発達への心配などについて、気軽に相談できる環境が整ってきており、一時保育事業が地域において果たす役割の大きさと必要性を強く感じている。

(単位：人)

	一時保育延べ利用児童数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	74	54	61	86	101	82	93	87	102	108	115	138	1,101

イ 地域交流事業

令和6年度は、自園の縁庭を生かした泥んこ遊びや水遊び、また、園児と一緒に散歩へ出かけるなど、日頃の保育の中に地域の子ども達が入り、関わりを深めていく様子が見られた。また、夏まつりの会や餅つき、節分など季節の行事にも参加してもらい、家庭では得難い経験が出来たことから、保護者から好評を得た。

毎週金曜日の登録縁庭開放は継続的に利用される家庭もあり、保護者同士の繋がりになる良い機会となっている。

(単位：組)

保育園体験	参加者
6月7日	2
7月2日	2
7月6日	2
10月25日	2
11月22日	2
12月11日	4
12月20日	1
2月3日	1
計	16

ウ 0歳児交流

出産を控えた妊産婦や生後4か月未満の子を持つ保護者、また、その祖父母などを対象とし、0歳児クラスの保育や、離乳食講座を実施する中で、子育て相談を行った。

実際に乳児クラスにおいて子ども達と関わり遊ぶことで、子ども達の発達について理解を深めてもらうことができた。子育て相談では、特に離乳食に関する悩みを抱える家庭が多く、実際に保育の様子を見学してもらい、どのように子ども達がどのように食事をしているかを知ることや、離乳食

講座において食事形態の説明や味見の体験を通じて理解が深まり、子育て支援へと繋げることができた。

(単位：組)

実施日	参加者
6月27日	3
7月10日	1
9月18日	1
12月4日	2
2月12日	1
計	8

エ 保育講座

日頃の保育中で行っている遊びや食育活動をもとに、在園児の家庭を対象に保育講座を行った。

乳児から幼児まで幅広い年齢の子どもが参加しやすい内容とし、家庭ではなかなか体験できない内容であることから、毎回多くの参加希望があった。特に食育活動は人気が高く、参加希望者が多かったため2部制にして実施するなど、非常に好評であった。

(単位：組)

実施日	内容	参加者
7月13日	手形・足形アートや思い出の作品を作ろう！	11
11月11日	親子で一緒にさくらんぼリズムに挑戦！解説付き！	12
2月1日	恒例になりました！餃子の皮で作る色々トッピングピザ作り！	14
計		37

(3) 食育活動

「食べることを大切にし、感謝の気持ちが持てる子ども」「正しい食習慣が身につく子ども」「食材に興味・関心を持ち楽しく食べる子ども」の3点をテーマに、栄養士や調理員が中心となって、食育の月目標を立て実践した。

実施にあたっては、食育実践計画表を作成し、保育士と事前に内容について話し合い、評価・反省を行った。子ども達に分かりやすく伝えるため、エプロンシアターや紙芝居、パペットを用いたほか、給食時には喫食の様子を見に行くなどして状況把握に努め、月1回のカリキュラム会議で報告を行った。

また、年間を通して食材に触れる調理活動や、保育と連携した様々な調理保育を実施することができた。郷土料理献立の際には、掲示物で出身の職員を紹介したり、縁庭できりたんぼ作りをしたりと子どもたちの興味や関心を引き出す工夫を行った。

更に、縁庭での芋煮作りや、保育講座でのピザ作り、夕食を園で提供する「おつかカレー定食」の実施などを通じて、保護者との交流の場も広がった。保護者

からは、家庭での様子の共有や提供したカレーの作り方、材料についての質問などがあり、給食職員が保護者と交流する良い機会となった。積極的なSDGsの取り組みとして、野菜を皮つきのまま使用し、食品ロス削減を目指すと共に、有機野菜や無農薬野菜の積極的な活用に努め、子どもと大人双方にとっての豊かな経験に繋がった。

ア 行事食と郷土料理

月	行事食	郷土料理
4月		郷土料理（岐阜県） ・鶏ちゃん焼き
5月	子どもの日 ・こいのぼりカレー等	
6月		世界の料理献立～韓国～ ・ヤンニョムチキン ・チョレギ風TTサラダ等
7月	七夕 ・お星さまご飯 ・鶏のからあげ等	
8月		郷土料理（宮崎県） ・チキン南蛮
9月	防災の日（非常食） ・きのこご飯 ・いわしの缶詰等	世界の料理献立～スペイン～ ・パエリア等
10月	開園記念日 ・鶏ごぼうご飯 ・銀ダラの西京味噌焼き等 運動会応援献立 ・ぶひぶひソースカツ丼等	
11月	和食の日献立 ・松風焼き ・酢の物等	郷土料理（鳥取県） ・どんどろけ飯
12月 アレルギー 除去強化月	なかよし献立 ・煮込みハンバーグ もちつき ・おかき クリスマス ・わかめご飯 ・フライドチキン等	
1月	七草 ・七草粥 鏡開き ・おかき	郷土料理（秋田県） ・きりたんぼ汁
2月	節分 ・鬼そぼろご飯	
3月	5歳児リクエスト献立 ・鮭のマヨネーズ焼き ・ちゃんぽんめん ・カレーライス等 ひな祭り ・ひな祭りごはん	

	・鶏の照り焼き ・春野菜サラダ等	
--	---	--

イ 食育活動

4月	さくらのケーキ（5歳児）	11月	竹パン（幼児異年齢）
6月	抹茶のプリン（5歳児）	11月	焼き芋（全体）
6月	梅シロップ（5歳児）	11月	焚火の会（全体）
6月	ブルーベリー牛乳（3歳児）	11月	焼きおにぎり（全体）
7月	索餅作り（5歳児）	12月	クリスマスクッキー（3歳児）
7月	ミントジュース（4歳児）	12月	焼きしいたけ（全体）
7月	枝豆の塩ゆで（4・5歳児クラス）	12月	焼きエリンギ（全体）
7月	餃子の皮でピザ（3歳児）	1月	きりたんぼ（全体）
7月	おにぎり（2歳児）	1月	クッキー（2歳児）
8月	かぼちゃクッキー（4歳児）	2月	焼きおにぎり（2歳児）
9月	お月見団子（5歳児）	2月	豆炒り 焼嗅がし（5歳児）
9月	焼きおにぎり（2歳児）	2月	五平もち（幼児異年齢）
10月	ホットドッグ（5歳児）	3月	うどん作り（3歳児）

※ 日々の保育の中で野菜の皮むき・おにぎり作りを実施（5月～3月）

※ 米研ぎ・炊飯（5歳児クラス）

(4) 保健報告

ア 健康管理

夏に手足口病が園内で流行し、短期間に2～3回手足口病に感染する園児が相次ぎ、職員への感染も数名あった。その他の感染症については、地域の流行に依拠して一時的に感染者の増加があったものの、大規模な感染には至らなかった。

令和6年度も連絡帳アプリを積極的に活用し、特に欠席者に対しては感染症情報を迅速に伝えることで、病気の確定診断に結びつけることができた。

また、ケガの報告においては創部の写真を添えて配信するなど、迅速に状況報告を行い、保護者の不安軽減に努めた。

保健指導としては、例年どおり手洗い指導、歯みがき指導を実施した。更に、令和4年度から導入しているプライベートゾーン指導は、幼児クラスに指導範囲を拡大し、継続して実施した。

【感染症罹患状況】

（単位：人）

手足口病	29	ヒトメタニューモ	2
溶連菌	22	ヘルパンギーナ	2
インフルエンザ A	13	流行性角結膜炎	1

ウイルス性胃腸炎	12	マイコプラズマ肺炎	1
RS ウイルス感染症	5	咽頭結膜熱	1
突発性発疹	4	伝染性膿痂疹	1
新型コロナウイルス	3		

イ 受診ケース

ケガの内容は主に頭部や顔面の外傷、口腔内のケガであったが、多くは念のために受診したものであった。一方で骨折が3件及び爪の剥離が1件発生し、これらについては継続治療を要したため、法人及び市に報告を行った。

月 日	性別・クラス	項 目	受診先
4月23日	男児・2歳児	他児が右脛に噛みつく	皮膚科
6月7日	男児・5歳児	ブランコ遊びで足を打撲	整形外科
7月22日	女児・5歳児	保育室内で転倒。鼻を打撲	耳鼻科
7月24日	男児・2歳児	保育室で転倒。歯肉出血。	歯科
10月16日	男児・3歳児	保育室内でジャンプ後に左足骨折疑い	整形外科
10月17日	男児・5歳児	跳び箱で手を着いた際に左手指骨折	整形外科
12月23日	男児・4歳児	縁庭滑り台で転倒、歯肉出血と歯動揺	歯科
1月16日	女児・2歳児	保育室内で床に口を打撲。歯肉出血	歯科
1月17日	女児・3歳児	保育室内で転倒。右手首骨折	整形外科
1月27日	女児・0歳児	玩具が額に当たり皮下出血	形成外科
2月19日	男児・3歳児	縁庭で転倒。顎をぶつけ歯肉出血	歯科
3月12日	男児・3歳児	引き出しが足に落下。足の爪剥離	形成外科
受診件数総計			12 件

(5) 避難訓練及び防災対策

避難訓練は、例年同様、日中の時間帯や土曜日・延長保育時間など様々な状況における災害を想定し月1回以上実施した。6月から12月までは告知訓練とし、1月からの訓練は抜き打ちで行った。

11月に実施した避難訓練では、4・5歳児が、第三避難所になっている調布市立第五中学校まで避難した。調布市立第五中学校の前では、避難所の標識を確認し、どのような災害時に適した避難所なのかを確認し理解を深めた。

また、令和6年度の水害訓練は、学童クラブと合同で、職員・園児・学童児による垂直避難訓練を行った。過去の訓練を通じて明らかになった課題を踏まえ、持ち出し備品や非常食、保育に必要な備品などを運搬し、災害対策本部を立ち上げ、限られた空間の中で子ども達が待機しながら、食事の準備など必要な対応が可能かどうか確認を行うことができた。

(6) 年間行事報告

一年間に実施した行事は、以下のとおりである。

月 日	項 目	内 容
4 月 1 日	入園式	在園児代表として 5 歳児、4 歳児は参加したい子のみの参加。5 歳児の歌「勇気 100%」の披露、メダルのプレゼントをして新入園児の入園を祝った。
4 月 19 日	4・5 歳児春の遠足	4・5 歳児で武蔵野の森公園に行く。4 歳児は初めてであったが、5 歳児と手をつないで歩くことで会話もはずみ、しっかりと歩くことができた。縦割りグループにして一緒に遊び、お弁当を食べる等して異年齢での交流も深めた。
5 月 15 日	3 歳児春の遠足	虫や自然が好きな子ども達であったため、多摩川河川敷に行き、虫取り網を使つての虫取りや土手での段ボール滑りを楽しむ。帰園後、縁庭でのお弁当は初めてということもあり、子ども達はとても喜んで楽しんでいた。
7 月 6 日	夏祭りの会	昨年同様、じっくりと楽しめるよう、乳児・幼児と時間差をつけて実施した。様々な形で保護者に希望を募り、一緒に準備を進めることで、つながりを感じることができた。また、非常勤職員の手伝いもあり、飲食コーナーも増やすことができて当日は家族で楽しむ姿が見られた。
8 月 2 日・3 日	お泊り保育	子ども達の発案でお化け屋敷を行うことになり、制作段階から楽しんでいた。当日は他クラスを招いて楽しんでもらい、充実感を味わうことが出来た。また、夜の散歩で、カブト虫やクワガタ虫を捕まえるための「バナナトラップ」を仕掛け、翌朝の散歩で見に行く等、普段では味わえない体験もして、宿泊行事を通して大きな自信につながった。
9 月 3 日～13 日	おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会	昨年の反省をもとに多くの祖父母と交流できるよう、1 週間から 2 週間の行事に変更して行った。希望者を募り、各クラスで交流したが、祖父母がそれぞれの得意なこと（楽器・絵画など）を披露してくれたことで子ども達も親しみをもち、興味津々で交流を楽しんでいた。
10 月 19 日	運動会	令和 6 年度も昨年同様、3 歳児クラスと 4、5 歳児合同の 2 部制とし、入れ替えで行った。テーマを「みんなでキラリ！運動会」とした。運動会までの道のりとして日々の各クラスの活動の様子やキラリ！等を全職員や保護者に周知出来るように掲示したことで、当日は温かい応援の中、子ども達は楽しんでやることが出来た。
11 月 13 日	秋の遠足（5 歳児）	貸し切りバスを利用し神奈川県相模原市にある草戸山（364m）登山をする。ほぼ他登山者に会わずゆっくりと登ることができ、きのこや木の実、植物、鳥の声などたくさんの自然に触れ、持って行った図鑑で名前を調べる等、興味関心を深めるよい登山となった。また、キラキラと輝く城山湖も堪能し子ども達の気分も上がり、自然と助け合ったり声を掛け合ったり、子ども達同士の仲もより一層深まった。
11 月 22 日	秋の遠足（3 歳児）	秋の自然の中、長距離を歩き、歩く楽しさを味わうということで選んだターザン公園。初めての戸外でのお弁当を楽しむに、子ども達は足取りもしっかりし、楽しんで歩くことが出来た。公園では早々にお弁当を広げようとするかわいらしい様子も見られ、遊具での遊びや虫捕りはいつもより短くなり、早めのお弁当タイムで保護者手作りのお弁当を楽しんだ。
11 月 29 日	秋の遠足（4 歳児）	図鑑が大好きな子どもたちのために、実物に触れ興味関心を深めてほしいという思いから選んだ国立科学博物館。2 グループに分けて行動し、各コーナーを見学。興味ある子にとってはとても関心が高く駆け足でコーナーを回る物足りなさもあったが、十分に楽しんでいた。その後の保育の中で博物館で見た物を制作で表現し、他クラスを招いての博物館ごっこに発展した。
12 月 11 日	餅つき会	晴天の中、縁庭で卒園児の保護者、5 歳児等多数の手伝いもあり、園児、職員とともに大いに盛り上がった。また、縁庭開

		放日であったこともあり、近隣の子育て家庭の親子にも楽しんでもらうことができた。更に、年長児が近隣家庭に年末の挨拶に鏡餅を贈ることができ、大変喜ばれて子ども達は嬉しそうだった。
2月13日	観劇会「ラメのパンタロン」	今年度は保育園に関わりのある劇団にお願いした。ストーリーのある忍者ショーであり、内容的には子ども達が楽しめるものであったが、観劇会という観点から次年度は内容、時間をもう少し考慮する必要があった。
2月3日	節分の会	乳児は段ボールの鬼で的あてゲーム、幼児は縁庭にて3クラス合同で豆まきを行った。前日に年長児が大豆を煎り、鰯を焼いて頭をもぎ、柊の枝に刺して鬼除けを作るなどして節分の準備をした。当日は各クラス、自分達の作った鬼に関するアイテムを身につけ、その後、赤鬼、青鬼の登場で怖がりながらも豆まきを楽しんでいた。
3月14日	卒園式	年長児は歌や言葉など友達と喜び合いながら堂々とした姿で参加した。また、会に参加した4歳児との歌「また会える日まで」を掛け合いで歌い、喜びと別れるさみしさを味わっていた。旧職員や講師、保護者、交代で見に来た職員、みんなに祝福されて温かい卒園式となった。
定 例	誕生会と伝統行事	七夕、十五夜、雛祭りなど、季節ならではの行事を年齢に合わせて意味等を伝えながら行った。誕生会は、乳児クラスはそれぞれ自クラスで、幼児クラスは全体で集合し、簡単なゲームなどを取り入れて楽しんだり、誕生児を写真にて紹介したりして祝った。

(7) 研修の状況

研修への参加状況は次のとおりである。

ア 職種別専門研修

対象者		研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員		新人研修	10/8	調布なないろ保育園	1人 計1人
保育士	勤続1～3年目	実技研修 キャリアアップ研修	5/24	株式会社ベネッセ コーポレーション 他5社	1人
			11/7		1人
			12/3		2人
			2/1		1人
			2/17		1人
			3/1		1人
			3/13		1人
			計8人		
	勤続4～9年目	中堅職員研修 キャリアアップ研修	5/9	こども文化学校 他3社	1人
			6/13		2人
			7/11		2人
			9/6		1人
			1/30		1人
			2/4		1人
			2/13		1人
			2/25		1人
			3/1		1人
			計11人		
看護師		保健衛生研修 キャリアアップ研修	5/15 1/15 1/22 3/17	公益財団法人東京 防災救急協会 他2社	1人 1人 1人 1人 計4人

栄養士	給食担当講習会 衛生講習会 キャリアアップ研修	5/15 6/27 9/18 10/3 1/17・1/18 1/22 1/27	一般社団法人東京 保育士会 他 4 社	1 人 1 人 1 人 1 人 各 1 人 1 人 1 人 計 8 人
調理員	食育研修他	6/4 9/6 11/20 12/3	社会福祉法人東京 都社会福祉協議会 他 3 社	1 人 1 人 1 人 1 人 計 4 人
分野リーダー	保育士等キャリアア ップ研修（各分野）	2/3 2/25	一般社団法人家庭 まち創り政策ラボ 他 1 社	1 人 1 人 計 2 人
	保育実践研修	5/7 9/13 12/18	こども文化学校	1 人 1 人 1 人 計 3 人
C S V 1	保育士等キャリアア ップ研修（各分野）	1/18 2/13 3/15 3/15	一般社団法人アジ ルラーニング 他 1 社	1 人 1 人 1 人 1 人 計 4 人
	保育実践研修	12/3	一般社団法人アジ ルラーニング 他 1 社	1 人 計 1 人
副主任	保育実践研修	10/18	社会福祉法人東京 都社会福祉協議会	1 人 計 1 人
主任	保育実践研修	6/12 7/16 10/18 11/12	株式会社スマート エデュケーション 他 1 社	1 人 1 人 1 人 1 人 計 4 人
副施設長	衛生推進者講習	5/13 5/27 6/4・6/5 8/8 10/18 10/26 12/11 2/6	公益社団法人東京 労働基準協力連合 会他 4 社	1 人 1 人 各 1 人 1 人 1 人 1 人 1 人 1 人 計 9 人
施設長	保育実践研修 保育情勢	9/16 1/30	株式会社コドモン 他 1 社	1 人 1 人 計 2 人
施設長・副施設長・C 分野 リーダー	子どもの虐待死を悼 み命を讀える市民集 会	11/17	特定非営利活動法 人 児童虐待防止 全国ネットワーク	3 人 計 3 人
参加延べ人数合計				65 人

イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設長・保育士・看護師・ 栄養士・調理員	園内研修	4/25～3/26 計 14 回	調布なないろ保 育園	各回 16～23 人 計 241 人
保育士・栄養士・調理師	両園合同勉強会	7/12 10/24 11/14 11/19 11/21 11/29 2/14	上布田保育園 調布なないろ保 育園	2 人 2 人 1 人 2 人 1 人 1 人 2 人 計 11 人
参加延べ人数合計				252 人

Ⅶ 放課後児童部門

第1 総括

令和6年度は、7施設で9学童クラブと6小学校の放課後子供教室事業「あそびバ」(以下、「あそびバ」という。)の各施設においてそれぞれの事業を実施するとともに、新たに多摩川児童館の事業を調布市(以下、「市」という。)から受託した。加えて、令和7年度に受託する東部児童館学童クラブの円滑な運営を図るため、市児童青少年課とともに準備を進めた。

それぞれの施設が事業計画に定めた重点事項に取り組む中で、子どもたちの「居たい、行きたい、やってみたい」を実現できる居場所の提供に努めるとともに、職員一人ひとりが子どもの人権に対する意識を持ちながら、保護者とともに子どもたちの成長に寄り添った支援を行うことができた。

また、経営目標に掲げた各施設の医療機関への受診件数は、各学童クラブでの暫定受入及び各あそびバでの受入数の増加に伴い、前年度と比較して増加した。

今後も「アクシデントシート」及び「ヒヤリハットシート」を活用し、放課後児童部門の管理職、各施設長、コーディネーターをメンバーとする法人施設長会議で情報の共有化を図り、ケガの防止に取り組んでいく。また、子どものケガが発生した場合、職員が適切な対応ができる実用性の高いマニュアルとするため、定期的に内容を見直して必要に応じて更新していく。

1 学童クラブ

学童クラブでは、基本方針に位置付けた3つの育成目標の達成に向け、学童クラブでの日々の生活や様々な活動を通じて、子どもたちの自主性を促すとともに、生活習慣や社会性を身につけ、心身ともに健やかに育つよう支援を行った。

令和6年度は東京都福祉サービス評価推進機構が認証した評価機関による「第三者評価」が実施された。評価結果や自己評価、評価者との対話など評価の過程から、新たな「気づき」を得ることができたほか、利用者調査による潜在化した利用者の評価や意向を把握することができた。第三者評価から講評いただいた「特に良いと思う点」はさらに伸ばし、「さらなる改善が望まれる点」については、改善に向けた検討を行い、サービスや運営の質の継続的な向上に努める。

また、各学童クラブでは、季節に応じた事業や遠足、学童クラブ交流ドッジボール大会をはじめ、学童クラブ以外の児童との交流事業を実施するなど、児童同士のふれあいを通じて児童の健全育成を図った。

2 児童館

令和6年度から本法人として初めて児童館運営を開始した。公立児童館がつく

り上げてきた歴史や伝統を引き継いだ運営を行うとともに、法人が培ってきた経験やノウハウを活かして、地域の子どもたちや子育て中の親子が気軽に集える居場所となるよう運営を行った。また、各関係機関や地域団体と連携しながら、地域に根差した子ども・子育て支援の拠点となるよう努めた。

多摩川児童館では、定例事業、サークル事業、季節的事業、単独事業、児童館まつりを実施するとともに、「やりたいことアンケート」の実施により子どもたちからの意見やニーズを把握し、そのアンケート結果をもとに、新規事業の実施や各種事業の見直しを行った。また、市内の全児童館が共同で実施するスポーツ大会、文化事業などへの参加を通じて、児童の交流の促進を図った。

子育てひろばでは、新たな子育て相談員を迎えてのスタートになったが、日々の相談業務や様々な講座を丁寧に進めたことで、利用者の「心豊かに健やかな子育て」を支援することができた。

3 あそびバ

放課後の学校施設等を利用して、異なる年齢の子どもたちが、自由に遊びながら交流を図り、安全に安心して遊べる居場所づくりに努めた。

令和6年度は「あそびバ」の周知及び利用促進を図るため、年長児があそびバでの過ごし方を体験できるよう、新たに「未就学児体験会」を6月と9月の土曜日に実施した。

また、各あそびバでは、前年度に引き続き、地域のスポーツクラブとタイアップしたかけっこ教室等をはじめ、今年度から新たに、調布囲碁連盟会員による囲碁教室や調布市レクリエーション協会インストラクターによるラダーゲッター体験会を実施するなど、地域とのつながりを意識した取組を推進した。

第2 経営実績

1 学童クラブ

(1) 定員

(人)

施設名	定員	暫定	緊急	R6 合計	R5 合計
なないろ第1学童クラブ	50	0	0	50	50
なないろ第2学童クラブ	40	10	0	50	40
わかば学童クラブ	70	20	0	90	85
かみいしわら第1学童クラブ	50	5	5	60	50
かみいしわら第2学童クラブ	50	5	0	55	50
多摩川小学校学童クラブ	60	15	5	80	70
あおば学童クラブ	55	15	0	70	65
第三小学校学童クラブ	50	5	0	55	50

多摩川児童館学童クラブ	60	30	0	90	85
合計	485	105	10	600	545

※ 第3 1(2)「ア 児童の受入状況」参照。

(2) 目標値に対する実績

令和6年度は、各施設で暫定及び緊急定員を受け入れたことによる定員数の増加もあり、前年度比5件増の20件となった。多摩川児童館学童クラブは、目標値以内に留めることができなかったが、他施設では目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名	R6 実績	R5 実績
15,000 人未満の施設	4 件以下	あおば学童クラブ	1 件	2 件
		第三小学校学童クラブ	1 件	3 件
20,000 人未満の施設	5 件以下	なないろ学童クラブ	3 件	2 件
		わかば学童クラブ	1 件	0 件
		多摩川小学校学童クラブ	4 件	5 件
		かみいしわら学童クラブ	3 件	2 件
		多摩川児童館学童クラブ	7 件	1 件
合計			20 件	15 件

2 児童館

(1) 定員

18歳未満のすべての子どもを対象としているため、定員は定めていない。

(2) 目標値に対する実績

令和6年度は、児童館・子育てひろばとも目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名	R6 実績	R5 実績
10,000 人未満の施設	3 件以下	多摩川児童館子育てひろば	1 件	
15,000 人未満の施設	4 件以下	多摩川児童館	0 件	
合計			1 件	

3 あそびバ

(1) 定員

全在籍児童対象の事業で、登録制のため定員は定めていない。

(2) 目標値に対する実績

令和6年度は前年度比3件増の7件となったが、全施設で目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名	R6 実績	R5 実績
--------	-----	-----	-------	-------

10,000 人未満の施設	3 件以下	石原小学校あそびバ	0 件	0 件
		飛田給小あそびバ	1 件	0 件
		第三小学校あそびバ	1 件	0 件
		多摩川小学校あそびバ	2 件	3 件
		富士見台小学校あそびバ	2 件	1 件
15,000 人未満の施設	4 件以下	若葉小学校あそびバ	1 件	0 件
合計			7 件	4 件

第3 事業所別事業報告

1 学童クラブ

(1) 重点事項への取組

ア 安全・安心な学童クラブ運営

受診を伴わない事例も含め、毎月開催する法人施設長会議で「アクシデントシート」及び「ヒヤリハットシート」を活用し、各施設の情報を共有するとともにケガや事故の再発防止、環境整備に努めた。

また、子どもがケガをした場合、誰もが適切に対応できるよう新たに確認シート等を作成するなど職員マニュアルの見直しを行うほか、応急処置対応や記録の取り方について協議し、職員に周知した。

イ 施設間の連携

法人施設長会議を通して、児童のケガの発生状況や対応方法、各マニュアルの運用など、様々な情報の共有化を図った。

日々の育成における交流や合同育成、合同イベントの開催等を通じて他施設の環境や児童の様子を知ることができた。このことにより職員の欠員時に円滑に応援体制を整えることができた。また、これらの機会を通じて日頃の業務に関する情報共有や相談がしやすくなり、職員同士の繋がりが深まった。

ウ 中期経営計画の取組推進（児童館・あそびバ共通）

中期経営計画に掲げている4つの行動計画テーマを念頭に置き、それぞれのテーマに沿った取り組みを推進した。

「業務の効率化」については、令和7年1月から出退勤システムを全施設で導入することにより、次年度にむけて、ペーパーレス化や業務負担軽減の基盤とすることができた。導入に向けて操作のマニュアルを作成するとともに、毎月マニュアルの検証を行い、円滑に導入することができた。

「新拠点の受託」については、令和7年度から開始する市立東部児童館学童クラブ運営の先行受託に向け、定期的に市の担当課と意見交換・確認等を行うとともに、施設見学を行うなど情報収集に努めた。

(2) 実績報告

ア 児童の受入状況

なないろ第1学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	113	267
2年生	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	202	168
3年生	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	198	73
4年生	6	6	6	5	5	5	4	4	4	3	3	3	54	111
5年生	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	32	5
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	51	51	51	50	51	50	50	50	50	49	48	48	599	624

※要配慮児：5年生2人、2年生1人

なないろ第2学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	174	162
2年生	16	16	16	16	18	17	18	17	17	17	17	17	202	56
3年生	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	127
4年生	8	8	8	8	7	6	6	5	5	5	5	5	76	49
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	47	47	47	47	48	46	48	46	46	46	46	46	560	394

※要配慮児：3年生1人

わかば学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	24	24	24	24	24	25	25	25	25	24	24	24	292	264
2年生	36	35	35	34	35	35	35	33	31	31	31	31	402	191
3年生	28	27	28	29	27	27	26	26	26	25	23	23	315	523
4年生	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	18	12
5年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	90	88	89	89	88	89	89	87	85	83	81	81	1039	990

※要配慮児：2年生1人 障害児：2年生1人、3年生1人、4年生1人、5年生1人

かみいしわら第1学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96	0
2年生	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	23	297	272
3年生	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20	19	18	243	197
4年生	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	24
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	58	58	58	58	58	58	57	57	57	57	55	53	684	514

※要配慮児：1年生1人、3年生1人 障害児：1年生1人、2年生1人

かみいしわら第2学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	12	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	143	130
2年生	29	29	28	28	28	27	27	27	27	27	27	27	331	197
3年生	13	13	13	12	12	12	12	13	12	12	11	11	146	136
4年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	48

5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
計	55	55	54	53	53	51	52	53	52	52	51	51	632	523

※要配慮児：1年生2人（1人8月末退会）、2年生2人（1人7月末解除）

多摩川小学校学童クラブ

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	47	47	47	47	47	46	46	46	46	46	46	45	556	432
2年生	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	305
3年生	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	42	86
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	79	79	79	79	79	78	77	77	77	77	77	76	934	823

※障害児：2年生2人

あおば学童クラブ

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	51	52	52	52	52	52	52	51	51	50	50	49	614	451
2年生	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	310
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	69	70	70	70	70	70	70	69	69	68	68	67	830	766

第三小学校学童クラブ

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	45	45	44	44	44	44	44	44	44	44	44	43	529	588
2年生	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	114	12
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	55	55	54	54	54	54	53	53	53	53	53	52	643	600

※要配慮児：2年生2人

多摩川児童館学童クラブ

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5
1年生	38	37	37	37	37	37	32	32	32	32	32	32	415	315
2年生	24	24	24	24	24	23	23	23	24	24	24	25	286	331
3年生	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	283	279
4年生	3	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	55	6
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	89	89	89	89	90	89	84	83	84	84	84	85	1039	931

※要配慮児：1年に1人、2年生1人、3年生1人 障害児：1年生2人、3年生1人

イ 児童の健康報告

(ア) 感染症

令和6年度は、インフルエンザ（A型・B型）が前年度比315人減の133人であったが、その他の感染症が前年度比96人増の183人となった。その他の感染症では、溶連菌、マイコプラズマ肺炎、手足口病に罹患

する児童が増えた。

(単位：人)

	インフルエンザ		新型コロナウイルス		その他の感染症	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5
なないろ第1学童クラブ	7	54	1	4	18	14
なないろ第2学童クラブ	6	32	3	4	13	9
わかば学童クラブ	15	52	1	7	8	1
かみいしわら第1学童クラブ	14	30	0	3	18	7
かみいしわら第2学童クラブ	5	28	3	0	19	9
多摩川小学校学童クラブ	15	72	4	5	27	1
あおば学童クラブ	32	61	5	11	20	18
第三小学校学童クラブ	25	33	0	1	23	19
多摩川児童館学童クラブ	14	86	2	2	37	9
合計	133	448	19	37	183	87

※その他の感染症は、アデノウィルス・水疱瘡・溶連菌・手足口病・プール熱・ヘルパンギーナ・流行性結膜炎・頭ジラミなど

(イ) 受診ケース

なないろ第1学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
9月4日	3年生男児	育成室で、椅子に座っている最中に後ろへ倒れ、後頭部を打ってしまった。	脳神経外科

なないろ第2学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
7月17日	3年生男児	屋上でドッジビーをしている際に、足を絡ませ尻もちをつき転倒。右手首を内側に向いた状態でついた。	整形外科
11月8日	1年生男児	育成室で、おやつの時間、本児が座ろうとした椅子を他児童が引き、転倒。顎を机に強く打ち付け、右下前乳歯が抜けそうな状態になった。	歯科

わかば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
1月11日	2年生男児	降室途中に歩道橋の階段から落ちて足を骨折した。	整形外科

かみいしわら第1学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
6月19日	2年生男児	第三小学校校庭でドッジビー交流会中、虫のようなものに刺された疑い。	皮膚科
6月19日	1年生男児	第三小学校校庭でドッジビー交流会中、軽度の熱中症の疑い。	小児科

かみいしわら第2学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
11月8日	2年生男児	第三小学校校庭で鬼ごっこをしている際に、他児とぶつかり左頬を打撲した。	形成外科

多摩川小学校学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
7月17日	2年生男児	サッカーをしていて足を捻ってしまった。	整形外科
1月31日	1年生男児	階段で転倒してしまい、下の歯茎を打ってしまった。	歯科

3月17日	2年生男児	階段3段のところから転倒、足を捻ってしまった。	整形外科
3月26日	1年生男児	校庭でサッカーをしていて足を捻ってしまった。	整形外科

あおば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
3月11日	2年生男児	室内遊び中に他児に押されてロッカーに頭をぶつけ、額に切り傷と腫れが見られた。	脳神経外科

第三小学校学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
11月28日	2年生男児	校庭遊びのサッカーで、本児がキーパーをしていた。ゴールポストギリギリに飛んできたシュートが顔面に直撃し、右目上瞼が内出血を起こした。	眼科

多摩川児童館学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
5月8日	1年生男児	回していたコマを手に乗せようとし、コマの芯が左瞼に当たって切れた。	整形外科
5月20日	2年生女児	他児に押されて転び、館庭の鉄柱に左こめかみをぶつけ、脳震盪を起こした。	帰宅後保護者と脳神経外科に受診
7月18日	1年生男児	遊戯室で遊んでいる際に、他児の後頭部とぶつかり、本児の左眉下が腫れたため受診した。	整形外科
8月7日	1年生女児	学童クラブ室で転び、額を机の脚にぶつけた。腫れていたため受診した。	脳神経外科
11月19日	1年生男児	同学年男児の手が眼球に入ったため、受診した。	眼科
1月8日	1年生女児	遊戯室で一輪車をしていて転び、上唇と前歯を打った。前歯からの出血があったため、受診した。	歯科
3月19日	2年生男児	バスケットボールが右手の小指に当たり、少し腫れた。保護者迎えて受診した。	整形外科

ウ 年間行事報告

(ア) 共通の行事

行事名	学童別開催月	内 容
親子交流会	・全学童クラブ（適宜）	各施設にて様々な親子交流会を開催した。
保護者会	・全学童クラブ（適宜）	各施設とも保護者会では日頃の児童の様子や夏休み等の長期休業中の過ごし方等を保護者に伝えた。また、保護者からも家庭での様子や要望等を伺い、情報交換をした。
個人面談	・わかば学童クラブ（10月） ・あおば学童クラブ（9月） ・多摩川児童館学童クラブ（11月） ・第三小学校学童クラブ（10月・11月） ・なないろ第1第2学童クラブ（随時） ・かみいしわら第1第2学童クラブ（6月・1月） ・多摩川小学校学童クラブ（随時）	希望者のみ、学童クラブでの様子やご家庭での様子の情報交換をした。
クリスマス会	・全学童クラブ（12月）	施設内を飾り付けるなどクリスマスならではの雰囲気を感じながら、クリスマスメニューのおやつやビンゴゲーム、玩具のプレゼント提供を行った。また、他施設職員にサンタ役の協力を依頼し、児童たちはサンタの登場に喜ぶ姿が見られた。

児童館まつり	・かみいしわら学童クラブ・第三小学童クラブ（１１月） ・わかば学童クラブ・あおば学童クラブ（１１月） ・多摩川小学校学童クラブ・なないろ学童クラブ・多摩川児童館学童クラブ（１０月）	【西部児童館】プレイルーム内のゲームコーナーを担当した。 【東部児童館】公民館２階学習室を担当しゲームコーナーを担当した。 【多摩川児童館】ゲームコーナーを担当した。
学童クラブ交流事業(ドッジビー大会)	・全学童クラブ（１２月）	学童クラブ交流ドッジビー大会に参加した。前年度と同様、新型コロナウイルス感染症の対策を講じる為、２部制での開催となった。
児童館交流事業(サッカー大会)	・全学童クラブ（１月）	前年度に引き続き、新型コロナウイルス対策を講じての交流事業となった。３部制となり、短い時間ではあったが、児童たちが楽しんで参加している姿が多くみられた。また、児童や保護者との交流を図ることができた。
誕生会	・全学童クラブ（毎月）	誕生月の児童を中心に、ゲームや工作等を企画しお祝いした。また、特別おやつを提供した。
防犯・防火訓練	・全学童クラブ（適宜）	各施設において防災訓練を実施した。緊急時の協力や安全に避難できるよう訓練を行った。施設によっては防災頭巾をかぶる練習等、基本的な訓練を実施した。防犯訓練では、調布警察署の方をお招きし、講義指導を受けた。 また、一体型施設に関しては、合同避難訓練も実施した。
進級式 お楽しみ会	・全学童クラブ（３月）	１年間の振り返りとして学童クラブでの様子をスライドショーで上映し、思い出話をしながら、一人ひとりの成長を喜びお祝いした。出し物の発表やゲーム等を行い、年度最後の交流を楽しんだ。特別なおやつを提供し、子ども達の喜ぶ姿が見られた。 また、なないろ学童クラブでは保護者を招待(各家庭１名)して実施した。
工作の会	・全学童クラブ（適宜）	各施設、季節に合わせた工作や端材を使った内容を企画し、座席の位置や人数を考慮し感染対策に努めながら実施した。

(イ) 各学童クラブで実施した主な行事

学童名	行事名	内 容
なないろ学童クラブ (第１・第２合同)	対面式（４月）	「新聞紙じゃんけん」をプレイルームで行い、２年生以上の在籍児童から新１年生へプラバンで作成した記念品をプレゼントした。
	自慢絵コンテスト（６月）	「わたしの塗り絵」「おいしそう！」「たべものキャラクター」「なににみえるかな？」の４部門のコンテストに希望者が参加し、表彰式も行った。
	夏の出張ミニ健康講座（７月）	「おくちのなかでどうなっているの？」のテーマで健康推進課の方が講座を行い、児童全員で話を聞いた。
	夏のお楽しみ会（８月）	「レッツゴーななフェス！！」と題し、夏休み期間中、４グループに分かれて夏祭りをイメージしたゲームコーナーを制作し、「お店の人」と「お客さん」に分かれ、交代で全員がゲームに参加した。２日目は保育園の５歳児クラスの園児を招待し、交流を深めた。
	ドッジビー交流大会（２月）	多摩川小学校の体育館で、多摩小学童クラブ、多摩小あそびバ児童とのドッジビー交流大会に参加した。
わかば学童クラブ	マンカラ大会 (５・６・７・８・２月)	試合ごとに優勝と準優勝を決め、賞状を授与した。参加した児童は真剣に勝負し、応援している児童は息を飲んで試合を見守っていた。また、年度の後半には歴代の優勝した児童でチャンピオンズリーグを開催した。

	わかば美術館（６月）	作品作りとして自分の手形を紙に押し、余白に絵を描いた。個性溢れた作品が沢山でき上がり、展示中は多くの児童が興味深く友達の絵を見ていた。
	認知症サポーター講習（８月）	包括支援センターの方を招き、認知症を学んだ。子ども達は高齢者の方のお話に関心を持っていた。
	わかばサイエンス（７・８月）	触れる水のボールと、水の中で色が層になる実験を行い、色の層は数日間経過観察をした。子ども達は発見を楽しんでいた。
	ハロウィンパーティー（１０月）	仮装や装飾、特別なおやつを用意して、雰囲気を楽しんだ。ハロウィンにちなんだクイズラリーを行い楽しんでいた。
	秋祭り（１１月）	ゲームコーナーを数カ所作り、３年生が店番を交代で行った。限られた時間だったが、子ども達船員がお祭りを満喫に楽しめるよう、おやつの提供方法を工夫し、ゲームで遊べる時間を増やした。
	実篤記念館見学（８月・１２月）	実篤記念館や敷地内の公園を、学芸員の方の話を聞きながら見学した。昔の方の生活に興味を持ったり、色とりどりの紅葉を眺めたりと楽しんでいた。
	プログラミングのワークショップ（１０・１２月）	講師を招いて iPad を使用したプログラミング教室を開催した。レゴで力士を作り、プログラミングによって動く機を使用し、トントン相撲をした。個人戦や班対抗などを行い、横綱を決めた。
	わかあお play a game（３月）	あおば学童クラブと合同で若葉小学校の体育館で体を使った運動遊びを行った。混合のチームで実施したが、どのチームも協力して楽しんでいた。
	実篤記念館ワークショップ（２月）	実篤記念館の学芸員さんを招き、実篤先生が作っているような作品作りの体験をした。作品作りでは、自分のハンコを彫ったり葉っぱとクレヨンを使って紙に描いたりと楽しんでいた。
	わかばっ子パーティー（３月）	１年間の思い出や進級を祝うため、皆で楽しめるようにレクリエーションやスライドショーを行い、アルバムを贈呈した。子ども達は盛り上がりながら過ごしていた。
	桐朋学園演劇鑑賞（１月）	桐朋学園で演劇を学んでいる学生の方が紙芝居の読み聞かせを実施した。声に抑揚があり、表現力も高いため、夢中になって見入っていた。
かみいしわら 学童クラブ （第１・第２合同）	第１回あそびバ交流会（６月）	３施設の児童が集まり混合グループになり、第三小学校校庭でドッジビーをした。
	第２回あそびバ交流会（７月）	ＰＣを使用して３施設をオンラインで繋ぎ、謎解きやゲームをして交流した。
	かみいし夏祭り（８月）	実行委員を募り、射的やくじ引きなどの屋台を準備し、楽しんだ。
	親子遠足（１０月）	親子で芋ほりをし、交流した。
	第三回あそびバ交流会（１０月）	第三小学校の体育館でハロウィンお化け屋敷を実施し３施設が交流した。
	親子交流会（１１月）	保護者会と合同で行った。館庭を使用し、親子でドッジビーを楽しんだ。
	第四回あそびバ交流会（１月）	ＰＣを使用し、３施設をオンラインで繋ぎ、防災クイズを行った。
	かみいし展覧会（２月）	これまでの育成の中で児童が作った作品の写真と実物を展示した。
	メンコ大会（３月）	メンコのルールを一新し、仲良しリーグとガチンコリーグで大会をした。
多摩川小学校 学童クラブ	ペットボトル水族館（７月）	学校の先生がペットボトルの中に醤油ボトルを入れて動かすことが出来る工作を教えてくれた。
	学童・あそびバ交流映画会	学童、あそびバで見た映画のアンケートを取り、

	(8月)	みんなで鑑賞した。
	水遊び(8月)	校庭で水鉄砲などを使い水遊びを楽しんだ。
	ドッジビー大会(8月)	学童、あそびバで参加者を募りドッジビー大会をした。
	たまがく祭り(8月)	射的やボールすくいなど夏祭りを楽しんだ。
	ハロウィンパーティー(10月)	オリジナルゲーム等を楽しんだ。
	学童・あそびバ交流将棋対決(3月)	3人以上でコマの動かし方を考えるルールを付け加え、巨大な将棋盤で対決した。
	多摩動物公園遠足(11月)	1日育成の日を使い、みんなで多摩動物公園へ車で遊びに行った。
	あそびバ合同サッカー大会(11月)	学童、あそびバで参加者を募り、サッカー大会をした。
	クリスマス会(12月)	ジェスチャーゲームをして、ペットボトルの蓋で作ったキーホルダーをプレゼントした。
	共食の日(1月)	児童たちが家からレトルトとごはんを持参し、学童で温めて食べる日を実施した。
	進級を祝う会	児童たちに発表したい項目を考えてもらい、発表会を行った。
あおば学童クラブ	対面式(4月)	自己紹介をし、特別おやつを食べ、手作りプレゼントを渡した。
	遊びの教室(不定期)	子どもたちの遊びの幅を広げることを目的に、けん玉やコマなどの昔遊びやモルックを体験した。また、ドッジビーは投げ方の練習から始まり、ルールを覚えて試合も行い、ドッジビーの楽しさを味わった。
	あおば作品展(6・7月)	模写、ぬりえ、切り紙の3部門の中から好きなものを選び作品を作った。できた作品は期間中に施設内で掲示し、みんなで鑑賞した。
	実篤記念館コラボイベント(8月・12月・2月)	実篤記念館の学芸員さんにご協力いただき、実篤記念館見学・実篤公園散策・工作ワークショップを実施した。
	認知症サポーター講座(8月)	地域包括センターの方より、認知症についてのお話を聞き、ロールプレイを通して認知症の理解を深め、どのような支援ができるかについて学んだ。
	健康講座(8月)	「たばこの煙って吸ったらどうなるの?」というテーマで、健康推進課の職員の方から講義を受けた。たばこが全身に及ぼす影響をクイズや動画、模型等を使って学んだ。
	夏まつり(8月)	ミニゲームコーナー4カ所と工作コーナー(風船鉄砲)を自由に回って楽しんだ。
	わかあおフェスティバル(10月)	わかば学童クラブ・若葉小あそびバと合同で、若葉小体育館をお借りし、各施設が企画したゲームコーナーを出店した。
	学童遠足(11月)	大型バスを使用し、多摩六都科学館に行った。
	お楽しみ会(12月)	宝探しゲームを行い、手作りプレゼントの交換をした。
	プレイブロックワークショップ(12月)	外部講師を招き、プログラミングを使用したブロックすもう大会をした。
	ドッジビー・サッカー交流(12月)	東部児童館、わかば学童クラブとドッジビー・サッカーの練習を通して交流を図った。
	わかあお交流(3月)	わかば学童クラブと合同で、若葉小学校の体育館をお借りし、チーム対抗のゲームを行った。
第三小学校 学童クラブ	遊びの教室(4・5・6・7月)	1学期中に、学童クラブで定番の遊びを1年生に覚えてもらう機会として実施した。紙飛行機、マンカラ、ドッジビー、けん玉に挑戦した。
	あそびバ交流会	計4回実施した。第1回はドッジビー、第2回はク

	(6・7・10・2月)	イズ大会、第3回はお化け屋敷、第4回は防災をテーマに、3施設の児童が交流を深める工夫を取り入れた遊びを計画した。
	作品展(9月)	お絵かき、ぬりえ、はめ絵、ブロックの4部門の中から好きなものを選び参加した。作品を期間中に施設内で掲示し、みんなで鑑賞した。
	きもだめし(8月)	児童のリクエストできもだめしを実施した。
	スイカ割り(8月)	スイカのモチーフを使ってスイカ割りごっこを楽しんだ。
	健康講座(8月)	「お口の中ってどうなっているの?」というテーマで学んだ。
	夏休み工作(8月)	夏休み期間中の特別工作を、毎週1種類ずつ提供した。「マジックスクリーン」「スライム」「紙コップ戦車」を制作した。
	散歩(5月)	1日育成日に、凸凹山児童公園へ出かけた。公園では虫探しや鬼ごっこなど、自由遊びを楽しんだ。
	遠足(10月)	バスで葛西臨海水族園へ出かけた。
多摩川児童館 学童クラブ	親子親睦会(7月)	親子で学童クラブの遊びを体験する機会として実施した。児童館内各所でそれぞれ普段遊んでいる遊びを親子で体験し、共有した。
	ラダーゲッターで遊ぼう(8月)	調布市レクリエーション研究会のインストラクターさんを招き、ラダーゲッターのルールを学んだ。実際にラダーゲッターで遊び、楽しさを体験した。
	夏休み工作(8月)	夏休み期間に、レインボースティック工作、葉工作、ミサンガ工作を行った。
	ドッジビー練習会(12月)	ふじみだい学童クラブを招き、遊戯室にてドッジビー大会に向けての練習会を開催した。
	リースストラップ工作(12月)	クリスマス前の期間を利用して、リースのストラップを工作した。
	冬のお楽しみ会(12月)	3種類のゲームを行った。父母の会と学童からクリスマスプレゼントを渡した。
	レトルトデー(12月)	レトルトカレーなどを家庭から持参し、お昼に食べた。
	春のお楽しみ会(3月)	レクリエーションやスライドショーを実施し、全体で1年間を振り返った。また、1人ひとりに色紙を渡した。

エ 職員研修の状況

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
学童クラブ職員 (正規)	野外活動研修	4月23日 5月16日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員 (正規)	児童青少年課の業務について	5月7日 5月14日	児童青少年課	4人
新規採用学童クラブ職員	学童クラブ業務の基礎知識1(業務全般)	5月中旬に各施設にて	法人内部	3人
学童クラブ職員	子どもの心と身体を育てる運動発達の支援	6月4日	児童青少年課	2人
学童クラブ職員	コミュニケーション研修(OJT)	6月7日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	虐待が疑われる児童への対応と関係機関の連携について	6月11日	児童青少年課	4人
学童クラブ職員	エピペン投与シュミレーション研修	6月19日 10月23日	児童青少年課	7人 3人

学童クラブ職員 (正規)	上級救命講習	9月24日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	公的機関の職員が子ども と関わる際の基礎知識	7月12日	児童青少年課	7人
学童クラブ職員	利用者の怪我対応(実技研 修)	7月16日	児童青少年課	7人
学童クラブ職員 (主任・副主任)	主任・副主任研修	10月25日	法人本部	6人
学童クラブ職員	児童館論	11月22日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	発達段階における問題と その関りについて	12月3日	児童青少年課	2人
学童クラブ職員	一人ひとりの子どもに合 わせたコミュニケーション方 法	1月30日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	虹色なこどもたち	1月26日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員 (正規)	令和5年度東京都放課後 児童支援員資質向上研修	2月7日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	多様な子ども達の発達理 解と対応	3月17日	児童青少年課	4人
学童クラブ職員	放課後児童支援員認定資 格取得研修	9月30日から4日間 12月4日から4日間 1月27日から4日間	東京都福祉 保健局	1人 3人 2人
参加延べ人数合計				62人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
学童クラブ職員 (正規)	基本的な事務習得習業務 マニュアルの確認	5月23日	法人内部	31人
学童クラブ職員	救命救急講習	6月13日	東京消防署 救急係	13人
学童クラブ職員 (正規)	安全な施設環境	6月27日	調布消防署	28人
学童クラブ全職員 (正規)	日常における健康習慣に ついて	10月26日	外部講師	30人
学童クラブ職員 (正規)	サッカー指導方法	9月13日	法人内部	33人
学童クラブ職員(管 理職・主任・副主任)	個人情報について	9月20日	法人内部	12人
学童クラブ職員 (正規)	発達が気になる子への対 応	10月29日	外部講師	35人
学童クラブ職員 (正規)	職員向けヘルスケア	11月25日	外部講師	33人
学童クラブ職員 (正規)	研修で学んだ振り返り(ケ ース会議研修)	12月17日	外部講師	33人
参加延べ人数合計				248人

2 児童館

(1) 重点事項への取組

ア 安全・安心な児童館運営

「やりたいことアンケート」の実施により、子どもたちからの意見やニーズを把握し、そのアンケート結果をもとに、新規事業の実施や各種事業の見直し

を行った。児童館で実施する事業を通じて切れ目ない子どもたちの心身の育ちを支援した。

イ 近隣施設との連携

児童館内の活動に限らず、「出張児童館」をあそびバで実施するとともに、近隣小学校で開催した「昔遊び」の授業に出席する等、児童館に限ることなく地域の事業にも積極的に関わった。また、健全育成推進多摩川地区委員会や健全育成推進富士台地区の委員会に出席することで、地域の方々と顔の見える関係性を構築することができ、地域で子どもの育ちや子育てを支え合うネットワークづくりのきっかけとなった。

ウ 子育てひろば

令和6年度は、新たな子育て相談員を迎えてのスタートになったが、日々の相談業務や様々な講座を丁寧に進めたことで、利用者の「心豊かに健やかな子育て」を支援することができた。また、月に1度の助産師相談では、子育てに悩む家庭の不安を解消することに繋がった。

平日の午前中は毎日子育てひろばを開催し、遊具の提供や職員による「お楽しみタイム」を行い、乳幼児親子が楽しく過ごせる場を作ることができた。また、「ランチルーム」を開放し、親子で昼食を取りながら他の家庭との交流を促すことができた。さらに、子育てに役立つ講座や親子で楽しめる行事を毎月行い、仲間づくりのきっかけや親子でふれあう機会を提供した。

エ 中期経営計画の取組推進（学童クラブ・あそびバ共通）

「サービスの質の向上」については、児童からの要望を積極的に聞き、児童のニーズに合わせた新規事業を実施した。新規入職者や経験が浅い職員については、管理職をはじめ、ベテラン職員が積極的に声をかけ、1人で悩みを抱えないよう配慮するなど「人材の育成・確保・定着」に努めた。

(2) 実績報告

ア 児童館・子育てひろばの受入状況

	児童館	子育てひろば	合計 (R6)	R5
4月	887	163	1,050	
5月	701	281	982	
6月	755	366	1,121	
7月	1,133	508	1,641	
8月	1,076	259	1,335	
9月	1,246	480	1,726	
10月	683	465	1,148	
11月	1,016	457	1,473	
12月	820	503	1,323	
1月	666	453	1,119	

2月	651	530	1,181	
3月	834	483	1,317	
合計	10,468	4,948	15,416	

イ 児童の健康報告（受診ケース）

（ア）児童館

なし

（イ）子育てひろば

月 日	学年・性別	項 目	受診先
9月13日	2歳男児	遊戯室で転倒し、足首を捻ったため保護者が連れて行き受診した。	整形外科

ウ 年間行事報告

（ア）児童館

a サークル事業

行事名	日 付	内 容
うきうきクラブ (児童館メンバーズ)	月2回実施	小学3年生以上の会員17名で行事の企画、宣伝、運営を担当した。夏のミニ祭り・児童館まつり・春のミニまつりでは出店を行い、行事を盛り上げた。
サッカーサークル	10月より実施 ※全6回	抽選で14名の会員に絞り、1月のサッカー大会に向けて、練習を行った。3年生が中心となりチームをまとめ、大会では3位の成績を収めるに至った。
ダンスサークル	11月より実施 ※全13回	東京都立調布南高等学校ダンス部1年生(10人)が小学生(22人)にダンスを教えに毎週来館し、2月にグリーンホールで開催された「児童館交歓フェア」のステージでダンスを披露した。

b 主な行事

行事名	日 付	内 容
ようこそ！1年生	4月24日	うきうきクラブのメンバーが新1年生に児童館のルールを説明した後、児童館ならではの遊びや工作を実施した。
オセロの日	年7回実施 3月9日 交流大会	各月で練習や大会を行った。3月の児童館交流オセロ大会では、代表2名が1位と3位になるなどの好成績を収めた。
ゲームデイ	年11回実施	ゲーム機を活用し、平均30人が参加した。また他児童館や他施設とオンラインで繋がり、ゲームを通じて交流の輪を広げた。
JUMP-JAM	年5回実施	リバーシ対決・引っ越し・陣取りゲーム・ジャンケン列車・ボール遊びなど、主に体を動かして遊べる内容を実施した。
工作の会	年8回実施	プッシュポップキャンディ・かき氷ストラップ・親子でしめ飾り・マカロン工作等を実施した。いずれも応募者が定員を超え、抽選になる程の人気だった。
体験シリーズ	月1回程度実施	スラックライン・将棋の会・バスケットボール大会・ドッジビー・マンカラ・ペーゴマ・木ゴマ等を実施した。
3館合同イベント	6月22日	3館（多摩川・染地・国領）が染地児童館に集まり、グループでのレクリエーションや火起こし体験、ゲーム大会を通じて交流を図った。
レゴプログラミング	8月29日	レゴでオリジナルの車を作り、プログラミングをして実際に動かした。
親子交流プログラミング	11月30日	NTT e-Sports 協力のもと、親子でプログラミングを実施した。ゲームの【マイクラフト】をベースに親子で交流を行った。

レゴずもう	2月19日	グループごとにレゴで力士を作り、プログラミングされた装置の上で対決を行った。
下石原地区 ふれあいのつどい	11月18日	下石原地域センターの行事に参加し、うきうきメンバーの子どもたちが来場者にけん玉を教えた。
クリスマスパーティー	12月25日	うきうきクラブの児童による全員参加型ゲームやゲーム大会、工作、ポップコーン、ジュースなど振舞った。手作りのガチャガチャを用意し、クリスマスプレゼントを渡した。
児童館遠足	11月11日	館外活動の場として、公共のマナーを学びながら、参加者同士の交流を深めた。交通機関を利用して、3年生以上児童13名が「国営昭和記念公園」で遠足を実施した。
児童館まつり	10月13日	地域の団体で実行委員を組織し「子ども主体のまつり」として取り組んだ。乳幼児親子・小学生以上を対象として、ゲームや工作コーナーなどを出店した。児童館まつり子ども実行委員19名による食べ物コーナーも出店した。
運営会議	6月7日 2月21日	地域団体から、児童館運営等への意見や要望を求めるとともに情報交換や情報共有を行い、児童の健全育成を図った。

(イ) 子育てひろば

a 施設開放事業

事業名	日 付	内 容
赤ちゃんひろば	週2回 (火・金)	月齢に合ったおもちゃを出し、終了前の30分間は自宅でも楽しめる手遊びなどをした。月に1度誕生会や工作を実施し、随時、身体計測を行った。
幼児ひろば	週3回 (月・水・木)	月齢に合ったおもちゃを出し、終了時間の20分間は自宅でも楽しめる手遊びや体操、読み聞かせなどを実施。月に1度誕生会や工作を実施し、随時身体計測を行った。
幼児フリーランド	週2回(火・金)	幼児ひろばの時にに出している玩具と同様のものを出し、普段使い慣れている玩具と楽しめるようにした。
サタデーひろば	月1回 (第2土曜日)	幼児ひろばの時にに出している玩具と同様のものを出し、普段使い慣れている玩具と楽しめるようにした。
ランチルーム	毎週月～金	ランチルーム専用の電子レンジ・ケトル・机・椅子を準備し、気軽にお昼を食べながら、交流の場となるようにした。
サマーひろば	小学生の夏休み 期間 月・水・木：幼児 火・金：赤ちゃん	夏休み期間に集会室で開催した。 夏ならではの水を使った遊びも取り入れ、他ひろばで出しているおもちゃも出し、特別なひろばとして開催した。

b 子育て講座

講座名	日 付	内 容
おはなしわくわく (10回)	基本毎月 第3月曜日	絵本読み聞かせや絵本の紹介を行った。
リフレッシュヨガ (9回) 8月を除く	基本毎月 最終金曜日	気軽にヨガを体験し、リフレッシュできる場となった。
おもちゃのひろば	5月15日 3月6日	東京おもちゃ美術館からグッド・トイの紹介と体験会をした。5月の参加人数は25人。3月は工作も実施し、参加人数は25人。
わくわく育児ひろば 歯科編	6月11日	歯の衛生・生活習慣・ふれあい遊びの紹介を行った。参加人数24人。
音楽あそび①	7月5日	色々な道具を使用し、音楽に合わせて体を動かした。参加人数46人、2部制で実施。
ベビーマッサージ	9月18日	わらべ歌や童謡でベビーマッサージを行い、骨格や筋肉の講話を行った。参加人数37人。
リトミックで遊ぼう	10月24日	ピアノの音に合わせて動き、歌や合奏で音楽を楽しんだ。参加人数38人、2部制で実施。
わくわく育児ひろば 栄養編	11月29日	離乳食の進め方・グループワーク(困っている事など)発表・共有する場として実施。参加人数25人。
乳幼児の応急手当	12月19日	専用の人体人形での心肺蘇生・気道内異物除去の体験をした。参加人数31人。

楽な姿勢で腰痛知らず	1月24日	子育てしている保護者が姿勢を意識して、こどものような楽な動作を2人組になって学んだ。参加人数12人。
親子でにっこり！ 劇あそび	3月18日	元劇団風の子の講師による、劇ごっこを行った。参加人数30人、2部制で実施。

c 季節の行事・イベント

行事名	日 付	内 容
ベビたまランド (児童館まつり)	10月13日	工作や季節にちなんだゲーム、ハロウィンの曲に合わせたダンスなど、親子でハロウィンの雰囲気を楽しんだ。参加人数102人。
クリスマス会	12月25日	職員出し物のペープサート、フルート奏者・ピアニストによるミニコンサート、楽器遊びやダンス、サンタクロースの登場など、親子でクリスマスの雰囲気を楽しんだ。参加人数55人。
ファミリー コンサート	2月8日	木管五重奏(アンサンブル・ブール・ミッシュ)の皆さんによる、楽器紹介や童謡・体操の曲の演奏を聞いた。 乳幼児親子だけでなく、小学生や家族も参加可能とした。 参加人数90人。

d 館外活動

	日 付	内 容
さつまいも掘り	11月8日	近隣児童館3館合同事業として、越山農園でさつまいもの収穫体験をし、交流を図った。参加人数22人。

e 子育て相談・助産師相談

	日 付	内 容
子育て相談	毎週月～金曜日	発達・生活習慣(離乳食、断乳、トイレトレーニング、睡眠など)・健康(子どもの病気・母の体調など)・保育園や幼稚園についてなどが主な相談であった。
助産師相談	毎月第3金曜日 (8月を除く)	親子が遊んでいる赤ちゃんひろばを、助産師が回りながら声をかけ、気軽に相談ができるような雰囲気の中で相談が行われている。発育・発達、授乳・離乳食・生活習慣に関する相談が多かった。

f その他

	日 付	内 容
乳幼児施設連絡会	6月19日 2月13日	各施設の様子等をお話いただくとともに、児童館・学童クラブ・子育てひろばの様子について伝え、情報共有をした。

エ 職員研修の状況

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
児童館職員	野外活動研修	4月23日 5月16日	児童青少年課	2
児童館職員	児童館青少年課の業務について	5月7日 5月14日	児童青少年課	2
児童館職員	公的機関の職員が子どもとかわる際の基礎知識	7月12日	児童青少年課	1
児童館職員	利用者の怪我対応(実技研修)	7月16日	児童青少年課	1
児童館職員	上級救命講習	9月24日	児童青少年課	1
児童館職員	児童館論	11月22日	児童青少年課	1
児童館職員	発達段階における問題とその関りについて	12月3日	児童青少年課	1
児童館職員	一人一人の子どもに合わせたコミュニケーション方法	1月30日	児童青少年課	1

子育て相談員	多様性の時代を生きる 親子に寄り添うために	7月16日	児童青少年課	1
子育て相談員	防災研修	10月29日	東京都福祉局	1
参加延べ人数合計				12

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
児童館職員	楽な姿勢で腰痛知らず	1月24日	多摩川児童館	6
児童館職員	嘔吐対応	随時	多摩川児童館	10
参加延べ人数合計				16

3 あそびバ

(1) 重点事項への取組

ア 「あそびバ」の名称定着化

令和5年度から事業名称を従前の「ユーフォー」から「あそびバ」へと変更したため、市と連携し、広報やイベント等を通じて「あそびバ」という名称の定着に取り組んだ。6月・9月の土曜日に、あそびバでの実際の過ごし方を体験できるよう、年長児対象の「未就学児体験会」を開催した。

また、事業内容の充実を図るため、児童一人ひとりが様々な体験や経験を通して、充実した時間を過ごすことができるよう、職員間でアイデアを出し合うとともに、東京都の専門人材プログラムや地域の団体、民間企業の社会貢献活動等と連携し、イベント等を企画・実施した。

イ 安全・安心なあそびバ運営

令和5年度から開設時間の延長を試行実施している3施設（多摩川小学校、若葉小学校、富士見台小学校あそびバ）に加え、令和6年度から第三小学校あそびバで実施した。当初はそれほど多くなかったが、学童クラブ在籍児童や保留児童にも認知され、徐々に延長利用する児童が増え始めた。

ウ 職員の資質向上

法人独自の研修として子どもの人権に関する理解を深めるため、すべてのあそびバに従事する職員を対象に自らの行動や言動を振り返るセルフチェックを実施するとともに、その結果を各施設へフィードバックし、あそびバ職員として必要な知識の取得や資質向上に努めた。

また、変動メインサポーター、サポーターを対象とした施設間交換実習を実施し、普段とは違う場所で勤務することにより、新たな気づきや学びに繋がった。

エ 中期経営計画の取組推進（学童クラブ・児童館共通）

学童クラブと一体型のあそびバでは、児童の意見を反映した交流会の実施、近隣児童館による出張児童館の開催などにより、施設間の連携や児童の交流を図ることができた。若葉小学校あそびバでは、地域の保護者の協力のもと学

校での校庭遊び日数・時間を増やすことができ、来室児童の校庭遊びの充実に繋がった。

(2) 実績報告

ア 児童の受入状況

(単位：人)

	若葉	石原	第三	多摩川	飛田給	富士見台	合計	R5
4月	1,226	734	671	1,226	647	1,016	5,520	5,079
5月	1,072	751	655	1,186	666	1,119	5,449	4,974
6月	928	625	656	1,089	696	860	4,854	4,812
7月	1,143	769	660	1,152	656	850	5,230	4,409
8月	677	410	288	666	313	428	2,782	2,724
9月	702	582	652	736	518	848	4,038	3,686
10月	944	621	681	805	598	879	4,528	3,785
11月	791	500	579	631	617	728	3,846	3,657
12月	672	541	558	641	498	790	3,700	3,450
1月	636	506	518	566	504	741	3,471	2,819
2月	685	491	532	538	514	761	3,521	2,698
3月	663	548	592	660	514	719	3,696	3,029
合計	10,139	7,078	7,042	9,896	6,741	9,739	50,635	45,122

イ 児童の健康報告

あそびバ名	月 日	学年・性別	項 目	受診先
富士見台小	4月10日	2年生男児	校庭で鬼渡りをしている時に児童とふざけて押し合いになり転倒、右肩を打撲。	整形外科
若葉小	6月6日	1年生男児	雲梯で遊んでいたところ、真ん中付近に差し掛かった際に手を滑らせ、顔面から地面に落下。鼻血、左顔面の擦過傷、口内の出血(歯の欠損)	整形外科 歯科
多摩川小	8月26日	3年生女児	バスケットボールをしていた際に、ボールが右手小指に当たった。突き指。	整形外科
富士見台小	10月10日	4年生女児	サッカーをしている時に、左目にボールが当たった。網膜振盪症と診断。	眼科
多摩川小	12月9日	4年生男児	ブレイルーム内を歩き回っていたところ、つまづいて転び、右足親指付け根の部分から出血し、痛みを訴えた。剥離骨折と診断。	整形外科
第三小	1月31日	3年生女児	校庭遊びの時間に縄跳びをして遊んでいたが、着地する際に転倒。右足首をひねった。剥離骨折と診断。	整形外科
飛田給小	2月4日	1年生女児	校庭にある鉄の柵にぶら下がろうとして唇をぶつけ出血。	歯科

ウ 年間行事報告

項 目	内 容
工作の会・伝統遊び等	工作の会は、各あそびバで企画をし、各学期に1回以上実施した。マイノート・アイロンビーズの飾り作り・折り紙・切り絵等の工作や、紙コップを使用した工作・風鈴作り・ぶんぶんゴマ・パッチンかえる等、子どもたちが作って遊べる工作に取り組んだ。

	また、毛糸のボンボン・ミサンガ・ストラップ作り・編み物等の手芸工作や季節に合わせた工作（七夕飾り・ハロウィン・クリスマスカード・手作りクリスマスツリー・絵馬・節分の鬼のお面・ひな祭りの置物）を企画し、子どもたちが自由な発想で作品作りに取り組み、できあがった作品を持ち帰った。1日開設する三季休業期間は、数種類の工作を準備し、参加児童が楽しく遊べるよう工夫した。 伝統的な遊びとして、けん玉、コマ回しを各あそびバが取り入れた。けん玉は検定を年間通して複数回実施した施設もあり、多くの児童が上の級を目指してチャレンジした。 今年度は、編み物や科学実験教室「スライム作り」等、児童の意見を反映した工作・イベントを各あそびバで実施した。
学童クラブとの交流会	学童クラブと同一敷地内で開設しているあそびバ（学童・あそびバー一体型）及び学童クラブとあそびバが隣接している地域は、日々、プレイルームでの工作や小学校校庭・体育館でのドッジビー等の遊びを通して交流を図った。 第三小あそびバは第三小学校学童クラブ・かみいしわら学童クラブと、多摩川小あそびバは多摩川小学校学童クラブと、年間4回のイベント（ドッジビー大会、サッカー大会、おぼけやしき、将棋大会等）を実施した。 富士見台小あそびバは一体型である多摩川児童館学童クラブや、連携先である、ふじみだい学童クラブと自由交流会を実施した。 若葉小あそびバは、あおば学童クラブ・わかば学童クラブとイベント交流会「わかあおフェスティバル」を実施し、児童間、職員間の交流を図った。
児童館との交流会 （出張児童館等）	富士見児童館は「オセロ大会」「ジャンジャン」を石原小あそびバで実施した。 多摩川児童館は「ドッジビー練習会」を富士見台小あそびバで実施した。 西部児童館は出張児童館「ジャンジャン」を飛田給小あそびバで実施した。
東京都専門人材活用プログラム	石原小あそびバでは3プログラム（科学実験教室「ロボットアーム」、キッズヨガ、なわとび、タグラグビー）を実施した。 飛田給小あそびバでは3プログラム（科学実験教室「ロボットアーム」、コーディネーション体験、なわとび）を実施した。 若葉小あそびバでは4プログラム（ボッチャ、かけっこ、ダンス、コーディネーション体験）を実施した。 第三小あそびバでは4プログラム（ボッチャ、なわとび2種類、シッティングバレー）を実施した。 多摩川小あそびバでは4プログラム（科学実験教室「ロボットアーム」、ダンス2回、縄跳び）を実施した。 富士見台小あそびバでは4プログラム（タグラグビー、かけっこ、なわとび、キッズヨガ）を実施した。
調布市文化・コミュニティ振興財団	若手落語家による「えばなし寄席」を石原小あそびバで開催した。
メガロス調布	「かけっこ教室」を石原小・多摩川小・富士見台小あそびバで各施設1回実施した。
調布市・NTT 東日本・NTTe-Sports	プログラミング教室（マイクラフト使用）を飛田給小、第三小、富士見台小、若葉小あそびバで開催した。
調布囲碁連盟	「囲碁教室」を飛田給小、第三小、多摩川小、石原小、若葉小あそびバで各施設1回実施した。
調布市リクリエーション研究会	「ラダーゲッター体験会」を6校のあそびバで各施設1回実施した。
調布市タグラグビー協会	「タグラグビー教室」を第三小あそびバで12月・2月に2回実施した。
あそびバボランティア （ビバスタ）の活用	若葉小あそびバでは、校庭遊びに見守りの補助として参加した。 富士見台小あそびバでは、「ソフトボール体験会」の運営補助として、「紙ヒコキをとばそう」の紙飛行機の折り方指導者として参加した。 飛田給小あそびバでは、遊び相手として参加し、あそびバ職員と共に行事等を実施した。
地域団体との連携	富士見台小健全育成団体「富士見台小学校キッズソフト」の指導者によるソフトボール体験会を富士見台小あそびバで毎月1回実施した。

避難訓練	年間2回以上、地震・火災・（一部水害）を想定して訓練を実施した。 避難訓練では職員・児童ともに校庭等に避難し、身の安全の確保、安全かつ迅速な避難方法と経路の確認を行った。また、1学期最初の避難訓練では、1年生に防災頭巾を着用させての訓練とした。 学童クラブと一体型のあそびバでは、学童クラブと合同で避難訓練を実施し、訓練終了後は参加児童に避難時の大切な約束事を伝えた。
不審者対応訓練	2年に1度、調布警察署防犯課の職員を講師に迎え、不審者対応の基礎知識を学ぶとともに、不審者侵入を想定したシミュレーションを実施しているが、令和6年度は3校のあそびバで実施した。他のあそびバでは自施設内でマニュアルの読み合わせや簡単なシミュレーションを行い、職員間での動きを確認した。
食物アレルギー自校研修	アナフィラキシー発症時と新規発症を想定し、エピペントレーナーを使用したシミュレーショントレーニングや慈恵第三病院へのホットラインの訓練等を実施した。

エ 職員研修の状況

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
あそびバ職員	児童館青少年課の業務について	5月7日 5月14日	児童青少年課	1人
あそびバ職員	子どもの心と身体を育てる運動発達支援	6月4日	子ども発達センター	3人
あそびバ職員 （固定・変動メインサポーター全体会）	固定メインサポーター全体会	6月28日	法人内部	12人
あそびバ職員	公的機関の職員が子どもとかわる際の基礎知識	7月12日	児童青少年課	2人
あそびバ職員	利用者の怪我対応（実技研修）	7月16日	児童青少年課	4人
あそびバ職員	児童館論	11月22日	児童青少年課	1人
あそびバ職員	発達段階における問題と関わりについて	12月3日	児童青少年課	3人
あそびバ職員	みんなで楽しむレクリエーション	1月17日	児童青少年課	2人
あそびバ職員	一人一人の子どもに合わせたコミュニケーション方法	1月30日	児童青少年課	5人
あそびバ職員	多様な子ども達の発達理解と対応	3月17日	児童青少年課	1人
あそびバ全職員	メンタルヘルスケア	12月16日	法人内部（外部講師）	50人
あそびバ職員 （変動メインサポーター・サポーター）	他施設実地研修	1月14日 1月16日 1月20日 1月22日 1月23日 1月27日	法人内部	12人

		1月28日 1月30日 2月10日 2月13日 2月14日 2月26日		
参加延べ人数合計				96人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
あそびバ職員	普通救命講習	6月13日	東京防災救急協会	8人
あそびバ職員	エビペン投与シミュレーション研修	6月19日 10月23日	児童青少年課	10人 4人
あそびバ全職員	食物アレルギー 自校研修（エビペン投与シミュレーション等）	7月4日 7月5日 7月8日 7月11日 11月15日	飛田給小学校あそびバ 石原小学校あそびバ 富士見台小学校あそびバ 多摩川小学校あそびバ 第三小学校あそびバ	9人 9人 8人 7人 8人
あそびバ全職員	不審者対応訓練	10月25日 11月12日 11月19日 11月21日 2月17日 2月25日	調布警察署（第三小あそびバ） 調布警察署（若葉川小あそびバ） 調布警察署（多摩川小あそびバ） 飛田給小あそびバ 富士見台小あそびバ 石原小あそびバ	8人 4人 8人 9人 9人 9人
参加延べ人数合計				110人

令和 6 度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告

発行日 令和 7 年 6 月

発 行 社会福祉法人東京かたばみ会

住 所 〒182-0015

東京都調布市八雲台 1-5-5

T E L 042-484-8551

F A X 042-484-8411

E-mail yagumoen@oregano.ocn.ne.jp

U R L <http://www.katabamikai.jp/>
